ISSN 2189-9517

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
要覧 2014

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 要覧 2014

Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2014

目　次

Ⅰ　高度教養教育・学生支援機構について

１．高度教養教育・学生支援機構長挨拶 …… １
２．高度教養教育・学生支援機構ビジョン …… ２
３．高度教養教育・学生支援機構の沿革 …… ４
４．高度教養教育・学生支援機構の組織
（１）組織構成図 …… ５
（２）運営部門 …… ６

Ⅱ　機構各組織の事業内容及び活動状況

１．部門・院
（１）高等教育開発部門 …… ７
（２）教育内容開発部門 …… ７
（３）学生支援開発部門 …… ９
（４）教養教育院 …… ９
２．業務センター
（１）教育評価分析センター …… １１
（２）大学教育支援センター …… １２
（３）入試センター …… １３
（４）言語・文化教育センター …… １４
（５）グローバルラーニングセンター …… １６
（６）学際融合教育推進センター …… １８
（７）学習支援センター …… １９
（８）キャリア支援センター …… ２１
（９）学生相談・特別支援センター …… ２３
（10）保健管理センター …… ２５
（11）課外・ボランティア活動支援センター …… ２７

Ⅲ　平成 26 年度の機構全体の活動

１．機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等 …… ３１
２．刊行物一覧 …… ３６
３．教員の活動 …… ３７

Ⅳ　資料編

１．統計データ …… ８１
２．財政 …… ８８
３．外部資金獲得状況 …… ８９
４．共同研究員受入状況 …… ８９
５．規程類
（１）東北大学高度教養教育・学生支援機構規程 …… ９０
（２）東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規 …… ９１
（３）東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規 …… ９３
（４）東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規 …… ９４
（５）東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規 …… ９４
（６）高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規 …… ９５
（７）高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規 …… ９６

Ⅰ　高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育･学生支援機構長挨拶

ここに「東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧 2014」をお届けする。本機構要覧の第 1 号である。

本学は，2014 年 4 月，高等教育開発推進センター，国際交流センター，国際教育院，グローバルラーニングセンター，教養教育院，高度イノベーション博士人財育成センターを統合し，新たに本高度教養教育・学生支援機構を設置した。本学は本機構を，高度教養教育・学生支援に関する調査研究，開発，企画，提言，および実施を一体的に行い，本学の教育の質的向上に寄与するための学内共同教育研究施設と位置づけて，国内外を見ても他に例のない革新的でチャレンジングな組織として設計し創設したのである。

本機構は，高大接続と入試，全学教育の開発と推進，高等教育国際化の推進，学生相談と学生支援，保健管理と健康指導，高等教育の研究と開発を行い，これらの成果を評価分析し，質的向上を図る各種の専門性開発活動を行う総合的な役割を果たすことがミッションである。また，高等教育推進の高いポテンシャルを有した組織とプログラムを統合し，新たな高等教育のモデル構築も目指している。さらに，高等教育のモデル構築の核心は，卓越性と多様性の追求であり，教育における卓越性の柱として，高度教養教育の開発と提供，多様性の柱として多様な学生のニーズに応える学生支援の開発と実施も行うこととしている。

本要覧は，第Ⅰ部から第Ⅳ部の 4 部構成となっている。第Ⅰ部では，機構のビジョン，沿革，組織体制について記述する。第Ⅱ部では，本機構は教員組織（3 部門 9 室，1 院）と 11 の業務センターのマトリクス構造をもつユニークな組織体制をとっているが，それぞれのミッション（使命）と事業内容や活動状況を記す。第Ⅲ部では，2014 年度の機構全体の活動状況を示す。ここには，所属教員個々人の活動状況も記される。第Ⅳ部は資料編で，統計的な資料，および本機構の規程類をまとめて示した。

本要覧は，言わば本機構の 2014 年度の足跡である。2014 年度は本機構が創設された年度であり，すべてが初めての経験で，構成員は手探り状態で歩んできたと言っても過言ではない。その足跡を，このような形で記録に留めることで，今後の本機構の運営の礎にし，一層充実した活動を目指したいと考えている。

また，本要覧が，本機構外の学内の方々はもちろんのこと，学外の方々にとって何がしかの参考になれば幸いである。さらには，本要覧が本機構構成員のますますの活性化につなげるためにも，本要覧をご覧になられた皆様方からのご批判やご意見を賜ればと願っている。

平成 27 年 12 月

高度教養教育・学生支援機構長　　花　輪　公　雄

2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン

【部局のミッション（基本理念・使命）】

○　高度教養教育・学生支援機構は，高度教養教育および学生支援に関する調査研究，企画および提言，並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより，東北大学の教育力を高め，世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としています。

【機能強化に向けた取組方針（～2017 年度）】

○　私たちは，基本理念を更に発展させるため，機構教職員の協力・連携を強め，高大接続からキャリア支援に至る学生の修学・自己開発・進路選択のプロセスを一貫して支援するというコンセプトの下に，研究開発と実践を進めます。

○　私たちは，知識基盤社会に対応して世界をリードする教養教育のビジョンを打ち出し，基礎教養教育から専門教育・高度教養教育へと至る教育の体系化を進め，学部・研究科・研究所および教育研究支援組織と協力して，その実現に貢献します。

○私たちは，留学生の戦略的受入れと海外研鑽プログラムの充実等に努め東北大学のグローバルな修学環境の整備・充実に中心的な役割を果たします。

○　私たちは，教育から学習へという大きな大学教育観の転換を踏まえ，高大連携，初年次教育，学習支援など多様な教育・学習のツール開発と，総合的にこれらを推進する教員個人，科目レベル，機関レベルの教育・学習マネジメントの研究開発を進め，東北大学における教育マネジメントの強化に寄与し，教職員個人の能力を高めることに貢献し，世界的な研究総合大学の教育拠点の形成に寄与します。

【重点戦略・展開施策】

1.グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

環境・安全保障・エネルギー・民族紛争など現代社会が抱えるグローバルな諸問題を解決する人材を育成するためには，高い専門性と分野を超えた全球的鳥瞰力を備え，生涯にわたって主体的に学び続ける人材像を明確にし，その能力を培う教育内容・方法およびシステムの全面的な改革と転換が必要です。正課教育のみならず，学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化が求められます。外部資金の獲得・活用も含め，世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を推進します。

2.実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

本機構（旧高等教育開発推進センター）が開発し，既に具体的な成果を上げつつある英語「多読」授業や e-learning の指導法と評価方法を更に進展させ，リーディング力やリスニング力養成とともに，発音指導やスピーキング指導をも視野に入れた CALL 教育の教材と指導法を開発します。4 技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進します。

3.現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

幅広い教養や専門教育のための基礎教育としての全学教育に加え，ディシプリンにとらわれることのない意識を育み，多次元的な視野を育成するための科学教育を推進し，「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展，専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育，社会全体を支え，発展させてきたアスリート，芸術家，職人などによる多様な「実践知」を加え，これらの多様な「知」を大学教育の場面に導入し，学生の世界観と認識を深化させる新たな高度教養教育を開発・推進します。

4.多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し，自国文化を見直し，国際社会において共生・共存する生き方を身に付けることとともに，人類社会を支える普遍的な価値観を育て，共有する学生を育てます。多様な国際共修の取組を基に，日本を近現代アジアの中に位置付けた歴史像の構築と教材化など内容開発を進め，英語による授業を提供するなど，各大学での共通の指針となるような取組を進めます。異文化理解，外国語能力の更なる涵養を目指して，本機構の外国語教員の専門性を活かした「外国語による教養科目の授業」の開講を全学教育開講科目類・群を対象として進めます。

5.留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

国境を越えた学生交流を進めるため，本学の教育国際交流戦略を策定し，留学生の受入れの促進のため多様で魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させます。また，グローバル化した時代における教育カリキュラムと連動した質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し，学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させます。

6.自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生支援の推進

社会における自分の役割を模索し，道徳的価値観を形成し，職業準備を行い，アィデンティティを確立する青年後期の課題に対応し，心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的学生支援を推進します。そのために，①心身発達と自己像の形成支援（キャリア教育，メンタルヘルスケア，生活習慣の指導，課外・ボランティア活動），②基本的健康管理（定期健康診断，特殊健康診断），③グローバルな視点からの感染管理（結核，鳥インフルエンザ等），④学生が対峙する危機への介入と支援（学生相談），⑤特別支援を要する学生への援助（発達障害・身体障害，留学生等への支援），⑥自分の将来像の構築への支援（キャリア支援）の諸支援を総合し，全学連携的な支援体制の構築と推進を行います。

7.東北大学型AO入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

大学入試システムでは，①社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発，②実施負担の抑制・軽減，③高等学校教育，入学後の専門分野，卒後の職業キャリアへと連なる合理的接続を保証するため，入学者の人物，能力の評価，試験方法の公平性，公正性，追跡調査による効果実証を進めます。また，青年前期の人間性，素質・能力，将来の可能性など「柔らかい」特徴把握を，理論と実践両面からの研究・試行によって進め，諸外国の多様な方法論の調査・検討，先端的な心理学的測定法の応用，人格の深いレベルでの評価を含む縦断的調査研究を実施し，高等学校や他大学との共同研究行い，東北大学のコア・アイデンティティを担っている人々との協働の取組を，機構および各部局（学部・大学院）との協力によって推進します。

8.教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

教育関係共同利用拠点として，研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を，大学院生・新任教員・中堅教員・シニア教員など各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援，および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進します。

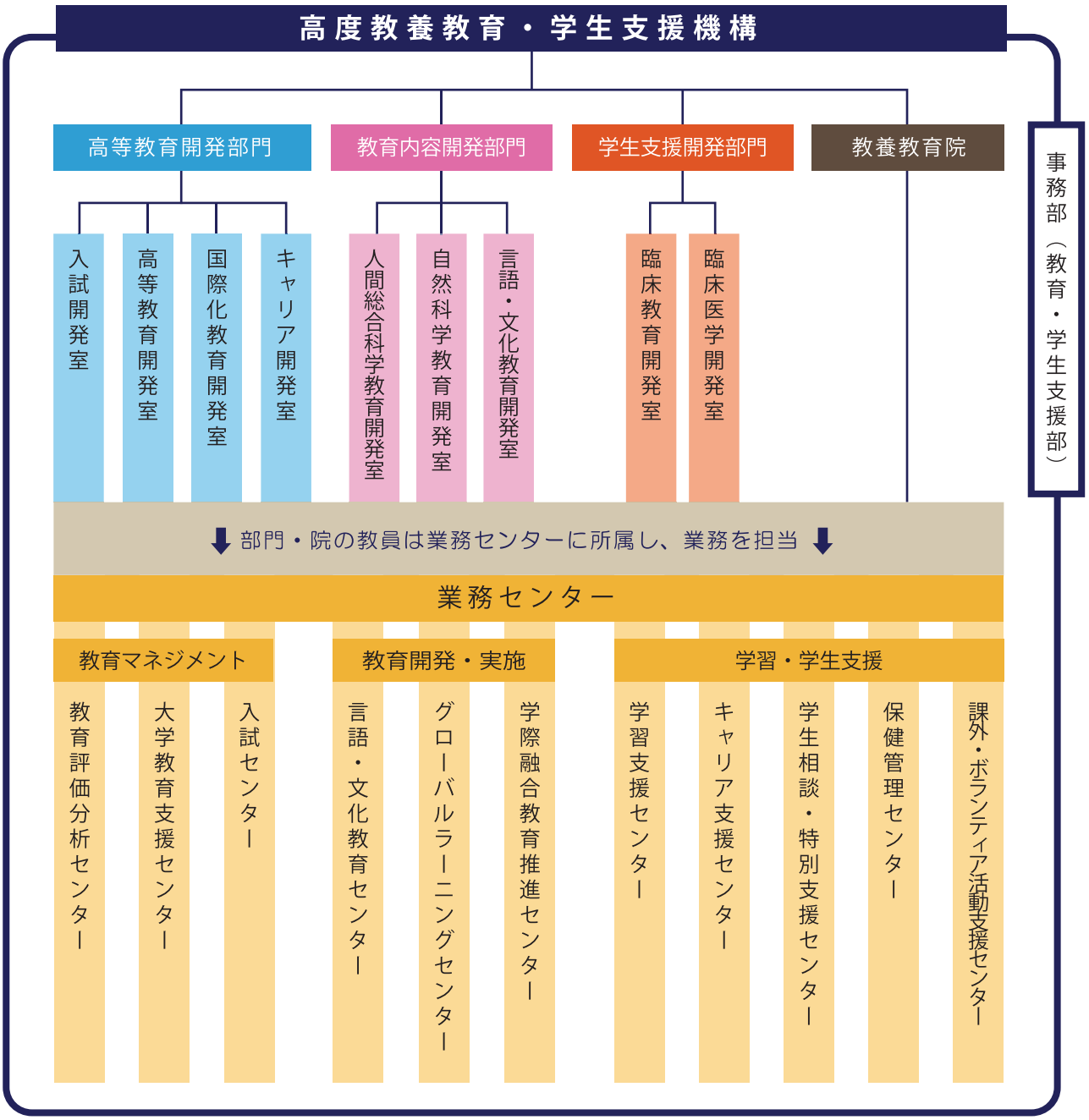
また，東北大学をはじめとする日本の大学における教育・学習マネジメントの強化を通じて，グローバル化に対応した日本の高等教育の構築に寄与します。特に，世界水準の大学教育を推進するために，アカデミック・リーダーの専門性を高めるプログラムを開発・試行します。

3. 高度教養教育･学生支援機構の沿革

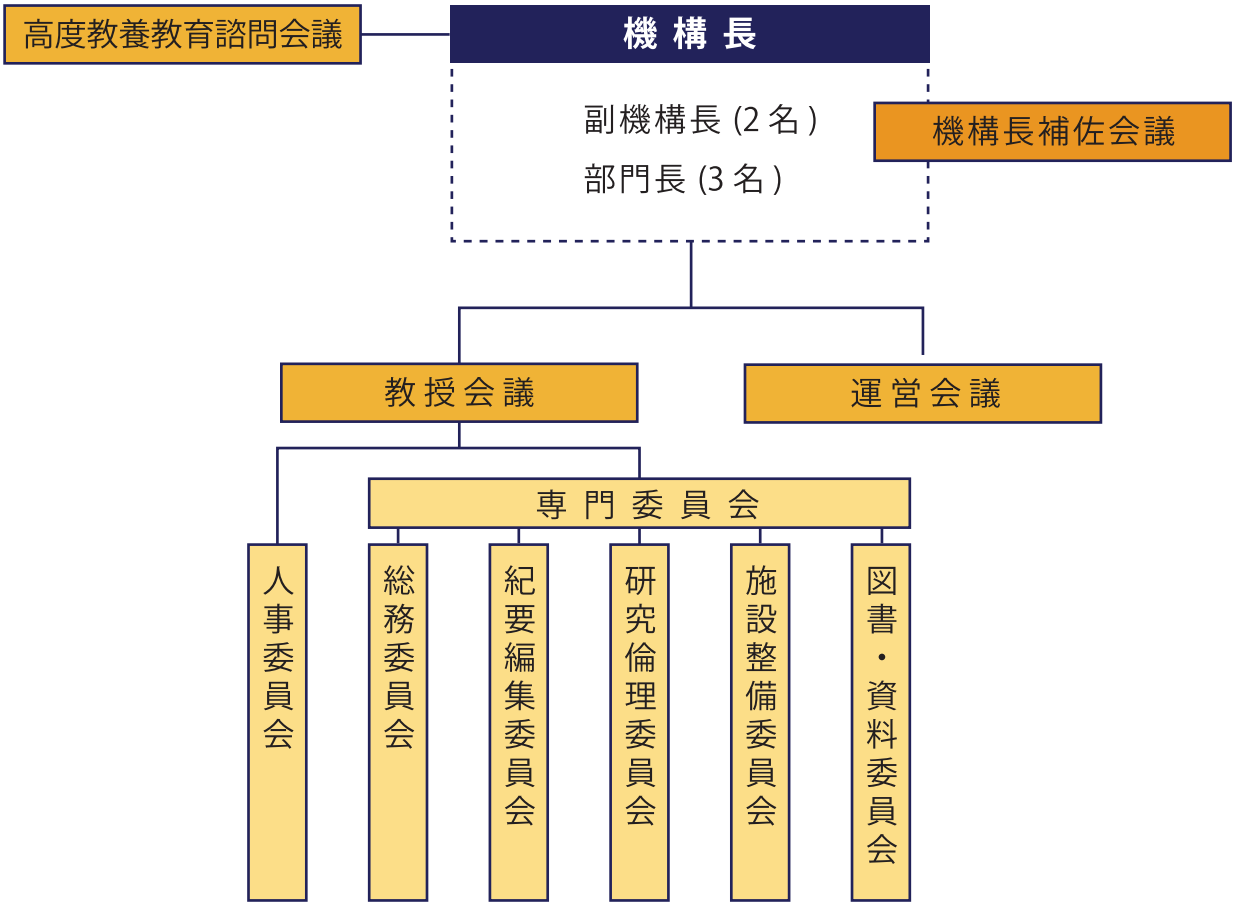
昭和 31 年 6 月	学生相談所設置。
昭和 44 年 6 月	保健管理センター設置。
平成 5 年 4 月	大学教育研究センター設置。
	留学生センター設置。
平成 11 年 4 月	アドミッションセンター設置。
平成 13 年 4 月	情報シナジーセンター設置。
平成 16 年 10 月	高等教育開発推進センター設置。アドミッションセンター，大学教育研究センター，保健管理センター，学生相談所，情報シナジーセンター情報教育研究部，留学生センター（一部）を改組･統合。
平成 17 年 4 月	アドミッションセンターを入試センターに改称。
平成 17 年 4 月	留学生センターを国際交流センターに改組。
平成 20 年 4 月	教養教育院設置。
平成 21 年 7 月	高度イノベーション博士人財育成センター設置。
平成 21 年 11 月	国際教育院設置。
平成 26 年 4 月	**高度教養教育・学生支援機構設置。**高等教育開発推進センター，国際交流センター，国際教育院，グローバルラーニングセンター，教養教育院，高度イノベーション博士人財育成センターを改組・統合。
	花輪公雄理事（教育・学生支援・教育国際交流担当）が初代機構長に就任。
平成 26 年 7 月	機構発足記念シンポジウム「21 世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」開催。
平成 26 年 8 月	文部科学省より，「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点－大学教員のキャリア成長を支える日本版ＳｏＴＬの開発」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 27 年度）。
平成 27 年 3 月	『高度教養教育・学生支援機構紀要』創刊。

4. 高度教養教育・学生支援機構の組織

(1)組織構成図



（2）運営部門


高度教養教育諮問会議
機 構 長
副機構長 (2 名)
部門長 (3 名)
機構長補佐会議
教 授 会 議
運 営 会 議
専 門 委 員 会
人事委員会
総務委員会
紀要編集委員会
研究倫理委員会
施設整備委員会
図書・資料委員会

Ⅱ　機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院

(1)高等教育開発部門

高等教育開発部門は，入試開発室，高等教育開発室，国際化教育開発室とキャリア開発室から成り，高大接続・入試の研究，教育・学習活動の研究，大学教員研究，国際化教育研究，キャリア開発研究などの高等教育に関する調査研究を行っている。これらの研究成果をもとに，各教員はそれぞれ業務センターに所属し，本学における教育の質の向上と国際化に資する多彩な活動を展開している。

入試開発室

入試開発室は，業務センターである入試センターと一体的に，東北大学の入試改善に関わる調査研究，入試全般に関する研究，入試広報および高大連携の企画・実施，AO 入試・一般入試の企画・コンサルテーションおよび実施などの活動を行っている。

高等教育開発室

高等教育開発室は，①高等教育に関する政策・実践等の調査・研究，②東北大学における教育内容・方法，教育マネジメント，学習支援等に関する調査・研究・提案，③教育改善に資する教職員専門性開発の企画・実施の 3 つを柱に活動を推進している。高等教育開発室所属の教員は，教育評価分析センター，大学教育支援センター，学際融合教育推進センター，学習支援センターに所属し，その専門や適性に応じて，各センターが取り組む各種の業務やプロジェクトを推進している。

国際化教育開発室

国際化教育開発室は，グローバルラーニングセンターと一体となり，国際教育，異文化間教育，高等教育の国際化施策，多文化共生，留学生支援，国際キャリア教育，異文化適応，言語教育等の，グローバル人材育成に関連した研究活動と，海外派遣・受入留学プログラムの開発・実践，国際教育カリキュラムと国際共修科目の開発・改善，日本人学生を含む国際学生への教育・支援の充実化などの教育活動を両輪とし，幅広い活動を展開している。

キャリア開発室

キャリア開発室は，キャリア支援センターと一体となり，キャリア，キャリア形成支援に関連する調査・研究，プログラム開発を推進している。教育面では，正課教育として全学教育でキャリア教育科目を開講するとともに，正課外で全学学生を対象とした各種の進路・就職支援プログラムや個別相談等も実施している。

(2)教育内容開発部門

教育内容開発部門は，人間総合科学教育開発室，自然科学教育開発室，言語・文化教育開発室の 3 室から構成される組織であり，東北大学の教養教育の根幹を担う部門である。全学教育授業を実践するとともに，各室・部門間および業務センター等との連携により，教育プログラムやカリキュラムの調査，企画，開発，教育環境整備等を含む“高度教養教育の開発と実践”にあたる。

人間総合科学教育開発室

人間総合科学教育開発室は，歴史学を中心とした人文科学と運動生理学との観点から，以下のような研究・教育を行っている。

［1］人文・社会科学系教養教育に関する調査・研究・実践

①ユーラシア大陸におけるヘレニズム文明の美術考古学的研究。中央アジアのウズベキスタン共和国における

ギリシア・クシャン系都市カンピール・テパの発掘調査。西洋中心史観，中華史観等に囚われないユーラシア大陸からみた相対的史観の研究と教育。

②国際的な現代社会における経済学・経営学の観点からの研究と教育。

③日本近世における儀礼・年中行事の政治文化史的研究。自校史教育の比較研究とその実践。

④日本近世における兵学に関する政治思想史的研究。日本思想史の視点を生かした，特に知識人と政治の関係を軸にした東北大学史の研究と教育。

［２］人文・社会科学系教養教育に関する教育活動およびカリキュラム開発

全学教育科目「芸術の世界」「人間と文化」「歴史と人間社会」「歴史学」「基礎ゼミ」「展開ゼミ」等の授業を担当。

［３］運動生理学の観点からの研究

東北大学におけるスポーツ科学の目標は人生の生活基盤を形成する一助となることである。近年はストレス社会であり，在学中も卒業後も身体の健康はもちろん精神の健康維持も重要な課題である。スポーツ科学教育室では身体の健康の維持増進と「こころ」の健康との関連に注目し研究を行っている。この研究は毎日少しでも，またできる範囲で運動を継続することの意味を検証するものである。東日本大震災において被災された方々の「こころ」の健康の維持にも役立てたい。

［４］運動生理学の研究成果の授業への展開

全学教育科目「生命と自然」「基礎ゼミ」「展開ゼミ」「スポーツＡ」「スポーツＢ」「体と健康」等の授業を担当。

自然科学教育開発室

自然科学教育開発室は，全学教育科目において理科実験科目を担当するユニットと自然科学系科目（英語クラス）を担当するユニットからなる。

「自然科学総合実験」（平成 16 年度開講）は，理系初年次学生約 1,700 名を対象とした必修の理科実験科目であり，自然科学専門分野（物理，化学，生物，地学）を融合させたタイプ（融合型実験）の実験科目として，自然科学の学び方を知り，多次元的な視点で物事を捉えることができるように設計された。平成 19 年度からは新たに文科系初年次学生を対象とした理科実験科目「文科系のための自然科学総合実験」を開講した。本室教員は，実験科目の企画，教材作成，実験機材や設備を含む教育環境の整備と保守管理，授業の実施・支援，レポート指導，履修指導，成績評価，セメスタごとの実践的 FD 活動および独自のアンケート調査など，中心的な役割を果たしている。また，出席･成績情報システムの開発により，受講者の出欠，レポート提出状況，成績状況等を容易に把握することができ，それを履修指導にフィードバックさせ，学生相談所，保健管理センター，教育・学生支援部や学部の教育支援室等との協力体制のもとに学生支援を行っていることも特徴である。

東北大学におけるグローバル教育推進のため，３つの学士課程の英語コース（全学教育科目を含む）が平成 23 年度に開設されたが，本室教員は，自然科学系ディシプリンに含まれる多種多数の基礎教育プログラムの企画，開発，実施，改善活動を行っている。また，諸外国における「留学生フェア」等にも参加して積極的な広報活動も務め，東北大学の教育研究の認知度アップにも貢献しながら，本学の教育の国際化に貢献している。

言語･文化教育開発室

言語・文化教育開発室は，語学教育に関する教授法の研究および実態調査を行うとともに，全学教育を中心に本学の語学授業に関わる学習環境を整備し，カリキュラムの開発・設計・実施，CALL 語学演習施設を活用した学生の自学自習支援等に関して各種提案を行うことを主たる使命・目標とする。外国語科目では，英語，ドイツ語，フランス語，スペイン語，中国語，朝鮮語を担当し，「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能の運用能力を高めるだけでなく，外国語圏の社会・文化・歴史の学習を通して多言語・多文化間の相互理解を深めることを目指した教育を実践する。日本語科目では，全学の各部局に在籍する留学生や外国人研究者を対象として，それぞれの専門課程において要求されるより高度な日本語運用能力を育成するとともに，日本人学生との共修授業等を通じて日本文化への理解を促進することを目指す。

(3)学生支援開発部門

本部門は，臨床教育開発室と臨床医学開発室から構成され，所属する教員はそれぞれ学生相談・特別支援センター，保健管理センターでの業務を主に担当している。大学生活のなかで経験する身体的，精神的問題，種々の悩みなど問題を抱えている学生への個別カウンセリングや，ハラスメント等の問題解決に向けての支援，身体障害・発達障害を持つ学生の支援の実践とともに，その環境整備を進め，臨床教育および臨床医学関係の教育・研究を行っていく部門である。

臨床教育開発室

臨床教育開発室は，主に学生相談・特別支援センターの業務を担当する教員によって構成され，「学生が本学での経験から最大限の利益をひきだすことができるよう，学生及び大学コミュニティへの支援を行うこと」を使命および目標として，学生相談・援助活動の充実に努め，大学生活のなかで問題を抱えている学生へのカウンセリングや身体障害・発達障害を持つ学生の支援活動及びその環境整備を進めている。

臨床医学開発室

臨床医学開発室は，保健管理センターと一体的に，健康相談，診療，定期健康診断・特殊健康診断とその事後処置，栄養相談に加え，健康科学セミナーの開催，健康のしおりなどの健康リーフレットの発行などを行っており，保健管理センターで得られた健康情報を解析し有効な保健対策を企画，立案及び学生の健康を脅かす疾患の病因・病態の研究及び治療法の開発を行っている。

(4)教養教育院

教養教育院は，教養教育充実の方策の一つとして平成 20 年 4 月に設置され，平成 26 年 4 月に本機構に統合された。本院は，総長特命教授と教養教育特任教員で構成されている。教養教育の中でもとりわけ重要な初年次教育において，学生の学びへのモチベーションを高める授業を創り出し，教養教育改革の先導的な役割を果たしている。また，教養教育特別セミナーの共催，総長特命教授合同講義の実施を通じて，通常の授業とは違った機会を学生に提供している。主な活動・取組は以下のとおりである。

①基礎ゼミクラスの担当

高校までの「受験勉強中心の学び」から「自ら探究する大学での学び」への転換を目的に，初年次学生全員が受講する学部横断型少人数科目（基礎ゼミ）が毎年約 160 コマ開講されており，総長特命教授はそれぞれ 2 クラス（各クラス 20～25 名）を担当している。「研究をするには何が必要か」，「大学に入学した段階でまず何をしなければならないのか」，そうした疑問に対して，学生とのコミュニケーションを密にし，グループによる課題研究・調査，図書館・インターネットによる情報収集，現場の見学，レポート作成，発表，討論を通じて学生たちが自ら答えが出せるように支援している。

②全学教育（基幹科目・総合科目・語学教育）での新たな試み

初年次・2 年次学生を対象にして行われる全学教育は，基幹科目（人間論，社会論，自然論），展開科目（理科実験，カレントトピックス科目，総合科目等），共通科目（基礎ゼミ，外国語科目，情報科目，保健体育科目）で構成されている。教養教育院の特命教授と特任教員は得意分野の科目を担当し，授業を活性化させるためのさまざまな試みを行っている。

③教養教育への理解を深める

毎年，教養教育をテーマにしたセミナーや合同講義を企画しており，「教養教育とは何か」について教員と学生が語り合うことにより，学生たちにとっては教養教育の中で自分自身の知性を高めることがいかに重要かを知る，また教員たちにとっては教養教育を考え深化させるよい機会となっている。

④小冊子『読書の年輪』の発行

初年次学生が「大学での学び」を始める上で一つのガイドブックとなる『読書の年輪～研究と講義への案内』を毎年刊行しており，教養教育院特命教授が，自らの教育・研究活動の経験を基に，大学での学びや生活に役立つ本を各自が 6 冊選び，内容を紹介している。

⑤教養教育への提言

教養教育院の院長（教育担当理事）が主催する教養教育院懇談会（年 4 回開催）や総長との懇談会の機会に，自らの教養教育での実践に基づいた意見を述べ，東北大学の教養教育改革に寄与している。

2. 業務センター

(1)教育評価分析センター

使命

（1）国内外の高等教育動向および実践に関する調査研究を実施し，教育および学習に関する評価の理論を発展させ，その成果を国際的に発信する。

（2）本学の教育学習活動に係る意思決定に資するデータ収集・分析・提供のための効果的システムの開発・運用を通して，本学における持続的な教育改革・改善や学生の幅広い学習活動の実現を支援する。

（3）学務審議会，教育改革推進本部，高度教養教育・学生支援機構（業務センター），各部局，事務組織の有機的連携に基づく一体的な教育マネジメント体制の確立に寄与する。

事業内容及び活動状況

（1）本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データ収集システム（授業評価アンケート，成績評価・GPA 実施状況，学務情報システムとの連動）を整備する。

本年度の実績として，学務情報システムから 2012 年度卒業者の成績情報の提供を受け，当該学生を対象とした「第 1 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」（以下，第 1 回卒業時調査）の結果と結びつけた分析を行った。

全学教育科目の授業評価アンケートは，平成 25 年度実施分より学籍番号を記入してもらう方式に変更したが，現状では学務情報との連動について未着手で，評価項目間の関連分析には今後取り組む予定である。

ただし，授業評価と成績評価の状況については，半期に一度，教育情報・評価改善委員会の委員を務める本センター教員が簡単な解説文書を作成しており，今後はローデータの定期的な提供を全学教育企画係にお願いすることにしている。

（2）新入生調査，卒業時調査，学習経験調査（学士課程レベル，大学院課程レベル），卒業生調査，学生生活調査，雇用者調査，教職員調査の体系的な設計・実施・分析を通して，東北大学における教育の効果点検・質向上を推進する。

各種調査を学務審議会等と連携しつつ実施する予定年度について検討を行い，それぞれの調査実施に関する長期計画を作成した。この調査実施計画に従い，平成 26 年度に計画された「第 2 回東北大学の教育と学修成果に関する調査」の実施体制やデータ利用について，調査企画への参加や結果の活用等をめぐる部局の意向を調査した。その結果，調査票の設計段階からの参画表明を行った理学研究科の関係者を含めて当センター教員が中心となり調査の企画と調査票設計を行い，平成 27 年 2～3 月にかけて，学務審議会がその卒業時・修了時調査を実施した。また，過去に実施した調査結果を教育改善に効果的に結びつけていく手法や方策について，現在，各部局との連携の在り方も含めての検討を進めている。

（3）本学の教育学習活動に係るデータの収集・分析・提供を行うシステムの開発・運用を通して，本学における効果的な意思決定および教育マネジメントを支援する

本学における意思決定や教育マネジメントの支援に向けては，今後学務審議会（教育情報・評価改善委員会，各科目委員会）や部局との連携を図っていく必要がある。特に部局との連携に向けては，本センターのキックオフセミナーとして，平成 26 年 9 月 10 日に「学修成果検証に基づく教育マネジメントの推進と課題」を企画・開催し，第 1 回卒業時調査の分析結果や北大での学修成果検証の取組みに加え，本学工学教育院及び理学部物理系での取組みについても報告を行った。

本学の教育学習に関する効果的な意思決定やマネジメントを支援するため，今後もこうした学内外の優良事例（グッド・プラクティス）の収集と普及を推進していくことにしている。

(2)大学教育支援センター

使命

（1）国際的な連携を基盤に，大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するための調査研究を行い，その成果に基づくプログラムを開発し，教育関係共同利用拠点として成果を積極的に学内外へ発信し，日本全体の大学教育改革の推進に寄与する。

（2）学際融合教育センターと協働した探求型学習や学際融合プログラムの開発，言語・文化教育センター，グローバルラーニングセンターはじめ，各業務センター及び学内部局・教職員と連携した各種専門性開発活動を行い，全学的な教育改革の推進に寄与する。

（3）教育マネジメントを担う教職員の職能開発プログラムを開発・提供し，教育マネジメントの向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

（1）学習効果を高め，教養ある専門人材を育成する大学教育内容・方法，大学教職員のキャリア開発のための調査研究の推進

「知識基盤社会におけるアカデミック・インテグリティ保証に関する国際比較研究」（科学研究費基盤研究 B，2011~2013）の成果を取りまとめ，『高等教育ライブラリ 9　研究倫理の確立を目指して - 国際動向と日本の課題 - 』（東北大学出版会，2015 年 3 月）を刊行した。引き続き，「グローバル社会におけるコンピテンシ―を具体化する高度教養教育の開発研究」（科学研究費基盤研究 A，2014~2017）に参加し，機構内外の研究者と連携して教育内容開発に結び付くよう研究を進めている。

（2）教員のキャリアステージに対応した各種の専門性開発プログラムの開発と提供

平成 26 年度のプログラムについて，4 ゾーンに 47 のプログラムを企画，実施し，計 1,888 名が参加した。

（3）国際連携を活用し，大学教員を目指す大学院生のための大学教員準備プログラムの開発と提供

昨年度に引き続き，PFFP（大学教員準備プログラム）は UC バークレーと協議し，5 人の院生及び 2 名の教員受け入れの契約を結び，平成 27 年 2 月 24 日～3 月 5 日に一週間プログラムを実施した。また，NFP（新任教員プログラム）の国内合宿セミナーは 2 泊 3 日間プログラムをメルボルン大学と契約を結んで実施しており，PFFP 開発にも反映している。

（4）教育マネジメントリーダーを育成する教育マネジメントプログラム（履修証明プログラム）の実施

昨年度開始した大学教育人材育成プログラムを継続し，履修者 8 名は全員順調にプログラムをこなし，全員に履修証明を付与した。

（5）各業務センター及び学内部局及び教職員と連携した専門性開発のための諸活動と組織文化の醸成

学際融合教育推進センターと共催でセミナー2 回，学生相談・特別支援センターと共催でセミナー1 回開催，学習支援センターと共催でセミナー1 回開催，言語・文化教育センターと共催でセミナー2 回，キャリア支援センターと共催でセミナー2 回開催の計 8 回開催した。部局との連携は，昨年度学内公募を行った大学教育力開発「高度教養教育」事業において，医学系・医工学・工学の 3 件が継続して開発を行っている。

（6）高度教養教育・学生支援機構に係る教育関係の共同利用に関する業務

分野別に提供する PD セミナー，キャリア別に構成された PFFP（大学教員準備プログラム），NFP（新任教員プログラム），EMLP（履修証明プログラム「大学教育人材育成プログラム」），SDP（大学職員能力開発プログラム）として体系的に企画・実施し，学内および国内にも広く開かれており，日本の大学教職員の専門性能力開発に寄与している。

（3）入試センター

使命

全学的な各種入試関係委員会との連携のもとに，本学入試の中長期的な企画や改善検討を行うとともに，大学入試センター試験や一般入試をはじめとする入試業務を中核的に担い，また入試広報活動や高大接続・連携事業を企画実施する。これらの活動を通じて，本学アドミッションポリシーに合致した優秀な学生の獲得に貢献する。

事業内容及び活動状況

（1）本学入試の中長期的な企画・改善検討（入試企画・広報委員会における検討，本学入試・国内外入試の調査研究，追跡調査，受験者・入学者へのアンケート，入試情報の提供，部局への助言・コンサルテーション，国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換）

- 入試企画・広報委員会にワーキンググループを置き，広報関連の検討，国際バカロレア資格活用入試の検討，入試結果の情報開示の検討を行った。
- 入学者へのアンケートの例年通り行い，入学者の動向を分析。回収率は 99%
- 各学部に過去 5 年分の入試区分別のセンター試験結果の詳細を提供
- 国大協入試委員会や入研協等の外部組織開催の会議に参加し，他大学との連携・情報交換を行った。
- 国大協の入試改革議論入試委員長＝里見総長）へ参与
- 大学院入試と学部編入学入試の対応指針の作成

（2）入学者選抜の実施（入試実施本部，入試実施委員会構成員）

- 入試実施本部
- 入試実施委員会委員および入試企画広報委員会委員
- AO 入試Ⅱ期実施(志願者 578 人，合格者 201 人)
- 科学オリンピック入試実施(志願者 3 人，合格者 2 人)
- AO 入試Ⅲ期実施(志願者 750 人，合格者 281 人)
- 一般入試（前期日程）実施（志願者 4,908 人，合格者 1,999 人）
- 一般入試（後期日程）実施（志願者 1,480 人，合格者 125 人）

（3）入試広報活動（高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催，高校等主催の説明会・相談会への参加，高校訪問・高校教員との懇談会，冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供，学内への情報提供）

- 入試説明会(高校教員対象)を全国 18 会場にて実施　参加者 480 人
- 進学説明会(受験生・父兄対象)を 3 会場（札幌，東京，大阪）にて実施　参加者 1,147 人
- 高校等主催の入試説明会・相談会に講師を派遣　104 件
- 高校の大学見学の対応　32 件
- 民間業者等開催の説明会（高校教員との懇談会含む）　13 件
- 入試センター教員が行う高校訪問　16 校
- 東北大学案内の作成　80,000 部発行
- 入試センターウェブサイトによる情報の発信

（4）高大接続・連携事業（フォーラム開催，アウトリーチプログラム，出前事業等の企画・学部支援，オープンキャンパスの企画開催・全学支援）

- 第 20 回高等教育フォーラム（5 月 16 日）「グローバル人材育成」参加者 171 人
- オープンキャンパス（7 月 30，31 日）参加者 55,147 人
- アウトリーチプログラム（11 月 12 日）参加者弘前高校等生徒 140 人

(4)言語・文化教育センター

使命

大学教養教育の基盤として広義のコミュニケーション能力獲得と多文化理解は重要な使命であり，自分の母語のみに限定されない総合的な言語運用能力を基盤として，幅広い価値観と世界観を涵養することは国際的なリーダーシップ力の育成にとって不可欠である。豊かな言語活動を実質化させるためには，言語 4 技能「聞く・話す・読む・書く」の総合力を備えた実践的運用能力の養成が不可欠であり，本センターは，国内外の高等教育機関における言語教授法と言語文化教育カリキュラム編成の在り方に関する調査研究を推進し実践するとともに，具体的かつ実行可能な言語文化教育改善のための提言を行い学生教育に反映することによって，言語文化に関わる教養教育の高度化と更なる発展に寄与することを使命とする。

事業内容及び活動状況

（1）全学教育「外国語科目」・「日本語科目」および高年次用英語教育カリキュラムを学務審議会との連携のもと企画・開発し，運営する。

○ 全学教育「外国語科目」および「日本語科目」においては，学務審議会科目委員会とも連携をし，実施方法やシラバスの見直しを進めている。また一部外国語において展開科目として高年次教育への継続を図っている。

○ 英語教育では「多読」や e-learning を活用した授業方法の開発と実践を進めている。

○ 初修語教育では，検定試験対策を目的とした授業の開設（スペイン語，DELE 対策）や外国人留学生との定期的な交流の実施（中国語，韓国語）など，学生の海外留学などへの対応，実践的言語運用能力の強化や異文化理解の促進などについて幅広い事業を展開しつつある。

○ 今後も引き続き，全学教育から高年次教育につながる語学教育の中心的な役割を担っていく体制を構築する。

○ロシア交流推進室及びグローバルラーニングセンターと連携し，日露学生の交流を促進するための派遣・受け入れプログラムを開発し，実践している。平成 26 年度冬から日露短期研修プログラム TUCPR（Tohoku University Cross-Cultural Program with Russia）を開発し，東北大生 10 名，ノボシビルスク大生 10 名の派遣・受け入れを行った。

（2）全学留学生対象「日本語教育プログラム」をグローバルラーニングセンターと連携して企画・開発し，運営する。

○ 外国人留学生等特別課程を企画・運営，のべ約 700 名が受講している。

○ 外国人留学生日本語研修コースおよび日韓共同理工系学部留学生プログラム（定員：各学期合わせて 30 名）の研修生の教育指導を担当している。

○ グローバルラーニングセンターと連携して国際共修ゼミを開講し，国際理解教育を推進している。平成 26 年度は，外国人留学生等特別課程との合同開講による国際共修ゼミを 25 クラス開講した。

（3）e-learning 環境を改善し，コミュニケーション能力育成のための学習コンテンツを開発する。

○ 平成 26 年度に CALL システムの大幅な機種変更が行われ，機能強化が図られたところである。英語だけでなく，初修語における e-learning 環境整備についても検討を開始している。

（4）外国語教育研究の成果に基づいて，多読，多聴，速読，CALL 教育等の外国語教授法を改善・開発し，実践する。

○ 「多読」授業を担当するクラスを増やすよう英語部会とともに検討を進めるとともに，改装された図書館の Learning Commons に設置している多読用図書の増冊を進めている。

（5）教育評価分析センターおよび大学教育支援センターと連携し，言語文化教育に携わる教員の教育能力を向上させるためのプログラム開発を推進する。

○ 平成 26 年度では，各センターと連携をして語学教育に関するセミナーを開催した。
　大学教育支援センターと共同で 9 月に「グローバル時代の英語教育－高大 5 年間で伸ばす英語運用能力－」を開催し，さらに 10 月には言語・文化教育センター設立記念セミナー「グローバル時代における外国語教育の新たな可能性」を実施した。ともに外部からも多数参加し(参加者は両セミナーとも 70 名強)，これからの大学における言語教育や高大接続も視野に入れ継続的な語学学習指導のあり方について検討された。

（6）グローバルラーニングセンターと連携し，海外派遣留学プログラム，外国語・コミュニケーション能力教育プログラムの充実化を図る。

○ グローバルラーニングセンターと協力し，平成 26 年度の夏から韓国のソウル大学と短期海外研修スタディアブロードプログラム（SAP）を実施するなど Native 教員を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。また，SAP プログラムの支援活動として，グローバルラーニングセンターと米カリフォルニア大学リバーサイド校との共同開発で，「留学準備実践」を開講実施した。
○ 全学教育と，Practical English Skills，グローバルラーニングセンターでの特別講座など英語教育活動への協力と推進を図っている。

(5)グローバルラーニングセンター

使命

東北大学の教育国際化戦略の策定・実行と国際交流活動の推進に中心的な役割を果たす。優秀な留学生の戦略的受け入れ推進と教育・支援プログラムの開発・充実及び多様な海外派遣プログラムの開発・実施，教育の国際化の推進等の実践的活動を通じて，国際的な視野を持ち指導的な役割を果たすグローバル人材の育成に大きく貢献する。また，学内外の連携を強化し，グローバルキャンパス構築に寄与するとともに，広報活動や社会連携を推し進める。

事業内容及び活動状況

（1）教育国際戦略の策定・実行のために，国内外における高等教育関連の情報収集，本学の国際競争力やネットワークの拡大を目指した発展的な戦略の策定および大学執行部・他部局への情報提供・提言を行う。学術間交流協定校をはじめとする世界各国の有力校との関係構築・強化・連携を強め，国際戦略に基づいた国際交流活動を実施する。

平成 26 年度文科省「スーパーグローバル大学創成支援」事業申請に当たり，グローバルラーニングセンターの教員が申請書作成に重要な貢献をした。特に，本学の構想の中核の一つをなすグローバル教育基盤整備に関して，グローバルラーニングセンターが構想及び実施にあたり中心的な役割を果たしている。

教育に力点を置いた大学間学術交流協定(教育国際交流協定)の制度を創設し，高度教養教育・学生支援機構が世話部局となり大学間協定と同等の協定として進めることができるように整備した。この制度を利用し，ノースカロライナ大学シャーロット校をはじめとして北米地域での学生交流の提携先を開拓している。

（2）優秀な留学生を獲得するため，多様で魅力的な国際プログラムを開発し，支援を行う。また，留学生支援（学業・生活支援，就職支援，危機管理，相談等）を充実する。

国際教育院がこれまで担当してきた英語による学士課程留学生プログラム「国際学士コース」の運営や全学教育の実施等を改組後引き続きグローバルラーニングセンターが行ってきた。また，JYPE や IPLA プログラム等の英語で教授する交換留学生の受入プログラムについて，留学生課と協力してグローバルラーニングセンターが運営の中核的役割を果たしている。IPLA プログラムにおいては，今年度からグローバルラーニングセンターの教員が受入の際の担任となっている。理系大学院生を対象にして COLABS プログラムを実施し，世界から優秀な大学院生を本学の先端的な研究環境に交換留学生を受け入れている。グローバルラーニングセンターはこのプログラムのとりまとめを行うと同時にこれらの留学生に対しフィールドトリップや各種イベントを実施し日本および大学への適応支援を実施している。また，理系・文系それぞれにおいて協定校からの学生を受け入れるサマープログラムを実施している。

これらのプログラムにおいて，グローバルラーニングセンターの教員が留学生に対する学業や生活上での支援や相談業務を行っている。また，本学学生による支援団体を統括し，学生による留学生支援の拡大を図っている。学生相談所での対留学生相談に通訳として教員を派遣するなど機構内の組織との連携も図っている。経済支援については，グローバルラーニングセンターが中心となって JASSO への奨学金の申請を行い，それを留学生の経済支援に充てている。

さらに，キャリア支援センターに協力して留学生に対する就職説明会を定期的に開催している。

＊平成 26 年 11 月 1 日現在での外国人留学生数は 1,742 人に達し，東日本大震災前のレベルに戻った。今後さらなる増加が期待される。

（3）国際戦略に基づき，質の高い海外研鑽プログラムを開発し，派遣留学者支援，派遣留学促進のための教育・支援を充実させる。

3～5 週間の短期海外派遣プログラムである「Study Abroad Program（SAP)」を集中的に開発した。今年度は夏休み・春休み合わせ，約 300 名の学生が SAP に参加している。SAP においては，語学研修だけでなく様々なテーマを設定してのアクティブラーニングや現地の大学生や地域住民などとの交流の場を設け

ており，質の高い国際経験ができるプログラムとしている。また，複数回の事前研修及び事後研修を行い，学びの定着と振り返りを図っている。

交換留学を希望する学生に対して，グローバルラーニングセンターの教員が留学アドバイジングを行っている。交換留学を希望する学生並びに交換留学が決まった学生に対して，留学準備教育を行っている。

SAP や交換留学に対する JASSO の奨学金を獲得する努力を行い，派遣留学参加者の経済的支援に貢献している。また，交換留学における単位認定・単位互換に関するラーニングアグリーメントについて，全学的な導入の準備を行っている。

5 月及び 10 月を留学強化月間として留学に興味を持ってもらう様々なイベントを催し，同時に留学に関する情報提供を行った。

平成 26 年 3 月には AOII 期・推薦入試合格者を対象に国立大学では初めてとなる「入学前海外派遣プログラム」を実施し，2 年目となる今年度は平成 27 年 3 月に 15 名の学生をカリフォルニア大学リバーサイド校へ派遣した。

（4）国際社会でリーダーとして活躍する人材を育成するために，国際教養力，行動力，語学・コミュニケーション力等を育む多様な教育プログラムを開発・実施する。

東北大学グローバルリーダー育成プログラムの責任部署として，プログラムの策定・実施にあたっている。このプログラムは，本学学部生を対象として，語学・コミュニケーション力，国際教養力，行動力を養成する 3 つのサブプログラムと，海外研鑽サブプログラムからなり，グローバルラーニングセンターは，これらプログラムの方針の決定，指定科目の選別，ポイントの認定，学習アドバイジング，プログラム修了やリーダー認定の判断等多くの事を行っている。また，本プログラムに提供する正課・課外の授業の一部を実施している。特に，外国人留学生と日本人学生が共に学ぶ課題解決型授業「国際共修ゼミ」や，グローバルに活躍する個人や企業人等を招いての「グローバルキャリアセミナー」等を実施し，グローバル人材の育成に貢献している。

（5）学内外との連携を強化し，グローバルキャンパスの実現に寄与する。また，本学の教育国際化について積極的な広報活動を行い，広く社会との連携を図る。

グローバルラーニングセンターのリエゾンオフィスとして，カリフォルニア大学リバーサイド校に「東北大学センター」を設置し，本学学生の派遣やアメリカの高校生に対する国際学士コースの広報等を行っている。同様の「東北大学センター」を今後タイのバンコク(チュラロンコン大学内)等アジアにも設置する予定である。

世界各国の国際教育・交流教職員が一堂に会す国際学会や協議会（NAFSA，EAIE，APAIE）等に教職員を派遣し，本学の取り組みや調査結果を積極的に情報発信するとともに国際ネットワークの拡大に努めている。

優秀な留学生の獲得や派遣プログラムの開発を目的とした広報活動の効率化を図るため教職員のセンター内 FD も定期的に開催している。

各部局の国際交流担当教職員との情報交換会を定期的に開催し学内組織の連携を図っている。

本学の教育国際化の取組についてリーフレットを作成し，民間企業，保護者等を含む一般の方々への広報活動を行っている。

(6)学際融合教育推進センター

使命

（1）世界的な視点で，大学における教養教育のありかたを調査研究し，東北大学の学士課程教育，大学院教育の発展に資する提言を行う。

（2）全学教育の分野別教育を開発・提供するとともに，学士課程教育，大学院教育を視野に入れ，各分野内の総合科目（自然科学，人文科学，社会科学，スポーツ），分野を超えて人類社会の課題に応える学際融合型教育科目の開発・実施を行う。

（3）学際融合型教育を英語など多言語で提供し，東北大学の教育を国際的視野で推進する。

事業内容及び活動状況

（1）人類社会の課題に応える部局横断的な学際融合教育課題・教育プログラムに関わる調査研究とカリキュラムの策定

1．調査研究については，科学研究費基盤研究 A による共同研究を実施中。2～3 月にかけ，大阪大学・東京大学へ訪問調査をしたほか，アメリカ（CGS,UCB），イギリス（オクスフオード大）への訪問調査を実施。 2．平成 27 年度の開講科目として，カレントトピックス・学際融合教育科目企画「アジアを知ろう，感じよう」（学士課程 1，2 年生対象科目，全学教育開講）を開講予定。担当教員は，植物遺伝学，水産・資源保全学，農業経済学，国際法，医療史，考古学，日本史等から構成。 ※コーディネーター：芳賀満（代表，高度教養教育・学生支援機構）・中川学（同機構）

（2）学部から大学院にいたる学際融合型授業の開発推進

学際融合教育推進センター連続ワークショップ「科学技術と社会－テクノサイエンスリスク社会と科学技術の課題」（構想）を企画。 概要：科学と技術の発展が，人類社会の進歩と幸福実現の原動力とみなされた時代から，近代産業社会そのものがリスク発生要因となり，「危険社会」（ベック 1986），「テクノサイエンスリスク」（松本 2009）を生み出し，「構造災」（松本 2012）とまで言われる科学技術社会の現状を明らかにし，科学技術・経済・政治の密接な相互依存性がもたらす経路依存性を乗り越える科学と社会の関係性を考察し，これから科学を担う大学院生の視野を広げてもらう。年 6 回程度開催し，講義（80 分），コメント（10 分），討論（50 分）の参加型ワークショップを行う。各分野の院生研究者がともに交流することで，視野の拡大も狙う。

（3）教育プログラムの実施に必要な実装組織の構築

平成 27 年度から学務審議会に高度教養教育開発のための WG 設置を企画。

(7)学習支援センター

使命

（1）学生の主体的・自律的な学習を，実践的に促進・支援し，研究大学で学ぶ学生としての資質を育成する。
（2）初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し，東北大学の学習支援の質的向上に寄与する。
（3）教職員・学生の間に「学び合い」文化を醸成し，学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

事業内容及び活動状況

（1）全学教育段階のリメディアル・レベルアップ学習支援の開発・実践を行う。

本センターの提供する学習支援システム（SLA システム）の利用者数は過去最高となり，当システムの核となっている理系科目の学習支援（個別対応型）利用者数は前期だけでも 1,682 人（前年同期比 184%）になった。平成 27 年 3 月末では 2,803 人にまで上り，これは昨年度の利用者数 1,337 人のほぼ 2 倍である。同様に英会話支援等でも利用者数は倍増した。学務審議会，教務委員会，教育・学生支援部の協力のほか，自主的な広報活動もあいまって，SLA システムが知られるようになってきたのではないかと思われる。また，それと同時に新たな学習支援の開発・試行や継続実践も行っている。

◆ 英会話支援（形態：企画発信型，個別対応型併用）においても利用者数が増加している。平成 25 年度年間利用者数（延べ）336 人に対し，平成 26 年度は 698 人の利用となっており，倍増した。
◆ 理系科目支援，英会話支援に続き，文理問わず必要とされるアカデミックスキルである「ライティングスキル」の支援を開始した。ライティング支援の開発に伴い，個別対応型と企画発信型の 2 形態で展開し，のべ 26 名の利用者を得た。ここでは文系の利用者割合が高い。
◆ 学習イベントの一つとして，「1 トピックダイアログ（通称：わんトピ）」という企画を立ち上げた。これは，1 つのトピックについて参加者と共に議論・対話を深めていく企画である。まだ継続的な活動としては定着していないが，文理問わずに学び合える知的基礎体力の訓練機会として，開発を続けていく予定である。
◆ 自ら学習グループを立ち上げて学びを深めていく「自主ゼミ」に対する支援も引き続き行った。平成 26 年度は 6 ゼミ（名簿登録学生数 113 名）が支援自主ゼミとして登録されている。本年度以前から支援している自主ゼミも多数あり，代替わりを迎える中でも，継続的な支援を行うことができている。

（2）学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践を行う。

平成 26 年度後期セメスターの在籍 SLA 数は 49 名（学部学生 17 名，修士学生 20 名，博士学生 12 名）であり，過去最大数の組織体制となった（前期セメスターもほぼ同様）。本年度新規に採用した SLA は 26 名（継続雇用を除く）であり，初年度を除いて，新規採用者数も過去最大となった。これにより，組織の成長と継続性担保の土台となる人的拡大を図ることができた。また支援者（SLA）の育成の仕組みとして，①初任者研修，②センター教員とのリフレクション（日常），③先輩 SLA によるメンタリング（日常），④担当科目別の勉強会（月に一度），⑤合同説明会・報告会（各セメスター開始時／終了時），⑥研修合宿（年に一度）を実施している。以下に具体例を示す。

◆ 本年度は，担当科目別の勉強会（以下「部会定例会」）の共通化・定型化を図った。これにより，情報共有とスキルアップ活動の質が格段に向上し，SLA 内部でノウハウを共有・研鑽し合う仕組みを構築することができた。
◆ 研修合宿は，本年度は 9 月 11～13 日に開催した（於：白石）。参加者数は 20 名と過去最大であり，研修対象 SLA 数の約半数の参加を得た。参加者のうち合宿初参加者の割合が 7 割となる構成であったが，その中でも，前年度までの実績を発展させた活動を展開することができ，支援者育成に寄与率の高い研修合

宿の活動を継続・発展させることができた。

◆ 平成 27 年 3 月 10～11 日には北海道大学との合同研修会を行い，SLA5 名が参加し，他組織の活動と比較して本センターの活動を捉えられる学生を育成することができた。

（3）情報還元による正課カリキュラムの改善・充実に貢献する。

◆ 学務審議会への活動報告（平成 26 年度前期分）を 9 月に行った（半期に一度実施予定）。

◆ 個別の授業・科目群についてのフィードバック

本センターにおける質問・対応事例の情報をまとめ，下記の科目担当者にフィードバックした。

・「自然科学総合実験」への情報還元は 2012 年度からの継続活動であり，当該授業においては，これらの情報を担当する全教員・TA にも即座に共有し，授業改善に役立てている。

・「数学物理学演習」は，当該授業受講生のセンター利用率が例年に比べ特異的に高かったことを受け，本年度新たにフィードバックを行った。本事例では，本センタースタッフと工学教育院スタッフ及び授業担当 TA が情報共有を図る場を数度設け，双方の活動・授業の方策を共に検討することができた。また，質問対応事例の情報や授業指定テキストの誤植情報なども伝達した。さらに後期セメスターからは，当該授業の TA を SLA の質問窓口に派遣してもらう体制を試行的に実施している（1 回 2 時間半×週 2 回，輪番制）。

・平成 27 年 3 月には学務審議会科目委員会への情報のフィードバックを行った。

（4）全学教育範囲における学習支援ネットワーク（部局間連携体制）を構築する。

本学における学習支援ネットワークの構築については，①学務審議会および科目委員会を通した連携，②個別授業科目との連携，③学生支援施設との連携，④学内プロジェクト連携など，さまざまな方面においてその可能性を模索しており，以下のような進展がある。

◆「自然科学総合実験」（自然科学教育開発室）と「数学物理学演習」（工学部・工学研究科 工学教育院）の個別の科目を通した授業情報共有および支援方策の模索を行っている。後者では，前期セメスターにおける同科目の質問者急増がきっかけとなり，学務審議会（平成 26 年 9 月 8 日）における情報発信を経て，工学教育院との連携により，その結果として授業担当の TA 派遣による支援という具体的な施策を実践するに至った。現在は試行中であり，この経験を活かして個別授業に応じた支援システムの構築を促進させていきたい。

◆ ライティング支援の開発において附属図書館との連携を図った。具体的には，附属図書館実施のレポート作成法に関わる授業向けの SLA を配置し，当該授業および双方の課外サポート活動の情報を共有した。これを基にライティング支援の開発に役立てる。

◆ 学生相談・特別支援センターとの連携強化を図ることができた。本年度は，配慮が必要な学生に応じた特別学習支援を 2 件継続実施している。本事例においては，学生の学習状況の情報共有を密に行うことで，双方の支援の円滑化に寄与している。

◆ 理学研究科のキャンパスライフ支援室と，引き続き情報交換を行っている。キャンパスライフ支援室で活動する TA と SLA を兼任している学生も多く，人的リソースの共有により，ネットワークを結ぶことができている。さらに他研究科との連携をめざす。

(8)キャリア支援センター

使命

（1）学部・大学院全体に対するキャリア支援を充実し，東北大学の学生が大学での学びを基盤に社会に巣立ち，生涯にわたって発達し，社会に貢献できるよう支援する。

（2）就職動向や就業実態，大卒者のキャリア発達など進路選択に関する情報収集・調査研究を行い，各種のキャリア支援・就職支援に活用する。

（3）学生個人に対する相談業務を通じて，学生が進路選択を適切に行えるよう支援する。

（4）学生相談・特別支援センター，グローバルラーニングセンター及び部局等との連携を強化し，情報共有を進め，東北大学全体のキャリア支援力を向上させる。

事業内容及び活動状況

（1）キャリア教育としての正課教育の改善・充実を図る。学士課程教育から大学院教育にわたり，学生の成長・発達の節目に対応し，自らのキャリア・デザインを構築する機会を提供するために正課教育を充実させていく。

平成26年度にはキャリア教育として全学教育科目4科目を開講した。

なお，平成26年10月に特任教員1名採用，27年4月1日から准教授1名採用，現在の助教の准教授昇進など教員組織の充実が進んでおり，体系的な正課教育の内容については，平成28年度正式実施に向け，現在検討中である。

（2）部局と連携し，正課外としてのキャリア支援の改善・充実を図る。学生個人の発達課題に対応したキャリア相談，就職相談等個別対応を重視し，進路・就職ガイダンス，キャリア支援セミナー，業界仕事研究講座，キャリア・就職フェアなどを企画・実施し，学生の出口支援の充実を図る。

学部1・2年次学生から大学院学生までを対象に，大人数によるガイダンス，セミナーから少人数のワークショップまで，幅広いテーマのプログラムを実施している。特に平成26年度は就職時期の後倒しに伴い，就職支援プログラムの見直しを図り，卒業・修了生を招いての業界研究セミナー等の新規プログラムも実施した。

また，部局の依頼に応じたセミナー開催や部局ＦＤ等への講師派遣等を行っており，部局との連携強化を図っている。

今後は，相談体制の更なる充実を図る。

（3）研究科と連携・協力し，学部から大学院への選択・移行・適応を適切に行えるプログラムを開発し，実施する。

大学院進学については進路形成における選択肢の一つとして就職と同等に扱っており，現在までのところ，進学のみに関するプログラムの開発・実施には至っていない。

教員組織の強化を待って，随時検討を開始する。

（4）大学院生後期課程を主な対象としたイノベーション創発塾を拡大・推進し，社会が求める博士課程修了者の幅広いキャリア支援プログラムを開発・実施する。

「イノベーション創発塾」を開講し，高度展開スキルや社会人基礎力，グローバルコミュニケーション力等の向上を図るとともに，様々な問題を俯瞰した上で自ら課題を設定・解決できる人材の育成に取り組んだ。平成26年度の受講者は44名。

また，中長期インターンシップの推進や，専門スタッフによる個別面談，キャリアパスフォーラムの開催等のキャリアパス支援を通じて，博士人財の産業界への輩出を推進するとともに，安心して博士後期課程に進学できるよう出口支援の充実を図っている。

なお，連携型博士人財総合育成システム（北大・名古屋と共同）の採択を受け，平成27年度以降数年間，

キャリア支援プログラムの持続が可能となった。

（5）進路選択に関する情報提供の充実を図る。全学の学生がすべてのキャンパスで等しく進路・就職に関する情報が得られる，ワンストップの支援体制（支援環境）を整備する。

多様な学生の多岐にわたるニーズに対応し，進路選択に関する情報を速やかに提供するため，平成 27 年度にキャリア支援センターホームページのリニューアルを計画している。

ワンストップの支援体制については，現在検討中。

（6）キャリア支援に関する専門的知見を高め，特にキャリア支援担当者としての資質を高める専門性開発を重視する。

平成 26 年度より学生相談・特別支援センター教授を副センター長として，相談員に対する研修・助言等を行い，相談体制の充実を図っている。

また，27 年度には，関係スタッフのスキル向上を目的とするワークショップの実施を計画している。

(9)学生相談・特別支援センター

使命

「すべての学生がその学びと成長のプロセスにおいて，本学での経験から最大限の利益を引き出すことができるように，学生および大学コミュニティへの支援を行う」ことを目指して，大学教育の一環としての学生支援において核となる役割を担い，学生の人間形成の促進および大学の学生支援力の向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

（1）相談援助活動

来談学生（留学生を含む）への個別支援，教職員および家族へのコンサルテーション，来談者間の交流支援等

○学生相談所への来談学生に対して個別面接を通しての支援を行っており，必要に応じて指導教員や事務職員と連携している。また，学生の生活指導に関連して教職員や学生の家族からの相談にも応じている。平成26年度の学生相談に対する個別支援：来談者数743名，対応回数4,440回（川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング，雨宮および星陵キャンパスでの出張相談も含む)。
○受付兼インテーカーの職員が，待合室兼グループ室を居場所として利用している学生に対する働きかけや学生間の交流支援を行っている。こういった活動も学生が相談しやすい環境整備に有用であり，また相談業務の大きな支えになっている（平成26年度：利用者数延べ420名)。
○これまで実施してきた川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング，雨宮キャンパスでの出張相談に加え，平成26年12月から星陵地区での相談対応を開始し，各キャンパスとの相談業務の連携を図っている。川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング：来談者数12名，相談回数14回，雨宮キャンパスでの出張相談：来談者数12名，相談回数44回，星稜キャンパスでの出張相談：来談者数5名，相談回数13回。

（2）特別支援活動

特別な支援を必要とする学生への対応策の調査および開発実践

○本年度，特別支援室に担当教員2名および特別支援企画スタッフ（受付係兼インテーカー）1名を配置し，支援体制を整備した。
○入学時に配慮申請のあった学生や，修学面のつまずき等を契機に来談した学生について，特別な支援が必要と判断された場合，個別面接を行うと同時に，授業担当教員や教務事務職員と連携しつつ支援を行っている。また，学生への関わりや支援等に関する教職員・家族からの相談にも対応している。平成26年度：来談者38名，対応回数446回。
○来談学生への個別支援のために，学生ピアサポーターの募集・育成を行っている。
○聴覚障害や視覚障害，肢体不自由の学生等の支援に関して，支援機器の整備・活用，設備・施設の改善等に部局と連携しつつ取り組んでいる。また，キャンパスのバリアフリー化に対するチェックも進めている。
○川内地区のバリアフリー化への対応を進めると共に，障害学生に対する具体的な支援例に関する資料を作成し，各部局の担当者等に配付した。また，障害学生支援及び特別支援室の活動に関するリーフレットを作成して全教職員に配付し，それらの周知に努めた。

（3）予防・教育・広報活動

予防教育，全学FD，部局オリエンテーション・パンフレット等での広報活動等

○学生相談・特別支援センターのスタッフ全員の担当で，全学教育科目「学生活概論－学生が出会う学生生活の危機と予防」（全学教育・第1セメスター）を開講した。
○全学FDとして，学生支援審議会FDを年4回実施している。平成26年度は，ハラスメントに関するテーマ2回，障害学生支援に関するテーマ1回，大学における保健管理及びキャリア支援のテーマテーマ1回を

実施した。部局 FD において，学生支援やハラスメントに関するテーマでの講演を実施している（平成 26 年度：合計 14 回)。
○全新入生に対して学生相談所のリーフレットを配付して広報に努めると同時に，新入生特別セミナーや部局オリエンテーションにて学生相談の利用案内等を行っている（平成 26 年度：合計 14 回)。また，メンタルヘルスやハラスメント防止に関するテーマで，部局と連携した学生対象の講演会を実施している（平成 26 年度：5 回)。

（4）調査・研究活動教育活動

学生相談および特別支援の実践法および学生支援活動に関わる研究

○震災の心身への影響や大学生活への適応の把握を目的とした全学生対象調査を実施し，結果に応じて個別支援につなげた。平成 26 年度：調査の回答者数 10,713 名（回収率 60.0%)，そのうちの PTSD ハイリスク群 427 名(有効回答数 9,973 のうちの 4.3%)。また，震災ボランティアに関わる学生の心理的ケアに関する調査研究を行った。

（5）大学としての学生支援施策および危機管理への提言

学内委員会等を通じた提案，ハラスメント全学学生相談窓口における相談対応

○センター教員は，学生支援審議会，学生生活協議会，G3 実施員会，男女共同参画委員会，東日本大震災学生ボランティア活動支援運営委員会，ハラスメント全学防止対策委員会専門委員会の委員を務めている。
○ハラスメント全学学生相談窓口相談員として，来談者への個別支援等を行っている。平成 26 年度：相談件数 10 件，対応回数 97 回。

（6）他大学の学生支援活動との連携および地域連携

他大学等における講演，学生相談・特別支援担当者間の研究会の実施

○他大学等の依頼を受け，FD 等においてハラスメントや障害学生支援に関する講演を実施した（平成 26 年度：19 回)。また，第 52 回全国学生相談研修会の講師を務め，仙台学生相談事例研究会，第 6 回発達障害学生修学支援体制構築に関する合同研究協議会に出席した。
○障害学生支援について，国立七大学間での情報交換・協議するためのネットワークを整えた。
○仙台市自殺防止対策連絡協議会の委員を務め，仙台市における自殺対策推進に寄与している。

(10)保健管理センター

使命

保健管理に関する専門的業務及び保健管理についての専門的調査，研究を行い，本学における学生の健康教育及び健康の保持，増進を図ることを目的とする。

事業内容及び活動状況

（1）保健業務の実行についての企画，立案

1）定期健康診断の企画・実施
2）特殊健康診断（放射線取扱学生特殊健康診断，有機溶剤特定化学物質取扱学生特殊健康診断，VDT 作業従事学生特殊健康診断，結核検診）の企画・実施
3）健康科学セミナーの企画・実施
4）健康科学講演会の企画・実施
5）禁煙外来の企画・実施

（2）保健管理についての専門的調査，研究

1）学生の尿検査異常からみた改善すべき生活習慣の推測
2）若年化の進む心血管病発症年齢の新しい機序解明と予防法の開発
3）ライフスタイルと肥満・高血圧・喫煙習慣の関連
4）学生の難病に関する病因・病態・治療に関する研究

（3）健康教育に関する専門的業務

1）宮城県内の大学保健施設教職員を対象とした「健康科学セミナー」を4回実施。（第1回：保健管理に関わる最近の話題（木内/北），第2回：物質関連障害～薬物やめますか？それとも人間やめますか？～（伊藤），第3回：学生の尿を診る（小川），第4回：喫煙と循環器疾患（佐藤））
2）全学教育「体と健康 II」
3）健康科学講演会「大学生のメンタルヘルス」（山崎）

（4）健康診断及びその事後措置

1）定期健康診断を4～5月に実施（受診率 75.3%），事後措置を必要とした学生は 1,820 名であった。事後処置として精密検査及び健康教育，さらに必要に応じて大学病院などへ紹介を行った。
2）6・12 月に放射線取扱学生特殊健康診断，7・12 月に有機溶剤・特定化学物質取扱学生特殊健康診断，10 月に VDT 作業従事学生特殊健康診断，11 月に結核検診を実施。特殊健診，結核健診で加療を要する学生は認めなかった。
3）健康診断証明書の発行

（5）5保健室（川内地区，片平地区，星陵地区，青葉山地区，雨宮地区）における健康相談，メンタルヘルスケア及び救急措置

1）川内地区では，月～金の午前・午後に医師による健康相談，救急措置を実施し，火・木・金の午前・午後に精神科医師によるメンタルヘルスケア，火・金の午前と月の午後に歯科医師による健康相談，月～金の午前・午後に管理栄養士による栄養相談を実施した。また，片平地区では金の午後，星陵地区では木の午後，青葉山地区では火の午後，雨宮地区では月・水の午後に医師による健康相談，救急措置を実施した。

（6）学内の環境衛生及び感染症予防の措置についての指導援助

1）デング熱・鳥インフルエンザに関する注意喚起の掲示を行った。
2）エボラ出血熱の対策として，感染地域への渡航に際しては渡航届を保健管理センターに提出し，状況について把握することとした。また感染地域への不要不急の渡航を延期するように勧告を行った。

（7）その他健康の保持，増進についての必要な専門的業務

1）７月より新たに禁煙外来を開始している。（担当　北）
2）各種大学行事への医師・看護師の派遣・対応（各種入学試験，入学式，新入生オリエンテーション，工明会大運動会，北雄杯駅伝大会，オープンキャンパス，学位授与式，大学祭，深夜マラソンなど）
3）「保健のしおり」の発行

(11)課外・ボランティア活動支援センター

使命

本学学生の社会性を涵養し，主体的な問題解決能力を備えた指導的人材を育成するために，学生の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに，社会貢献型の体験学習を実施し，学生の心身の健康増進に寄与する。

事業内容及び活動状況

（1）本学学生の自主的な課外活動，文化やスポーツ・ボランティア活動の総合的な支援

平成26年度に本学学生の自主的なボランティア活動の支援として，以下を実施した。

【スタートアップフェア】

学外・学内のボランティア団体がブース出展し，東北大学生を対象にボランティア活動の説明会を開催し，東北大学生の自主的なボランティア活動への参加を促す取り組みとして「スタートアップフェア」を開催した。

主に新入生を対象として，東北大学川内北キャンパス等を会場として4月には6日間実施し，延341名の東北学生の参加を得た。7月には3日間実施し，延50名の東北大学生の参加を得た。また10月には2日間実施し，延18名の東北大学生の参加を得た。1・2月には2日間実施し，延16名の参加を得た。

【新入生歓迎ボランティアセミナー】

東北大学生に東日本大震災被災地とそこでのボランティア活動に関心を持ってもらうことを目的として，4月15日に「新入生歓迎ボランティアセミナー」を開催した。東北大学生のボランティア活動の活動先・宿泊先確保などでお世話になっている岩手県陸前高田市上和野町内会の千葉浩一事務局長をお招きし，ご講演頂いた。東北大学生20名が参加した。

【広報誌「ボランティアセミナージャーナル」の発行】

東北大学生を対象として，ボランティア活動に関心を持ってもらうため「ボランティアセミナージャーナル8号」（1,500部）を7月30日に，9号（1,500部）を3月31日に，10号（来年度新入生対象，5,000部）を4月1日に発行した。

【スタディツアー，ボランティアツアーの実施】

東北大学生に東日本大震災被災地とそこでのボランティア活動に関心を持ってもらうことを目的とした「スタディツアー」および，実際に被災地でのボランティア活動を行ってもらう「ボランティアツアー」を41回実施し，延513名の東北大学生が参加した。スタディツアー，ボランティアツアーの一部は，後述する社会貢献型の体験学習（サービスラーニング）として，正課の授業と連動する形で実施した。また，一部は住友商事より「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム 2014」の助成を受けたプロジェクト「被災3県の生活再建と地域復興の課題を学生・住民協働で探るスタディツアー」として実施した。

【各団体・個人のボランティア活動実施支援】

東北大学の学生ボランティア団体や個人の学生によるボランティア活動の実施について，実施方法や交通費について相談対応業務を行った。届が出ている範囲で，延136名の東北大学生が活動を行った。

【学生アシスタントグループの育成】

東北大学のボランティア活動を促進する事業を支援する，ボランティア（無償）の「学生アシスタントグループ」の育成を行った。4月21日および5月8日に，説明会を実施し，その後，週1のペースでアシスタントとの会議を実施し，上記の各取組についての企画立案から実施支援まで学生アシスタントの助力を得て行っている。現在，アシスタント登録している東北大学生は16名である。学生アシスタントグループにより，7月30日・31日のオープンキャンパスや，10月31日～11月2日の東北大学祭等で東北大学生のボランティア活動を紹介する展示等の企画を実施した。

【井戸端会議】

スタートアップフェア等に参加している学外・学内のボランティア活動を行っている団体を集めて，支援

センターによるボランティア支援についての相談や，各団体の活動報告等を行う「井戸端会議」を，5 月 22 日，6 月 16 日，12 月 18 日，1 月 8 日の 4 回実施し，前述のスタートアップフェアの実施方法や日程などについて話し合った。

【東日本大震災学生ボランティア活動支援運営委員会】

「東北大学東日本大震災学生ボランティア支援に関する要項」に基づき，7 月 23 日に開催した。東北大学生のボランティア支援について運営委員により話し合いがもたれ，「課外・ボランティア活動支援センター」の新設とその業務内容についても紹介した。

平成 26 年度，本学学生の自主的な課外活動の支援として，以下を実施した。

自主的な課外活動の各種支援は，教育・学生支援部学生支援課活動支援係ならびに支援企画係の事務職員 6 名が中心に実施している。また，これら支援に関わる諸判断は，学生生活協議会，学友会等々の全学的教員を含む組織委員会を通してなされている。主な支援について以下に記した。

【学生団体への登録ならびに説明会の開催】

今年度の学友会団体は，全 172 団体，約 9,000 名の総数の学生から，団体継続・新規実施届を受付，これら団体の自主的な活動支援を行った。また，10 月 21 日には，全ての届出のなされた団体の代表者に対する説明会を開催し，当日，154 団体の代表者ならびに顧問教員が参加し，課外活動時における様々な注意喚起を行った。

【七大戦の開催支援】

平成 27 年度は本学が七大戦の主管大学となり，43 種目（応援団演舞を含む）の運営を行うこととなり，本年 12 月から冬季競技が開幕している。学生が主体となり大会運営を行うが，大学として関係する種々のサポート（総長等役員が出席する開会式の会場確保，連絡調整，競技運営にあたり消耗品及び会場使用料の補助，運営担当学生への指導助言）を既に行っている。

【新歓および大学祭の支援】

平成 26 年度の新入生歓迎行事ならびに大学祭においては，それぞれ学生の自主的な実行委員会が組織され運営は全て学生に任されているが，それら運営を指導・サポートする教職員による体制を構築し支援を行ってきた。大学祭では，延べ 30,000 名の来場者（大学祭実行委員会報告）があり，無事，成功裏に終えることができた。

以上，学生の正規な課外活動の支援を通して，主体的に活動できる強い人材育成にも貢献している。

（2）東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とした，社会貢献型の体験学習（サービスラーニング）の企画・実施

東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的として，正課授業や復興大学人材育成コース，TGL プログラム等と連携し，社会貢献型の体験学習（サービスラーニング）の企画・実施を以下の通り行った。

【基礎ゼミ「地域復興とボランティア」との連携】

経済学研究科の西出優子先生による基礎ゼミ「地域復興とボランティア」（前期・受講生 22 名）と連携し，受講生を 4 班に分け，各班に前述のスタディツアーないしボランティアツアーの企画を立案・実施してもらった（6 月 28 日・29 日，7 月 5 日・6 日に実施）。毎回の基礎ゼミに支援センタースタッフが出席し，受講生を指導した。

【全学教育科目「震災復興とボランティア活動」との連携】

経済学研究科の西出優子先生による全学教育科目「震災復興とボランティア活動」（後期・受講生 60 名）と連携し，支援センタースタッフも講師を務めた他，授業の一環として受講生に対して実際のボランティア活動を紹介し（参加学生 20 名），参加レポート（授業評価に含まれる）を書くよう指導した。

【復興大学人材育成コースとの連携】

東北大学が事務局を担当する「復興大学人材育成コース」と連携し，復興大学受講生を対象に，受講生が実際のボランティア活動を経験できるプログラムを，5 月 11 日（参加学生 21 名）と 9 月 24 日～25 日（参加学生 9 名）に宮城県山元町で企画・実施した。

【TGL プログラムとの連携】

東北大学グローバル人材育成プログラム（TGL）と連携し，TGL コア科目「グローバル社会で活躍する人材のための国際教養」において震災復興状況とボランティア活動について，前期 1 日・後期 1 日，支援センタースタッフが講師を務めた。また支援センターが主催ないし紹介するボランティア活動への参加については TGL の「スペシャルポイント」として認定される。

（3）国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進

国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進として，以下を実施した。

【アリゾナ大学との交流】

7 月 31 日に，日本国際協力センター(JICE)の依頼により，アリゾナ州立大学 25 名(学生 23 名，引率者 2 名）が東北大学を訪問し，被災地で活動している東北大生 10 名と交流する企画を実施した。

【ハーバード大学生との交流】

8 月 1 日～2 日にかけて,経済学研究科国際交流支援室との共催で「ハーバード生と共に行く福島スタディツアー」を実施，一泊二日で，福島県を訪問し，現地の実情を学んだ。21 名（東北大生 11 名，東北大学教員 4 名，ハーバード大学生 6 名）が参加した。

【「あしながインターンシップ」のインターン生との交流】

「あしなが育英会」の依頼により，同会が海外より募集したインターン生との交流事業を実施した。8 月 9 日～10 日にかけて，インターン生 36 名およびあしなが奨学生 7 名と東北大学・岩手大学・神戸大学生 21 名の交流事業を岩手県陸前高田市で実施した。また 8 月 18 日～19 日にかけて，インターン生 44 名，あしなが奨学生 12 名，東北大生 8 名とともに交流事業を岩手県陸前高田市で実施した。

【東大・早稲田・立教大学等との交流】

9 月 11 日～13 日の 2 泊 3 日で，東大・早稲田・立教大学等の東京よりの学生 20 名と東北大学生 10 名とともに東北大学の学生が，宮城県および福島県の被災地において，東京の学生に被災地の実情を案内し学んでもらう「多大学合同被災地ボランティアツアー」を実施した。

【岩手大学・神戸大学との交流】

毎月 1 回程度実施する「陸前高田ボランティアツアー」では，ほぼ毎回，岩手大学・神戸大学と合同で活動を行い，交流している。

【東北学生ボランティア交流会議への参加】

岩手大学が 12 月 6・7 日に開催した「東北学生ボランティア交流会議」に本学教員 1 名，学生 6 名で参加し，本学学生・教員がそれぞれ報告を行った。他に，岩手大学・神戸大学・弘前大学・東京大学・福島大学等が報告・参加し，相互に交流を行えた。

【大学間連携災害ボランティアシンポジウムへの参加】

復興大学災害ボランティアステーション等が開催する「大学間連携災害ボランティアシンポジウム」（12 月 12 日～13 日）に学生 2 名が参加し，報告を行うとともに，パネルディスカッションに参加した。

Ⅲ　平成 26 年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム･研究会･セミナー等

No.	開催日	事業名	参加者数
高等教育のリテラシー形成関連			
1	2014 5.16	**第 20 回東北大学高等教育フォーラム（新時代の大学教育を考える[11]）「グローバル人材の育成に向けて ーこれからの高等教育・大学教育における課題」** 基調講演 1「グローバル社会に求められるもの」 岩本　渉（文部科学省国際総括官付国際交渉分析官） 基調講演 2「東北大学におけるグローバルリーダー育成の取組」 山口　昌弘（東北大学総長特別補佐） 現状報告 1「英会話の先にあるもの ー批判的思考とコミュニケーション能力の育成ー」 ダニエル・アイコースト（東北大学高度教養教育・学生支援機構・講師） 現状報告 2「高大，真の接続の観点から」 松井　徹朗（北海道旭川北高等学校・教諭） 現状報告 3「グローバル化と高校教育」 東盛　敬（沖縄県立宜野座高等学校・教頭）	171
2	2014 6.24	**研究倫理シリーズ 第 1 回「盗用と言われない英語論文の執筆 ー大学教員は何を指導すべきかー」** 講演「責任ある研究活動とは何か」 羽田　貴史（東北大学高度教養教育・学生支援機構・教授） ワークショップ「盗用と言われない英語論文の執筆」 吉村　富美子（東北学院大文学部英文学科・教授）	46
3	2014 7.11	**「授業づくり：準備と運営」** 講師：邑本　俊亮（東北大学災害科学国際研究所・教授）	25
4	2014 7.18	**「授業デザインとシラバス作成」** 講師：串本　剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構・講師）	19
5	2014 8.23	**「比較からみる世界の高等教育 ーグローバル時代の人材育成・獲得を考えるー」** 講師：杉本　和弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構・准教授）	30
6	2014 9.1	**「アカデミック・ライティングを指導する」** 講演 1「アカデミック・ライティングとは？」 井下　千以子（桜美林大学・教授） 講演 2「自然科学総合実験(授業)におけるレポート指導の取組み」 関根　勉（東北大学高度教養教育・学生支援機構・教授） 講演 3「龍谷大学ライティングセンターにおけるレポート・論文指導の取組み」 島村　健司（龍谷大学ライティングセンター・スーパーバイザー）	57
7	2014 9.5	**「Developing Degree Programs with Tuning: The History Pre-Major at Utah State University」** Presentation 1 "Tuning in a Nutshell – Purpose, Process, and Policy Implications for Japan"(in Japanese) Satoko Fukahori, Senior Researcher, National Institute for Educational Policy Research. Presentation 2 "Developing the History Discipline Core and the History Program at USU" Daniel McInerney, Professor and Associate Department Head, Department of History, Utah State University	18
8	2014 9.26-27	**「Planning and Managing Active Learning in English」** 講師：Todd Enslen（東北大学高度教養教育・学生支援機構・講師） Daniel Eichhorst（東北大学高度教養教育・学生支援機構・講師）	22
9	2014 10.17	**「学習と教育の科学 ー認知理論から大学の授業改革を考える」** 講師：市川　伸一（東京大学大学院教育学研究科・教授）	35

No.	開催日	事業名	参加者数
10	2014 11.1-3	**「教育を科学する－先端的プログラムから学ぶ（兼）NFP 合宿セミナー」** 講師：Sophie Arkoudis（University of Melbourne・准教授） Chi Baik（University of Melbourne・講師） Gabriele Lakomski（University of Melbourne・教授）	17
11	2014 11.4	**研究倫理シリーズ第 2 回「院生指導においていかに研究倫理を育てるか　－メルボルン大学の事例－」** 講師：Gabriele Lakomski(University of Melbourne・教授)	29
12	2014 12.4	**「流動化する民主主義：グローバル社会の担い手を育てる大学教育の課題」** 講師：猪口　孝（新潟県立大学長）	25
13	2014 12.17	**グローバルラーニングセンターセミナー「学生レポート課題を正しく評価する：ICE モデルによる授業改善」** 講師：Sue Fostaty Young（クィーンズ大学・博士）	19
14	2014 12.18	**「アクティブラーニングを促す教室空間の創造　－学生の学習経験へのインパクト－」** 講師：Andy Leger(クィーンズ大学・准教授)	29
15	2015 1.26	**「大学全入時代の大学教育の課題　－すべての学生に高い学習成果を保証するために－」** 報告 1「学生が成長する環境とは何か -ボーダーフリー大学の現実をふまえて-」 葛城　浩一（香川大学大学教育開発センター・准教授） 報告 2「選抜力低下と大学教育 -ボーダーフリーな学生への支援とその可能性-」 三宅　義和（神戸国際大学経済学部・教授） 報告 3「学力形成と教育マネジメントの役割 -金沢工業大学の実践-」 西村　秀雄（金沢工業大学基礎教育部・教授）	38
16	2015 2.4	**「中国における大学教育の内部質保証　－北京師範大学の学士課程教育を事例に－」** 講師：高　益民（北京師範大学教授，名古屋大学高等教育研究センター・客員研究員）	11
専門教育での指導力形成関連（各専門分野）			
17	2014 9.25	**「グローバル時代の英語教育　－高大 5 年間で伸ばす英語運用能力」** 基調講演「高大 5 年間で英語教育を設計する」 浅川　照夫（東北大学高度教養教育・学生支援機構・教授） 報告 1「高校におけるコミュニケーション重視の英語教育の試み」 小林　昭文（聖徳学園高等学校・教諭） 報告 2「SGH の取組みと英語教育」 村上　孝志（宮城県仙台二華高等学校・教諭） 報告 3「反転学習で伸ばす英語運用能力」 鈴木　康明（宮城学院高等学校・教諭） 報告 4「CALL システムで伸ばす英語運用能力―東北大学での実践事例」 橘　由加（東北大学高度教養教育・学生支援機構・准教授） 報告 5「東北大学の専門教育で伸ばす英語運用能力　－工学部が求める到達点」 岡部　朋永（東北大学大学院工学研究科・教授）	73
18	2014 10.25	**「言語・文化教育センター設立記念セミナー「グローバル時代における外国語教育の新たな可能性」** 基調講演「グローバル時代に求められる大学の言語教育」 鳥飼　玖美子（立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科・特任教授） 外国語教授法セミナー「東北大学における外国語教育の新たな挑戦」 (1)英語　橘　由加（東北大学高度教養教育・学生支援機構・准教授） Rick Meres（同・非常勤講師） (2)スペイン語　Cecilia Silva（同・講師） (3)中国語　張　立波（同・講師） (4)日本語　菅谷　奈津恵（同・准教授） Todd Enslen（同・講師） コメント　志柿 光浩（東北大学大学院国際文化研究科・教授）	70

No.	開催日	事業名	参加者数
19	2014 12.11	**「Classroom English: Pronunciation and Expressions」** 講師：Todd Enslen（東北大学高度教養教育・学生支援機構・講師） Vincent Scura（東北大学高度教養教育・学生支援機構・講師）	21
学生支援力形成関連			
20	2014 9.29	**「キャリア指導の理論と実践」** 講演 1「新卒就職システムと大学におけるキャリア形成支援」 小杉　礼子（労働政策研究・研修機構・特任フェロー） 講演 2「大学におけるキャリア教育・支援 －これまでとこれから」 児美川　孝一郎（法政大学経営学研究科・教授）	35
21	2014 12.16	**「発達障害学生への『合理的配慮』と支援の在り方」** 講演「発達障害学生支援の現状と法が求める合理的配慮」 青野　透（金沢大学大学教育開発・支援センター・教授） ワークショップ 山中　淑江（立教大学現代心理学部 教授） 池田　忠義（東北大学高度教養教育学生支援機構・准教授） 長友　周悟（同・講師） 堀　匡（同・助教）	41
マネジメント力			
22	2014 6.14	**「職員開発論 －OJD（業務開発行動）を通じた職員の企画提案力育成－」** 講師：篠田　道夫（桜美林大学大学アドミニストレーション研究科・教授）	42
23	2014 8.23	**「SD/PD 論 －大学教職員のプロフェッショナリズムをいかに育むかー」** 講師：大場　淳（広島大学高等教育研究開発センター・准教授）	38
24	2014 8.26	**平成 26 年 東北地区大学図書館協議会合同研修会「アクティブラーニングとは何か？その実践とは？：アクティブラーニングを通じて大学図書館と大学のつながりを考える」** 基調講演「アクティブラーニングの共通理解」 杉本　和弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構　准教授） 教職協働事例発表 1「数学・物理教員，工学基礎教育センターとの連携事例」 東北学院大学　間宮美智子（東北学院大学多賀城キャンパス図書館） 教職協働事例発表 2「図書館が提案する情報リテラシー教育（データベース講習会・図書館利用講習会）」 弘前大学　藤井真嗣（弘前大学附属図書館資料管理グループ雑誌情報担当） 教職協働事例発表 3「英語多読教育におけるアクティブラーニング」 東北大学　Ben Shearon（東北大学高度教養教育・学生支援機構　講師） Daniel Eichhorst（同　講師） ワークショップ・ファシリテーター：杉本和弘，稲田ゆき乃，佐藤恵，八巻千穂，寺崎宏美，芦原ひろみ，柳原幸子	45
25	2014 9.10	**教育評価分析センター キックオフセミナー「学修成果検証に基づく教学マネジメントの推進と課題」** 「学修成果測定をめぐる国際動向」 杉本　和弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構・准教授） 「東北大学生の履修行動と学修成果」 串本　剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構・講師） 「工学部・工学研究科における 6 年一貫教育の推進」 須藤　祐子（東北大学工学研究科工学教育院・特任准教授） 「理学部物理系におけるデータに基づく教育改善の取り組み」 石川　洋（東北大学理学研究科物理学専攻・准教授） 「北海道大学における学修成果検証の取組み」 細川　敏幸（北海道大学高等教育推進機構・教授）	61

No.	開催日	事業名	参加者数
26	2014 11.17	**IDE 大学セミナー「大学教育における ICT 活用の光と影」** 基調講演「デジタル知識革命と大学の未来 ～ポスト・グーテンベルク時代の教育に向けて～」 吉見 俊哉（東京大学副学長，大学院情報学環・教授） 講演 1「学習効果を高める ICT の活用法 ～反転授業も含めた授業設計～」 向後 千春（早稲田大学人間科学学術院・教授） 講演 2「本当は怖い『コピペ』問題 ～今後の日本の国際競争力への懸念」 杉光 一成（金沢工業大学大学院 工学研究科・教授） 講演 3「情報化社会と情報倫理教育」 篠澤 和久（東北大学大学院 情報科学研究科・准教授）	79
27	2014 12.20	**「若手職員のための大学職員論(3) ー若手の力，大学の未来ー」** 講演 1 「若手主導による大学イメージ戦略：名城大学が描く未来像」 本山　慶樹（名城大学入学センター・課長） 講演 2 「教職協働に基づく大学教育の改善：京都産業大学が進めるコーオプ教育」 大西　達也（京都産業大学コーオプ教育研究開発センター・課長）	19
28	2014 10.11 12.6 2015 1.31	**「東北大学職員のための「大学変革力」育成講座（3 回シリーズ）」[学内限定]** 第 1 回目「ワークショップⅠ」 第 2 回目「ワークショップⅡ」 第 3 回目「企画提案会議」	18
正午 PD 会			
29	2014 6.11	**正午 PD 会　第 1 回「Academic Integrity　日本と世界の動向」** 講師：羽田貴史教授（東北大学高度教養教育・学生支援機構・副機構長）	38
30	2014 6.26	**正午 PD 会　第 2 回「工学教育院とレベル認定制度～工学部は何を考えているのか？」** 講師：安藤晃教授（東北大学高度教養教育・学生支援機構・副機構長）	27
31	2014 7.10	**正午 PD 会　第 3 回「『大学』を学ぶコンテンツの設計とアクティブ・ラーニング」** 講師：杉本和弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構・准教授）	17
32	2014 10.8	**正午 PD 会　第 4 回「高等学校ウォッチング　入試開発室の活動の一端」** 講師：鈴木　敏明（東北大学高度教養教育・学生支援機構・教授）	19
33	2014 10.23	**正午 PD 会　第 5 回「認知言語類型論と第二言語習得：移動・状態変化事象の英語表現の習得をめぐって」** 講師：Ryan Spring（高度教養教育・学生支援機構・講師）	18
34	2014 11.5	**正午 PD 会　第 6 回「今，東北大学で何が起こっているのか：グローバル人材育成，スーパーグローバル大学創成支援で『私達』が起こす教育国際化イノベーション」** 講師：末松和子（東北大学高度教養教育・学生支援機構・教授）	23
35	2014 11.19	**正午 PD 会　第 7 回「自然科学総合実験の運営を支える出席・成績情報システム」** 講師：田嶋　玄一（東北大学高度教養教育・学生支援機構・准教授）	13
36	2014 12.10	**正午 PD 会　第 8 回「ともと学ぼう，ともに育とう，ともそだち」** 講師：足立　佳菜（東北大学高度教養教育・学生支援機構・助手） 鈴木　学（東北大学高度教養教育・学生支援機構・助手）	20
37	2014 12.17	**正午 PD 会　第 9 回「学生ボランティア支援の教育的意義～震災復興のただ中で」** 講師：藤室　玲治（東北大学高度教養教育・学生支援機構・特任准教授）	16

No.	開催日	事業名	参加者数
38	2015 1.14	**正午 PD 会　第 10 回「東北大学における学生相談，特別支援の ‘今，これから’」** 講師：吉武 清實（東北大学高度教養教育・学生支援機構・教授）	22
39	2015 1.29	**正午 PD 会　第 11 回「教員に必要な医学的知識とは？」** 講師：木内　喜孝（北大学高度教養教育・学生支援機構・教授）	23
健康科学セミナー			
40	2014 10.28	**2014 年度第 1 回健康科学セミナー 「保健管理に関わる最近の話題」** 講師：木内　喜孝（東北大学高度教養教育・学生支援機構・教授） 北　浩樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 助教）	15
41	2014 11.25	**2014 年度第 2 回健康科学セミナー 「物質関連障害--薬物やめますか？それとも人間やめますか？-」** 講師：伊藤　千裕（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	15
42	2014 12.9	**2014 年度第 3 回健康科学セミナー 「学生の尿を診る-学生におけるピンク尿症候群の実態-」** 講師：小川　晋（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	12
43	2015 1.20	**2014 年度第 4 回健康科学セミナー 「喫煙と循環器疾患」** 講師：佐藤　公雄（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	12
その他			
44	2014 7.16	**グローバル化社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養育の開発研究「学習成果アセスメントをめぐる国際動向 TUNING-AHELO を中心に」** 講師：深堀　聰子（国立教育政策研究所高等教育研究部・総括研究官）	13
45	2014 7.25	**高度教養教育・学生支援機構発足記念国際シンポジウム「21 世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」** 趣旨説明「東北大学高度教養教育・学生支援機構の設立と展望」 花輪　公雄（東北大学理事（教育・学生支援・教育国際交流担当）・高度教養教育・学生支援機構長） 基調講演 1「21 世紀を生きるグローバル市民をどう育成するか －大学教育に期待すること」 松浦　晃一郎（公益財団法人日仏会館理事長，一般社団法人アフリカ協会会長，元ユネスコ事務局長） 基調講演 2「Why Liberal Education Matters: 21st Century Challenges」 アン・フェレン（Senior Fellow at AAC&U, Former Provost of American University in Bulgaria） パネルディスカッション 桜井　勝延（南相馬市長）※インターネット中継 鈴木　基之（東京大学名誉教授，国際連合大学・特別学術顧問，東京工業大学・監事） 黒崎　伸子（特定非営利活動法人国境なき医師団日本・会長） 松尾　基之（東京大学教養学部附属教養教育高度化機構長） 花輪　公雄	126
46	2014 10.16	**院生キャリアセミナー[学内限定]** 講演 1 「人文・社会科学における研究キャリア形成 -現状と若干の提言」 佐藤　裕（国際教養大学・助教） 講演 2 「理系大学院生のキャリア展望－ポストドクタ -調査の経験から-」 岩崎久美子（国立教育政策研究所・総括研究官）	35

2. 刊行物一覧

発行年月	発　　行	刊　行　物　名
2014.12	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report　56 第 20 回東北大学高等教育フォーラム／新時代の大学教育を考える[11]報告書 グローバル人材の育成に向けて―これからの高校教育・大学教育における課題―
2015.2	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report　57 「第 8 回東北大学基礎ゼミ FD・ワークショップ」報告書
2015.2	高度教養教育・学生支援機構 青森県教育委員会	IEHE Report　58 東北大学高度教養教育・学生支援機構アウトリーチプログラム (7) 地元って何だろう？
2015.2	IDE 大学協会東北支部 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report　59 平成 26 年度 IDE 東北支部　IDE 大学セミナー／第 21 回東北大学高等教育フォーラム 平成 26 年度 IDE 大学セミナー「大学教育における ICT 活用の光と影」報告書
2015.2	高度教養教育・学生支援機構	PD ブックレット Vol.6 「大学教員のブレーク・スルー」 Faculty Breakthroughs in Higher Education
2015.3	高度教養教育・学生支援機構	高等教育ライブラリ 9 研究倫理の確立を目指して―国際動向と日本の課題―
2015.3	高度教養教育・学生支援機構	東北大学高等教育開発推進センター紀要　第 10 号（最終号）2015

3. 教員の活動（平成26年4月～平成27年3月の主な活動）

所　属	職　名	氏　名	備　考
機構長	東北大学理事	花　輪　公　雄	
副機構長	教授	羽　田　貴　史	
副機構長	工学研究科教授	安　藤　　晃	
教育評価分析センター (Center for Institutional Research)	センター長/教授	関　内　　隆	
	副センター長/准教授	杉　本　和　弘	
	講　師	串　本　　剛	
大学教育支援センター (Center for Professional Development)	センター長/副機構長/教授	羽　田　貴　史	
	副センター長/准教授	杉　本　和　弘	
	助　教	今　野　文　子	
入試センター (Admission Center)	センター長/農学研究科教授	牧　野　　周	
	副センター長/教授	石　井　光　夫	
	教　授	鈴　木　敏　明	
	准教授	倉　元　直　樹	
言語・文化教育センター (Center for Culture and Language Education)	センター長/副機構長/工学研究科教授	安　藤　　晃	
	副センター長/准教授	北　原　良　夫	
	教　授	浅　川　照　夫	
	教　授	上　原　　聡	
	教　授	佐　藤　勢紀子	
	教　授	吉　本　　啓	
	准教授	菅　谷　奈津恵	
	准教授	副　島　健　作	
	准教授	橘　　由　加	
	准教授	中　村　　渉	
	講　師	ダニエル・アイコースト (Daniel EICHHORST)	
	講　師	トッド・エンスレン (Todd ENSLEN)	
	講　師	鎌田　ローレル (Laurel KAMADA)	
	講　師	金　　鉉哲 (キム・ヒョンチョル)	
	講　師	セシリア・シルバ (Cecilia SILVA)	
	講　師	ベルント・シャハト (Bernd SCHACHT)	
	講　師	ベン・シャーロン (Ben SHEARON)	
	講　師	ビンセント・スクラ (Vincent SCURA)	
	講　師	ジョセフ・スタボイ (Joseph STAVOY)	
	講　師	ライアン・スプリング (Ryan SPRING)	
	講　師	張　立　波 (チョウ・リツハ)	
	講　師	ドゥニ・ドゥビィエヌ (Denis DEVIENNE)	
グローバルラーニングセンター (Global Learning Center)	センター長/理学研究科教授	山　口　昌　弘	
	副センター長/教授	粕　壁　善　隆	
	副センター長/教授	末　松　和　子	
	教　授	熊　代　輝　義	
	教　授	助　川　泰　彦	
	教　授	フランク・ハンセン (Frank HANSEN)	
	准教授	ノルボシン・ザンペイソフ (Nurbosyn ZHANPEISOV)	
	准教授	シャザダ・ジハン (Shahzadah JEHAN)	
	准教授	イゴール・トルシン (Igor TRUSHIN)	
	准教授	宮　本　美　能	
	准教授	山　田　悦　子	
	准教授	マルタン・ロベール (Martin ROBERT)	
	特任准教授	田　口　香　織	
	助　教	島　崎　　薫	
	助　手	水　松　巳　奈	

所 属	職 名	氏 名	備 考
学際融合教育推進センター (Center for Interdisciplinary Studies and Education)	センター長/副機構長/教授	羽 田　貴 史	
	副センター長/教授	芳 賀　　満	
	総長特命教授	海 野　道 郎	
	総長特命教授	工 藤　昭 彦	
	総長特命教授	野 家　啓 一	
	総長特命教授	森 田　康 夫	
	総長特命教授	吉 野　　博	
	教 授	関 根　　勉	
	准教授	葛 生　政 則	
	准教授	田 嶋　玄 一	
	准教授	藤 本　敏 彦	
	講 師	中 川　　学	
	助 教	高 橋　禎 雄	
	助 教	石 川　賢 一	
	助 教	太 田　　宏	
	助 教	岡　　壽 崇	
	助 教	小 俣　乾 二	
	助 教	福 谷　圭 祐	
	助 教	松 田　欣 之	
	助 教	三 輪　浩 司	
学習支援センター (Center for Learning Support)	センター長/教授	関 根　　勉	
	副センター長/講師	中 川　　学	
	助 手	足 立　佳 菜	
	助 手	鈴 木　　学	
キャリア支援センター (Center for Career Support)	センター長/副機構長/教授	羽 田　貴 史	
	副センター長/理学研究科教授	松 澤　　暢	
	副センター長/教授	吉 武　清 實	
	特任准教授	冨 田　京 子	
	助 教	猪 股　歳 之	
学生相談・特別支援センター (Center for Counseling and Disability Services)	センター長/副機構長/工学研究科教授	安 藤　　晃	
	副センター長/准教授	池 田　忠 義	
	教 授	吉 武　清 實	
	講 師	長 友　周 悟	
	助 教	堀　　匡	
	助 手	齋 藤　未紀子	
	助 手	佐々木　真 理	
	助 手	佐 藤　静 香	
保健管理センター (Student Health Care Center)	センター長/教授	木 内　喜 孝	
	副センター長/准教授	小 川　　晋	
	教 授	伊 藤　千 裕	
	准教授	佐 藤　公 雄	
	助 教	石 田　晶 玄	
	助 教	遠 藤　克 哉	
	助 教	北　　浩 樹	
	助 教	玉 井　ときわ	
	助 教	中 西　　史	
	助 教	山 本　沙 織	
課外・ボランティア活動支援センター (Center for Service Learning and Extracurricular Activities)	センター長/生命科学研究科教授	東 谷　篤 志	
	副センター長/医工学研究科教授	永 富　良 一	

羽田　貴史 教授

〔専門分野〕高等教育論

〔研究活動〕

論文等：1)（単著）「FD の反省と課題」『IDE　現代の高等教育』No.559,（IDE 大学協会，2014 年 4 月，4-10），2)（単著）「教育マネジメントと学長リーダーシップ論」『高等教育研究』第 17 集（日本高等教育学会，2014 年 5 月，45-63），3)（単著）「『大学のガバナンス～その特質を踏まえた組織運営の在り方を考える～』へのコメント」『高等教育研究叢書 128　大学のガバナンス～その特質を踏まえた組織運営の在り方を考える～』（広島大学高等教育研究開発センター，2014 年 5 月，153-156）

図書：1)（編著）『国立大学の多様な大学間連携に関する調査研究』（国立大学協会政策研究所，2014 年 7 月，研究代表者及び 4-13，68-69，全 119p.），2)（編著）『PD ブックレット Vol.6　大学教員のブレークスルー』（東北大学高度教養教育・学生支援機構，2015 年 2 月，企画・編集およびあとがき執筆）

学会発表等：（共同）「Academic Integrity をめぐる世界の動向と日本の課題」，日本教育社会学会第 66 回大会発表（2014 年 9 月 13 日，松山大学）

科研費：基盤研究（A）「グローバル社会におけるコンピテンシーを育成する高度教養教育カリキュラムの開発研究」（2014～2017）

〔大学運営〕

大学運営：1) 総長特別補佐（研究倫理担当）及び公正な研究推進委員会副委員長，同専門委員会委員長として，文科省ガイドラインの制度化に務めた。2) 教育研究評議員として全学の運営に参加した。

全学委員会：1) 学務審議会委員，2) 同評価・改善委員会委員，3) 学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構副機構長及び機構長補佐会議メンバーとして機構の運営に参加したほか，大学教育支援センター長，キャリア支援センター長，学際融合教育推進センター長を務め，教育関係共同利用拠点事業の運営を行った。

〔業務活動〕

大学教育支援センター長として，教育関係共同利用拠点事業の実施に責任を持つとともに，再申請の準備を行った。

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 国立大学協会調査企画会議委員，政策研究所委員として活動し，委嘱研究「年俸制適用教員の業績評価の在り方に関する調査研究」の研究代表者として研究推進に努めた。2) 日本学術振興会「『科学者の行動規範』に基づく研修プログラム作成協力者会議」委員として編集・執筆に携わり，『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』発刊に寄与した。

学会活動：日本高等教育学会理事，大学教育学会理事，同常任理事，同学会課題研究候補選定委員会委員長，日本教育社会学会理事を務めた。

社会教育活動：1) 地域科学研究会講演「研究倫理確立に向けた大学・学会の責務－責任ある研究活動をめざす国際動向と日本の課題」（6 月 3 日，東京），2) 三菱総合研究所講演「Academic integrity（学問的誠実性）保証に関する世界の動向と日本の課題」（8 月 6 日，東京）

関内　隆 教授

〔専門分野〕西洋近代史・高等教育論

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育では「歴史と人間社会」（２コマ），「基礎ゼミ」（２コマ），「歴史学」「展開ゼミ」，「復興の思想」の 7 コマ（いずれも代表）を担当。学部専門教育・大学院教育では文学部・文学研究科においてヨーロッパ史各論（欧米近現代史特論）２コマを担当。

学外非常勤講師：仙台白百合女子大学で外国史Ⅰ，外国史Ⅱを担当。

〔研究活動〕

論文等：報告（単著）「高等教育開発推進センター10 年の活動概観」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第 10 号（2015 年 3 月），43－52 頁

招待講演：「『復興大学』復興人材育成教育コースの活動と展望」第 11 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（2014 年 9 月 14 日，岩手大学）

その他：第 3 回国連防災世界会議　パブリックフォーラム【シンポジウム】「『復興大学』からの発信」

〔大学運営〕

大学運営：評価分析室副室長として，認証評価に関する自己評価書の取り纏めと訪問調査対応に関するワーキンググループの責任者を務めた。

全学委員会：学務審議会委員，同審議会の教務委員会，教育情報・評価改善委員会，基幹科目委員会，基礎ゼミ委員会の各委員

部局内委員会等：機構長補佐会議メンバー，高等教育開発部門長，教育評価分析センター長

〔業務活動〕

機構の業務：高等教育開発部門長として毎月第一木曜日に高等教育開発部門会議を開催し，審議および報告の中で，部門構成メンバー間での意見交換を継続的に行った。
教育評価分析センター業務：センター発足 1 年目の主たる活動として，9 月にキックオフセミナーを開催し，年度末の 2～3 月には「第 2 回東北大学の教育と学修成果に関する」を実施するなど，これら事業の統括役を果たした。
〔社会貢献〕
各種委員等：大学基準協会の大学評価委員会委員および大学基準委員会委員，岩手県地方独立行政法人評価委員会専門委員，東北学院大学外部評価委員会委員，東北大学出版会理事，学都仙台コンソーシアム「復興大学」運営幹事会委員
学会活動：西洋史研究会理事，社会経済史学会評議員，東北史学会評議員

杉本　和弘 准教授
〔専門分野〕比較教育学・高等教育論
〔教育活動〕
授業担当状況：全学教育・展開科目（社会学）「現代大学論」（受講者数 35 名）
同授業では大学の成立と特徴，近代大学の成立・発展，近代日本の大学史，世界各国の大学制度・大学教育・大学生の実態や課題等について理解を深めることを目的とした。このうち各国の大学・大学生事情を扱うに際しては，学内の当該国出身教員や当該国の教育を専門に研究する教員に協力をお願いし，世界の大学の多様性と共通課題について考える機会を提供した。講義を通して基本的知識を提供することに加えてディスカッションも多用し，議論を通して学生相互に学び合う機会の提供を重視しており，学生からも高い評価を得た。
さらに，H26 年度から「人文・社会科学短期留学生受入プログラム（IPLA）」で「フィールドワークで学ぶ日本の社会と教育（Fieldwork on Society and Education in Japan）」を開発・開講した（受講者数 18 名）。講義とグループワークでは，日本の教育課題への知識理解を促す一方，留学生が日本の教育現場に直接触れる機会として，仙台市内の学校等（宮城県教育委員会，二華中高，尚絅学院中高，旭ヶ丘小学校）へのフィールドワークも実施し，授業参観（参加）や児童・生徒との交流を行った。
〔研究活動〕
『大学改革を成功に導くキーワード 30―「大学冬の時代」を生き抜くために―』（学事出版）において，「ガバナンス」，「グローバル人材の育成」，「学修支援環境の整備」の執筆を担当した。また，『新版 オーストラリア・ニュージーランドの教育』（東信堂）において，「第 4 章 オーストラリア：労働市場と第三段階教育」を執筆した（竹腰千絵・我妻鉄也との分担執筆）。さらに，広島大学高等教育研究開発センター第 40 回研究委員集会（H24 年 11 月開催）の講演「地域研究からアプローチする豪州高等教育―我が国の実践課題とどう切り結ぶか―」を論稿（同タイトル）として発表した。
学会活動としては，日本比較教育学会第 49 回大会で科研費（研究分担者）による研究成果として「グローバル化がもたらす人の国際移動と教育の課題―豪州ヴィクトリア州の事例を中心に―」を研究発表した。また，オーストラリア学会第 24 回全国研究大会シンポジウムではコメンテーター（招待）の立場から「アジア太平洋地域における人材育成―日本の高等教育の課題―」を口頭発表した。
その他，教育関係共同利用拠点事業の一環として，C・マキニス，P・ラムズデン，D・マコナキー著‘Executive Leadership of Learning and Teaching in Higher Education’を翻訳し，解説を付した上で『高等教育における教育・学習のリーダーシップ』（PD ブックレット No.5）として刊行した。
〔大学運営〕
全学レベルでは，学務審議会委員を務めるとともに，教育情報・評価改善委員会，基礎ゼミ委員会，学務情報システム運営委員会の各委員を務めた。また，学務審議会に置かれた「大学機関別認証評価対応ワーキンググループ」のメンバーとして，本学のカリキュラムポリシー，ディプロマポリシー案の策定を行った。
さらに，評価分析室員として 25 年度部局評価の実施や 26 年度受審の機関別認証評価の自己評価書作成に携わった。
〔社会貢献〕
学会活動としては，大学教育学会第 35 回を本学で開催し（H25.6.1-2），大会企画委員，大会実行副委員長を務めた。引き続き日本比較教育学会の研究委員会委員，オセアニア教育学会編集委員長（H23 年 1 月～）を務めるとともに，H25 年度から新たに日本高等教育学会編集委員を務め，各学会の学術活動の質向上に貢献した。また，国際ジャーナル‘Higher Education Research and Development’の Associate Editor として同学術誌編集に携わり，国際的な高等教育研究の質的向上に貢献した。

串本　剛 講師
〔専門分野〕高等教育論
〔教育活動〕
授業担当状況：1）全学教育「人間と文化」前期：大学教育論，2）全学教育「基礎ゼミ」前期：社会調査入門，3）全学教育「人

間と文化」後期：大学教育論，4）全学教育「総合科学」後期：文章による議論の方法（国際共修ゼミ）

〔研究活動〕

論文等：1)（単著)「小規模大学における教学改革」『大学の特色に応じた教学マネジメント』(私学高等教育研究叢書 1) pp. 45-48，2)（単著）「教学マネジメントに関する学内コンセンサス」『高等教育研究』17，pp. 65-77，3)（単著）「学生支援の評価」『大学教育学会誌』36(1), pp.78-79，4)（共著）「第 3 章 教育における大学間連携の現状」『国立大学の多様な大学間連携に関する調査研究』pp. 35-50，5)（単著）「学生調査を使った教育・学習過程の分析」『高度教養教育・学生支援機構紀要』1, pp. 1-9

指名報告：「大学改革は学業成績の意味を変えるのか？」日本高等教育学会研究交流集会（12 月 6 日，仙台）

科研費：「大学生の学習活動との関係に見る成績評価の適切性」（基盤 C，2013-2016 年度）

〔大学運営〕

全学委員会：基礎ゼミ委員会専門委員，基幹科目委員会専門委員，教育情報・評価改善委員会推薦委員

部局内委員会：紀要編集委員会委員

その他：IDE 大学セミナー実行委員会委員

〔業務活動〕

機構の業務：大学教育支援センター（CPD）「授業デザインとシラバス作成」ワークショップを 2 度担当

教育評価分析センター業務：「第 2 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」の企画および調査結果の分析・報告

〔社会貢献〕

各種委員等：1）私学高等教育研究所：研究協力者，2）関西国際大学教育総合研究所：客員研究員，3）広島大学：文部科学省委託研究の研究会委員，4）大学間連携事業：中間評価に係る書面評価委員

他大学での講演等：1）横浜国立大学 FD 合宿研修会：ワークショップ「成績評価を後付けしない授業のデザイン」を担当，2）東北文化学園大学 FD：ワークショップ「授業デザインとシラバス作成」を担当，3）関西大学 IR 勉強会：報告「東北大学における IR の取り組み」を担当

今野　文子 助教

〔専門分野〕教育工学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育 基礎ゼミ「映像作成を通して情報発信力を鍛えよう（前期開講・2 単位）」当該授業の受講学生は基礎ゼミ成果発表会にてプレゼンテーション賞を受賞

大学院教育 教育情報学教育部 自由聴講科目「リフレクションの理論と実践（後期開講・2 単位）」

大学院教育 教育情報学教育部 「研究方法入門セミナー（オムニバス形式）」1 コマ担当

〔研究活動〕

論文等：1)（論文・共著）Initial development and use of materials, based on the theory of instructional design, for blended learning of Chinese as a second foreign language in a Japanese university, Proc. of 2014 International Conference of Teaching Chinese as a Second Language, pp.99-107, 2014.（査読有），2)（論文・共著）“University Teachers’ Needs of Support for Designing and Preparation of Courses: A Focus on Differences by Academic Discipline and Rank,” Proc. of the 22nd International Conference on Computers in Education. Japan: Asia-Pacific Society for Computers in Education, Short Paper, pp.1005-1010, 2014.（査読有），3)（論文・共著）「第二外国語としての中国語学習のためのブレンディッドラーニングにおける e ラーニング教材設計指針の作成と実践」,『教育システム情報学会誌』，教育システム情報学会，31(1)，pp.132-146，2014.（査読有），4)（特許・共同）「映像イベント検出装置およびその動作方法」日本電信電話株式会社，国立大学法人東北大学，特許番号 5565737，2014 年 06 月 27 日

科研費：1）若手研究(B)「成長型教授設計プロセスモデルに基づく授業リフレクションプログラムの開発」代表者，2）基盤研究(C)「成長型教授設計プロセスのためのクラウド型教育環境の構築」分担者，3）基盤研究(A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」分担者

〔業務活動〕

機構の業務：「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」として，大学教員準備プログラム（PFFP），新任教員プログラム（NFP）等の開発・実施に携わり，将来大学教員を目指す大学院生・博士研究員，および新任教員の職能開発支援に従事。また，各種セミナーを動画コンテンツ化し，広く一般に公開する PDPonline の開発を実施

〔社会貢献〕

学会活動：International Conference on Computers in Education 2014 における現地実行委員

その他：NPO 子どもの村東北において，震災孤児支援に関するセミナーの通訳に従事

石井　光夫 教授

〔専門分野〕比較教育学（現代中国・東アジア），大学入試論

〔教育活動〕

授業担当状況：大学院教育（教育学研究科　比較教育システム論・講義及び演習各 2 単位）

学位論文指導・審査：教育学研究科・学生（博士 1 名・修士 3 名）の副指導教員，博士審査（1 名，副査）

留学生受入れ：博士学生 1 名は台湾留学生（博士論文），修士学生 3 名は中国人留学生。

〔研究活動〕

論文等：1)（共著）「台湾の大学入試改革と学力保証」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 1 号 23-35 頁(2015.3)，2)（単著）「東アジアの入試改革と学力保証」『東アジアにおける入試多様化と学力保証に関する研究』日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（C）研究成果報告書，1-16 頁（2015.3）

科研費：1）基盤研究（C）「東アジアにおける大学入試多様化と学力保証に関する研究」（平成 24～26 年度），代表者，2）基盤研究（A）「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」，研究分担者

〔大学運営〕

全学委員会：入学試験審議会委員，入試企画・広報委員会副委員長，入試実施委員会委員，広報戦略室委員，FGL 実施委員会委員，国際交流委員会委員

各種支援活動：中国代表事務所所長補佐

〔業務活動〕

入試センター業務：センター試験および一般入試の実施（入試実施本部員），他学部の AO 入試への情報提供・助言，その他関連入試業務

入試開発室業務：東北大学高等教育フォーラムの企画・運営

〔社会貢献〕

各種委員等：1）IDE 大学協会　東北支部のセミナー開催（実行委員）報告書作成，2）国立大学アドミッションセンター連絡会議（幹事）

学会活動：京都大学教育学研究科紀要査読委員

入試広報：1）入試説明会（高校教員対象）18 会場のうち 6 会場担当，2）進学説明会（札幌会場 6 月・東京会場 7 月・大阪会場 7 月）を担当，3）高校訪問（2 校）・進学講演会講師，4）各種入試説明会・ガイダンスへの参加（5 会場）

鈴木　敏明 教授

〔専門分野〕教育心理学，発達心理学，発達臨床行動論

〔教育活動〕

授業担当状況：本学教育学研究科において，「発達臨床論特論Ⅱ」と「発達心理学特論Ⅱ」を担当した。他大学等においては，「教育相談」（教職に関する科目）と「心理学」（教養科目）を担当した。

〔研究活動〕

学生時代，前任の仙台大学在職中，東北大学在職中に収集・蓄積してきた未着手／一部着手の資料・データ類の整理・分析，デジタル化，サーバに蓄積したデータの移行等の作業を開始した。

2007 年以来，共同研究として進めてきたボールゲーム（特にバスケットボール競技）のスコアデータの多次元構造の解析方法の研究を継続実施した。

〔大学運営〕

全学委員会：入試企画・広報委員会委員

入試・企画広報委員会の委員としてＡＯ入試を中心とする本学入試システムの企画・調整・実施を担当した。

〔業務活動〕

入試センター業務：入試関連の各種説明会，オープンキャンパス，受験情報関連の各種メディアへの情報提供，個別高校対応等，入試広報活動全般の企画・調整・実施を担当した。

〔社会貢献〕

社会教育活動：宮城県教育庁生涯学習課登録講師，青森県立五所川原高校進路講演会講師，「夢ナビライブ・仙台」（主催：株式会社フロムページ）講師を担当した。

倉元　直樹 准教授

〔専門分野〕教育心理学・大学入試研究他

〔教育活動〕

授業担当状況：大学院文学研究科「心理学特論Ⅰ」，「心理学研究演習Ⅵ」，大学院教育情報学教育部「IT 教育基礎論特論 C」他。
学位論文指導：博士 5 名，審査：副査 1 名（論文博士）。
学振特別研究員：受入 1 名（就職決定のため辞退）。
その他：指導学生の多くが社会人学生のため，研究室運営は原則月 1 回，休日実施の研究室ゼミを中心に行い，その他，個別のニーズに応じた対応を行っている。
〔研究活動〕
論文等：1)（共著）「東北大学工学部 AO 入試受験者にみる大学入試広報の効果――その意義と発信型，対面型広報の効果――」『日本テスト学会誌』10，2014 年 6 月，125-146，2)（共著）「東北大学歯学部における志願者・入学者の学力水準の変化――医学部医学科定員増の影響を中心に――」『大学入試研究ジャーナル』25，2015 年 3 月，63-71，他共著 1 編。
辞書：1)「心理学辞典」，誠信書房，担当項目「推定」，18-20
学会発表等：1)（単独）The Great East Japan Earthquake Shock to University Freshman Recruitment. Western Psychological Association Annual Convention, 140, April 2014. 他，共同発表 7 件。
シンポジウム：1)（共同企画）「国立大学の入試広報戦略」日本テスト学会第 12 回大会，2014 年 8 月，他講演 1 件。
科研費：1）基盤研究(B)「医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題――看護職志望者の適性と大学入試――」(代表)(2010～2015)，2）挑戦的萌芽研究「大学入試における多面的・総合的な評価方法の開発――テストレットモデルの応用――」(代表)(2013～2015)，他分担 4 件。
〔大学運営〕
全学委員会：1）入試実施委員会委員，2）入試企画・広報委員会委員
〔業務活動〕
機構の業務：1）第 20 回東北大学高等教育フォーラム「グローバル人材の育成に向けて――これからの高校教育・大学教育における課題――」の企画立案，討議司会，運営。参加者 171 名：機構の設立に当たり，その特徴を参加者に伝えるお披露目イベント的な役割として機能した。
入試センター業務：1）本学主催教員対象入試説明会 7 回，2）高校主催教員対象入試説明会 2 回，3)本学主催進学説明会 3 回（うち講演 2 回），4）高校別東北大学入試説明会（含，教員との意見交換）8 回，5）高校等主催合同説明会 2 回，6）業者主催合同進学相談会等 6 回（うち講演 3 回），7）高校訪問（意見交換）6 回。
〔社会貢献〕
各種委員等：1）入研協企画委員会委員，2）公益財団法人日本英語検定協会理事，3）日本学術振興会審査員 2 件。
学会活動：1）日本テスト学会理事，2）同編集出版委員会委員長，3）ISE 国際教育学会理事，4）同学会誌編集委員，5）同学会賞選考委員，6）日本行動計量学会第 42 回大会実行委員会副委員長兼事務取扱。
社会教育活動：1）高校教員研修講師 2 回，2）仙台大学科研費 FD 講師 1 回。

北原　良夫 准教授
〔専門分野〕英語学，言語学，高等教育論，英語教育
〔教育活動〕
授業担当状況：全学教育「英語 A1」（医（医）1，医（保）1），「英語 A2」（文教 1，工 1，全 1），「英語 B1」（工 1），「英語 B2」（工 1），「英語 C1」（法 1）
大学院教育（国際文化研究科）「異文化間教育論特論 A 及び B」各 1，「特別研究（異文化間教育論）A 及び B」各 1，「異文化間教育論総合演習 A 及び B」各 1，「特別演習（異文化間教育論）A 及び B」各 1，「言語調査解析論Ⅰ」×1
学位論文指導：博士 4 名，審査：副査 3 名，試験委員 3 名
留学生受入れ：中国人留学生（1 名）を国際文化研究科の研究生として受け入れ
〔研究活動〕
論文等：（単著）「第 2 部第 3 章　グローバルリーダー育成プログラム－平成 25 年度「TOEFL-ITP」実施結果分析」『平成 25 年度 TOEFL-ITP 実施報告書』（東北大学学務審議会外国語委員会英語教科部会，2014 年 4 月 18 日，53-64）
科研費：挑戦的萌芽研究「スペイン高等教育における教養教育の「二重の質保証」システムに関する研究」（2012～2014）
〔大学運営〕
全学委員会：1）学務審議会委員，2）同外国語委員会委員，3）同外国語委員会学習専門部会委員（施設設備小委員会），4）同学務情報システム運営委員会委員，5）グローバル人材育成推進事業実施委員会委員
部局内委員会：1）高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター副センター長，2）同大学教育支援センタープログラム開発部門長，3）同総務委員会委員，4）同総務委員会英語化ワーキンググループリーダー，5）同施設設備委員会委員，6）国際文化研究科代議員

〔業務活動〕

機構の業務：総務委員会に設置された「英語化ワーキンググループ」のリーダーとして，20 点以上に上る機構の規程等をはじめ各種の文書等の英語化に主体的に従事した。

言語・文化教育センター業務：センターの副センター長として，センター運営業務，シンポジウムやセミナーの企画・実施などをはじめ，センターに関わるさまざまな業務に主体的に従事した。

〔社会貢献〕

社会教育活動：1）第 20 回東北大学高等教育フォーラム「新時代の大学教育を考える（11）グローバル人材の育成に向けて―これからの高校教育・大学教育のおける課題―」（5 月 16 日，仙台），2）高大連携セミナー「グローバル時代の英語教育－高大 5 年間で伸ばす英語運用能力」，3）言語・文化教育センター設立記念セミナー「グローバル時代における外国語教育の新たな可能性」（10 月 25 日，仙台）

浅川　照夫 教授

〔専門分野〕英語学，英語教育

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育科目「英語 A1，A2」「英語 B1，B2」「英語 C1，C2」

上原　聡 教授

〔専門分野〕認知言語学・日本語教育

〔教育活動〕

授業担当状況：国際共修クラス（全学教育カレントトピックス，同展開科目）「歌に学ぶ日本の言葉と心－国際共修ゼミ－」，「日本語の文法を外から見て考える－国際共修ゼミ－」（新規開設）；日本語特別課程クラス「日本語応用初級前期・初級後期」（日本語研修コース），「日本語読解中級前期」（自然科学系短期留学プログラム）；大学院教育「言語文化交流論特論 A・B」「言語文化交流論総合演習 A・B」「言語文化対照論Ｉ」（国際文化研究科言語文化交流論専攻）

学位論文主指導：博士５名，修士３名，審査：主査３名，副査１名

留学生・社会人受入れ：日本語研修コース（国費留学生予備教育プログラム）受入指導，大学院担当講座受入（留学生 16 名，社会人１名）

その他：国際言語科学大学院コース（国際文化研究科）参画

〔研究活動〕

論文等：1）（共著）Effects of Constituent Orders on Functional Extension Patterns of the Verbs for Give: A Contrastive Study of Thai and Mandarin Chinese. Language and Linguistics, 16. January, 2015, 43-68,　2）（共著）The So-called Person Restriction of Internal State Predicates in Japanese in Contrast with Thai. *PACLIC 28 - Proceedings of the 28th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computing*, February, 2015, 120-128.

学会発表等：1）（共同）「使役受身事態を表わす構文に関する日中対照研究―認知言語学的視点から-」第六届漢日对比語言学研討会発表（2014 年 8 月 21 日，中国人民大学），2）（単独）「聞き手領域への移動を表す「来る」表現に関する一考察 -タイ語との対照から日本語を考える-」タイ国日本研究国際シンポジウム発表（2014 年 8 月 26 日チュラロンコーン大学），3）（単独）「日本語の「人称制限」は「人称」制限ではない-内的状態述語における話者・概念化者・体験者を区別する―」日本認知言語学会第 15 回大会発表（2014 年 9 月 20 日，慶応大学），4）（共同）「韓国語の「고」，「라고」，「려고」と日本語の対応関係に関する一考察－会話文の文末に現れる用法に着目して－」第 65 回朝鮮学会大会発表（2014 年 10 月 4 日，天理大学）

招聘発表：上記学会発表等のうち 3)は日本認知言語学会大会招聘発表

科研費：基盤研究（C）「アジア諸語を対象とした主体・主観性の構文と語彙化に関する認知類型論的実証研究」（2012-2015）

その他：国立国語研究所日本語レキシコン共同研究プロジェクト

〔大学運営〕

全学委員会：1）日本語研修教育運営実施委員会委員，2）同専門委員会委員，3)自然科学系学生交流実施委員会委員，4）日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会委員

部局内委員会：1）高教機構教育・学生支援機構紀要編集委員会委員，2）大学院国際文化研究科附属言語・脳・認知総合科学研究センター運営委員会委員，3）国際文化学会役員会総務・監事，4）英語講師選考委員会委員，英語教授選考委員会委員，英語教授人事委員会委員

各種支援活動：言語・文化教育センター日本語教育セクション HP 管理

〔業務活動〕

学生支援業務：日本語研修コースにおける学生支援（国費留学生受入および指導，見学旅行付添いなど）

言語・文化教育センター業務：日本語研修コース・コーディネーター（カリキュラム編成および運営業務），自然科学系短期留学プログラム日本語コース・コーディネーター（運営業務，成績の Web 入力化への移行），センター日本語教育セクションの HP 情報ネットワークの構築

〔社会貢献〕

学会活動：Journal of Letters（タイ国チュラロンコーン大学文学部発行）編集委員

国際交流活動：特別訪問研修生受け入れ（7-8 月）

社会教育活動：天理大学日本語専攻検討チーム懇談会（４月 28 日：助言・相談役）

佐藤　勢紀子 教授

〔専門分野〕日本思想史学・日本語教育学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「日本文化を考える―国際共修ゼミ―」，大学院教育「日本言語文化論Ⅰ（『源氏物語』における霊魂観）」（国際文化研究科），「研究のための日本語スキル」（同），「言語文化交流論総合演習Ａ・Ｂ」（同），「言語文化交流論特論Ａ・Ｂ」（同），その他「中級後期日本語読解（R4）」（外国人留学生等特別課程），「中級後期日本語作文（W4）」（同），「中級後期日本語応用速修（P4-E）」（同），「上級日本語応用 速修（P5-E）」（同），「上級日本語応用（P5）」（同），「上級日本文化演習（日本文 化を考える）（JC5）」（同），「上級日本文化演習（古典入門）（CL5）」（同）

学位論文指導：博士1名（国際文化研究科），審査：主査1名（同）

テキスト：アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語』シリーズ（アルク）の改訂（次年度へ継続）

留学生の受入れ：1）留学生7名を受け入れ・指導（日韓共同理工系学部留学生プログラム），2）留学生6名を主指導教員として指導（国際文化研究科）

その他：大学教育支援センターの大学院生対象大学教員養成プログラムPFFPに「先達教員」として協力（授業公開，模擬授業へのコメント付与，先達コンサルテーション等）

〔研究活動〕

論文等：1）（単著）「『源氏物語』における宿世と女性―「宿世」の用例を中心に―」『東アジアの文学・言語・文化と女性』武蔵野書院，2014年5月，pp.69-98，2）（単著）「文語文を学ぶ日本語学習者が困難を感じる点―非漢字系日本学研究者に聞く―」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第1号，2015年3月，pp.163-172

学会発表等：1）（共同）「国際共修ゼミ「サマーコースを企画する」の開講」，2014年度日本語教育と日本学国際シンポジウム（2014年5月18日，同済大学），2）（共同）「研究成果の日本語による受信発信の支援を目指したニーズ調査とリソース開発―国内外の大学で日本語を学ぶ学習者のためにできること―」，科研費研究プロジェクトによるパネル・ディスカッション（2015年2月8日，東京海洋大学），3）（単独）「渡来者による聖性の付与―『源氏物語』における高麗人の役割―」，国際シンポジウム「東アジア文化交流―人と物の流通を中心に―」（2015年3月20日，温州医科大学），他

科研費：1）基盤研究(B)「研究成果の日本語による受信発信の支援を目指したニーズ調査とリソース開発」（分担），2）基盤研究(C)「日本語学習者を対象とする文語文読解教育の実態調査および教材開発」（代表）

〔大学運営〕

全学委員会：1）日本語研修教育運営委員会委員，2）日本語研修教育運営専門委員会委員長，3）自然科学系学生交流実施委員会委員

部局内委員会：1）高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育開発室室長，2）同総務委員会委員，3）同人事委員会委員，4）同研究倫理委員会副委員長，5）同言語・文化教育センター運営委員会委員，6）国際文化研究科新専攻設置準備委員会委員

各種支援活動：大学教育支援センターの若手教員対象大学教員養成プログラムNFPに「先達教員」として協力（授業公開，模擬授業へのコメント付与，先達コンサルテーション等）

〔業務活動〕

学生支援業務：理系短期留学生受入プログラムの交換留学生，日韓プログラム研修生の相談への対応（随時）

機構の業務：1）理系短期留学生受入プログラム（JYPE, COLABS）の日本語コースの企画・運営（2014年度前期），2）日韓共同理工系学部留学生プログラムの企画・運営および研修生指導（同後期），3）夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラム参加者の機構特別訪問研修生としての受け入れに関するコーディネーションおよび研修生指導

言語・文化教育センター業務：センターの運営に関する諸業務

言語・文化教育開発室業務：室関連の人事に関する諸業務

〔社会貢献〕

学会活動：1）日本語教育学会理事，2）専門日本語教育学会編集幹事（委員長），3）日本文芸研究会編集委員会委員

国際交流活動：1）同済大学（2014年5月），南開大学（同9月），北京大学（同）等を訪問，共同研究を行い，教育・研究交流について協議，2）華中科技大学，ノボシビルスク国立教育大学から研究者招聘（2015年2月），3）（一財）東北多文化アカデミー理事として3つの短期日本語・日本文化研修プログラムを企画・実施，参加学生を東北大学の特別訪問研修生として受け入れ（計97名，うち機構23名）

社会教育活動：1）宮城県宮城第一高等学校同窓会石巻支部総会講演「光源氏のモデル」（2014年8月），2）名取高等学校『進路ニュース』寄稿（2014年11月）

その他：（一財）東北多文化アカデミー理事

吉本　啓 教授

〔専門分野〕形式文法，言語認知科学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育科目「日本語 A, B, C, D, G, H」「Basic Japanese」「Linguistics」，国際文化研究科「言語データ分析論」英語による入門・初級日本語授業（Basic Japanese）に関し，教材を含めた授業準備，授業の実施，および学生への補習を行う体制を菅谷准教授および非常勤講師，TA とともにさらに整備した。また引き続き，留学生日本語教育において，学生の勉学・生活への応用力向上を目指して，4 技能のバランスの取れた学力の発展に努力した。兼担する大学院国際文化研究科では，形式言語学にもとづく日本語解析およびコーパス構築をテーマとして講義「言語データ分析論」を行った。

学位論文指導：主指導教員として博士学位取得者 2 名，および副指導教員として修士学位取得者 1 名を指導した。

学振特別研究員（DC2）1 名，産学連携研究員 1 名を受け入れている。

〔研究活動〕

形式文法および言語情報処理研究の基礎の上に立って，コーパス構築法や日本語文意味解析の研究を行った。その成果を次世代型日本語コーパスの構築に発展させた。この 1 年間で，編著書 1 本，論文 4 本を公表し，学会発表を 6 回行った。

著書：（共編）Formal Approaches to Semantics and Pragmatics: Japanese and Beyond, Springer (2014)

科研費：基盤研究（C）「次世代日本語コーパスプロトタイプの構築とその脳認知言語学実験への応用」（2013-2015）研究代表者

共同研究：産学連携研究員として受入れているバトラー氏との自然言語の文の意味解析に関する共同研究は，形式意味論を用いて大量の言語データの自動意味解析を行い多様な用途に供する実際的な試みとして成果を産みつつある。成果としての日本語コーパスの構築に関連して，NTT コミュニケーション科学基礎研究所より研究費を得て，共同研究を行っている。また，国立国語研究所との共同研究プロジェクトを平成 28 年度より開始することが決定しており，平成 26 年 8 月より 1 年間，研究費を同研究所より得て予備研究（フィージビリティスタディ）を行った。

〔大学運営〕

全学委員会：学務審議会外国語委員会専門委員（日本語）として，全学留学生日本語教育の体制整備を行った。

学術資源研究公開センター運営専門委員会委員として，博物館，史料館，植物園の運営に参画した。

国際文化研究科付属言語脳認知総合科学研究センター長として，同センターを運営した。

〔業務活動〕

機構の業務：高度教養教育・学生支援機構業績評価指針作成検討 WG の一員として「東北大学高度教養教育・学生支援機構教員の選考に係る運用指針」の原案を作成した。

〔社会貢献〕

学会活動：Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation の運営委員を担当している。同学会は，東アジア地域のコンピュータ言語学，形式文法の活性化および研究者間の交流に貢献している。

また，人工知能学会国際ワークショップ Logic and Engineering of Natural Language Semantics の実施委員会の一員として，形式意味論を中心とするワークショップを各年行っている。国際的な学術交流の核として貢献している。

言語情報科学会会長に再任された。

国際交流活動：産学連携研究員として Alastair Butler さんを受け入れ，高度文解析情報付き日本語コーパスの開発および意味論にもとづく日本語文解析に関して共同研究を行っている。

菅谷　奈津恵 准教授

〔専門分野〕日本語教育・第二言語習得

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「Basic Japanese 1，2」「日本語 E，F，I，J」

Basic Japanese では授業計画の複数の担当教員，TA との共同作業が円滑に進むよう調整役を務めている。各授業では，配布資料の一部をネット上で公開した。日本語 E では専用の E-learning サイトを作成し，授業外での学習促進を図った。

大学院教育（国際文化研究科）「第二言語習得論」「異文化間教育論特論 AB」「異文化間総合演習 AB」
大学院生への情報提供のため，個人ホームページにて授業配布物や参考資料を掲載した。
博士論文審査：副査 2 名
その他：大学の世界展開力強化事業（ロシアとの大学間交流形成支援）の一環として行われた異文化体験型学生交流プログラムの開発と実施に携わった。
〔研究活動〕
論文等：1)（共著）「弁別課題によるタイ人日本語学習者のアクセント知覚の困難点」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』1, 63-74
学会発表等：1)（単独）「日本語学習者はテイナイを使っていないか」 The 13th EAJS International Conference, University of Ljubljana, Slovenia, 2014 年 8 月 29 日（『第 18 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム報告・発表論文集』273-274.），2)（単独）「造語動詞を用いたテ形活用実験」台湾日語教育国際学術シンポジウム，台湾東呉大学, 2014 年 11 月 29 日（『台湾日語教育国際学術シンポジウム予稿集』237-248.）
提題者・司会者：「第二言語での引用はなぜ難しいか」第 25 回第二言語習得研究会全国大会，パネルディスカッション，筑波大学, 2014 年 12 月 14 日（『第 26 回第二言語習得研究会全国大会予稿集』pp.10-11.）
科研費：基盤研究(C)「日本語学習者の動詞活用メカニズムの解明」（代表, 2011-2014 年度）
〔大学運営〕
部局内委員会：言語・文化教育センター運営委員
各種支援活動：1)大学教員準備プログラム（PFFP），新任教員プログラム（NFP）に「先達教員」として参加し，プログラム実施を支援した。2)研究倫理シリーズ第 1 回「盗用と言われない英語論文の執筆」を企画・実施した。
〔業務活動〕
言語・文化教育センター業務：センター運営委員としての業務，日本語教育セクションのホームページ更新業務
〔社会貢献〕
学会活動：1) 第二言語習得研究会大会運営委員：第 25 回全国大会の企画・運営を行った。2015 年 1 月より大会運営委員長として次回大会の開催準備を進めている。2) 第 2 言語習得研究会（関東）運営委員を務めた。3)日本語教育学会研究集会委員。盛岡大での研究集会の運営に携わった。
国際交流活動：1) ロシア国立高等経済学院（HSE）との大学間協定の締結に尽力し，9 月の締結式に参加し，交流を行った。2) ノボシビルスク大学の 55 周年記念式典（9/26-28）に参加し，交流を深めた。1 月から 3 月にはノボシビルスク大生と東北大生との異文化体験型学生交流プログラムの企画・実施に貢献した。3) ロシア交流推進室室員として業務を行った。
社会教育活動：国際文化研究科附属言語脳認知総合科学研究センター主催，第 17 回「言語・脳・認知」コロキアム「第二言語指導効果研究への招待」を企画・実施した。

副島　健作 准教授
〔専門分野〕現代日本語文法・言語学・日本語教育
〔教育活動〕
授業担当状況：1) 日本語教育　外国人留学生等特別課程日本語科目「G3 (中級前期日本語文法)」「W3 (中級前期日本語作文)」「R3 (中級前期日本語読解)」「G4 (中級後期日本語文法)」「JF5 (上級日本文化演習)」＝全学教育科目「映像に見る日本語と日本文化」（基礎ゼミ），2) 大学院教育　国際文化研究科大学院科目「言語文化構造論Ⅱ」「言語文化交流論特論 A, B」「言語文化交流論総合演習 A, B」，3) TUCPR（ノヴォシビルスク国立大学とのショートステイ交換留学プログラム）の日本語科目（中級）8 コマ
学位論文指導：修士 3 名，審査：博士 1 名（副査），修士 1 名（副査）
留学生の受入れ：年 2 回（2012 年 7-8 月，2014 年 1-2 月），特別訪問研修生として中国からの留学生を数名受入れた。
〔研究活動〕
論文等：1)（単著）On expressions of agent de-topicalized intentional events: A contrastive study between Japanese and Russian. *Journal of Japanese Linguistics (JJL)*, Vol. 30 (2014) pp. 115-136，2)（共著）「中国における日本語学習者の日本語力に影響を及ぼす外的学習者要因」『国際文化研究科論集』第 22 号（東北大学大学院国際文化研究科，2014 年 12 月，19-31），3)（共著）「日本語力と学習ストラテジーおよび動機づけとの関係―中国とロシアの大学における日本語学習者の比較―」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』第 1 号（2015 年 3 月，37-47）
学会発表等：1)（共同）「日本語学習者の日本語力に影響を及ぼす外的学習者要因―中国とロシアの比較―」，2014 年日本語教育国際研究大会（ＩＣＪＬＥ2014）　発表（2014 年 7 月 11 日，シドニー工科大学（オーストラリア）），2)（共同）「日本語の『共感覚的比喩』の一方向性仮説に関する分析―日本語の五感を表す『動詞』と『副詞』，および『形容詞』の意味転用の方向性―」，2014 年 EAJS 国際会議　(The 14th EAJS International Conference)　発表（2014 年 8 月 29 日，リュブリャナ大学（スロベ

ニア)），3）（単独）「日本語学習者の『動作主が不特定の人為的事態の表現』使用について」，第１０回日本語教育・日本研究シンポジウム 発表（2014 年 11 月 15 日，香港大学専業進修学院（中国））

科研費：1）基盤研究（C）「日露語における「自然な言い回し」について：アスペクト・ヴォイスの認知類型論的研究」（2012～2014）（代表），2）基盤研究（C）「複数の言語における『味を表す表現』に関する研究」（2012～2015）（分担）

〔大学運営〕

各種支援活動：ロシア交流推進室員としてロシアとの交流促進に貢献した。

1）総長をはじめとする代表団に加わり，ロシアの高等経済学院 （HSE）（モスクワ）とサンクトペテルブルク国立大学との大学間交流協定締結の調印式に参列した（2014 年 9 月 30 日，10 月 1 日）。2) TUCPR の運営に協力し，日本語クラスのコーディネートや授業を実際に担当した（2015 年 1-2 月）。

〔業務活動〕

機構の業務：高度教養教育・学生支援機構の紀要編集委員として紀要の編集作業に協力した。

〔社会貢献〕

学会活動：東北大学国際文化学会編集委員

その他：東北学院大学において「日本語教育実習法（前期）」「日本語教育教材論（通年）」の授業を担当し，地域の日本語教員の人材育成に貢献した。

橘　由加 准教授

〔専門分野〕教授法，CALL，日本語・英語教育，高等教育論，日米比較文化論

〔教育活動〕

授業担当状況：（全学教育）前期，後期トータルで 12 コマ担当。科目名：CALL 演習英語 B1,B2,C1,C2（毎学期 400 名，年間を通して約 800 名前後の学生に講義を行う）。

教材開発等：全学，学部，大学院レベルで指導できる，オンライン英語学習教材 Presentation Course 開発(東北大学用のＵＲＬ：tohoku1.lincenglish.com)。自己開発（主幹）On-line 教材 LincEnglish を授業のメイン教材とし，毎週 179 問の予習を義務付け QA 方式により Listening 力，速読力の向上を目指す。また自主制作による www.yukameida.com を副教材として Reading 力と Writing 力の更なる向上も図る。この教材では，辞書に頼らずに動画ニュースや TED などのプレゼンテーションをスピーディーに音声を通じて読み進めるための教授法で指導，英文のスクリプトや質問文なども準備。高校や他校の教員にシラバス及び模擬授業公開。

その他：情報科学研究科において前期：博士課程の学生にアカデミック・ライティング論文指導，後期：修士の学生に英語コミュニケーションの講義担当

〔研究活動〕

講演等：1)「How Technology Enhanced Language Learning Effectively Improves Japanese Students` English Skills and Global Awareness:東北大学の実践』「Seminar on University Globalization: How to Improve English Quality of Japanese Students （東北大学電気通信研究所），2)「東北大学の挑戦：CALL 教育とその成果」（宮城県立私立中学高等学校英語研究会），3)「大学における英語教育の問題点と対策」「LincEnglish による模擬授業」（東北大学流体科学研究所），4)「グローバル時代の英語教育と中等教育における英語育成プログラムについて」（宮城学院高等学校），5)「グローバル人材育成と大学の国際化を促す英語教育の実践」（追手門学院大学），6)「CALL システムで伸ばす英語運用能力―東北大学での実践事例」（グローバル時代の英語教育―高大 5 年間で伸ばす英語運用能力　東北大学言語・文化教育センターセミナー），7)「LincEnglish(反転授業)を用いた大学英語教育」（グローバル時代における外国語教育の新たな可能性　東北大学言語・文化教育センター設立記念シンポジウム），8)「日本の大学における英語教育（e-learning）の現状」（大阪成蹊大学）

科研費：挑戦的萌芽研究「On-line カリキュラム Presentation Course 及び動画教材開発」

その他：「パナソニック教育ソリューション」との共同研究（産学連携プロジェクト）

〔大学運営〕

全学委員会：学務審議会委員

〔業務活動〕

学生支援業務：工学教育院，国際交流室における連携支援（留学学生相談）

機構の業務：1）グローバル人材育成推進事業実施委員，2）高度教養教育・学生支援機構　紀要編集委員

言語・文化教育センター業務：センター運営業務（定例会議など）

言語・文化教育開発室業務：室の運営（定例ミーティングなど）

〔社会貢献〕

各種委員等：1）宮城県高等学校英語弁論大会審査員，2) E.S.S ディベート審査委員，3）仙台市教育審議会語学教育推進アドバ

イザー，4）宮城学院中・高等学校　英語教育顧問，5）尚絅学院　英語教育カリキュラム改革アドバイザー，6）日本教育工学協会「JAET」「日本私学教育研究所委託事業」に基づく英語助言指導委員として編集・執筆に携わり，『中高実践研究報告集』発刊に寄与した。

国際交流活動：1)モンタナ大学マンスフィールドセンター長講演会世話人（11 月 7 日，川内北キャンパス），2）グローバルラーニングセンターと連携し，海外派遣留学プログラムの交渉をモンタナ大学と行った。

社会教育活動：1）出前授業　宮城学院高校（6 月 27 日），尚絅学院高校（7 月 4 日），科学者の卵養成講座（英語）（7 月 11 日）

中村　渉 准教授

〔専門分野〕言語類型論・意味論・第二言語習得

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育英語（1 コマ）にモンタナ大学で開発されたマルチメディア教材 LincEnglish を英語の授業で継続使用した。大学院教育（国際文化研究科）平成 26 年度後期に「言語教育システム論」の特殊講義を担当した。また，異文化間教育論講座_総合演習・特論を前期・後期とも分担した。

学位論文指導：（修士課程）協力教員を務める大学院国際文化研究科異文化間教育論講座において，主指導教員を務めた修士課程の大学院生は平成 26 年度には 3 名であった。

学位論文審査：（博士課程）2 名の博士課程の大学院生の博士論文執筆を副査として審査した。

〔研究活動〕

学会発表等：最適性理論に基づく格理論の整備作業の一環として，平成 26 年 6 月に，第 39 回関西言語学会で，アイスランド語とロシア語を比較した「「第 2 与格」対「第 2 主格」: デフォルト格としての与格／主格」を口頭発表し，同学会論文集（単著，査読有, 2015 年, pp.181-192）に掲載した。

科研費：基盤研究(C)「非定型節の格フレームの通言語的研究」（課題番号 26370434）を研究代表者として，平成 26(～28)年度に新たに受給した。

〔大学運営〕

各種支援活動：学内の留学生に日本語を教える専任・非常勤教員・職員に共通の複数のメーリング・リストの運用及び管理を担当し，教職員間の情報共有を促進している。

〔業務活動〕

言語・文化教育開発室業務：平成 26 年度前期・後期とも，日本語研修コースを担当し，研修コースの留学生の日本語授業のカリキュラムの作成，運営，授業担当を行った。平成 21 年以前から担当している日本語の授業を担当する全教員向けのメーリングリストの管理・運営は平成 26 年度も継続し，使用していたサーバーの廃止に伴うメーリングリストの移管作業を行った。

EICHHORST, Daniel Joel 講師

〔専門分野〕ESL/EFL, Extensive Reading, Task-based Learning, Active Learning

〔教育活動〕

I prepare original materials for use in all of my classes. The content is determined based on input I receive from students. My goal is to have students develop specific abilities and become autonomous learners.

<u>English A1/2</u>

The focus of this class is extensive reading. Students are required to read a certain amount and given autonomy to choose what they want to read. This class is coordinated with the library and *kyoumuka*. In addition to reading books students do timed reading exercises and speaking/listening activities about books.

<u>English B1/2</u>

A discussion format has been developed involving preparation about a topic, discussion of the topic, and reflection about the topic. The input about a topic is an article of native level English with topics being chosen based on student recommendations. This has been an extremely successful activity and will continue to be developed.

<u>English C1/C2</u>

A discussion format has been developed involving preparation about a topic, discussion of the topic, and reflection about the topic. The input about a topic is a video with topics being chosen based on student recommendations. This has been an extremely successful activity and in particular has been positively received by international students.

〔研究活動〕

PUBLICATIONS

Eichhorst, D. (2014) English Education through Discussion & Extensive Listening-based Communication Report on the 8th

Tohoku University Higher Education Faculty Development, CAHE (Center for the Advancement of Higher Education) TOHOKU Report 55

PROFESSIONAL PRESENTATIONS

Eichhorst, D., Shearon, B. (Aug. 26, 2014) A Case Study of Active Learning through Extensive Reading in English, Tohoku Region University Librarians' Association Research Meeting, Tohoku Gakuin University Tsujitoi Campus, Sendai, Japan

Eichhorst, D. (June 4, 2014) What experiences and tools do you in your communication tool box?

Special Class: Accumulate your own magma, Tohoku Fukushi University, Sendai, Japan

Eichhorst, D. (May 16, 2014) Going beyond English conversation: Developing critical thinking and communication skills, 20th Tohoku University Higher Education Forum, Sponsored by Center for the Advancement of Higher Education, Tohoku University, Sendai International Center, Sendai, Japan

Eichhorst, D. (Mar. 10, 2014) English Education through Discussion & Extensive Listening-based Communication 8th Tohoku University Higher Education Faculty Development, Tohoku University, Sendai, Japan

WORKSHOPS / SEMINARS

Enslen, T., Eichhorst, D. (Sept. 27-28, 2014) Planning and Managing Active Learning in English!, Seminar sponsored by Institute for Excellence in Higher Education & Center for Professional Development, Tohoku University, Sendai, Japan

PROFESSIONAL AWARDS

1. Tohoku University Higher Education Contribution Award, January 2015
2. Tohoku University President's Education Award, March 2015

〔大学運営〕

Interpreting for the Counseling Office

〔業務活動〕

Proofreading for the Center Office

〔社会貢献〕

Member of JALT.

ENSLEN, Todd Robert 講師

〔専門分野〕Teaching English as a Second Language, English for Specific Purposes, Professional Development, Active Learning

〔教育活動〕

Each semester, I teach a total of 8 classes, which include English B1, B2, A1, A2, C1 and C2 classes. In addition to my teaching responsibilities, I work with other English faculty to develop new curriculum for our classes. I continually cooperate with other faculty using the same teaching approach to develop new materials and revise old materials for improvement.

We are in the process of having a booklet about discussion-based classes published through the Center for Professional Development to help others in their teaching. I also help in mentoring new faculty and graduate students with regards to their classes, which includes inviting participants in the New Faculty Program and the Preparing Future Faculty Program to my classes to observe my teaching.

〔研究活動〕

Presentations:

Enslen, T. and Sugaya, N. (2014) Combining Language Classes. グローバル時代における外国語教育の新たな可能性。東北大学 10/25/2014.

〔大学運営〕

Translation/Proofreading Committee Member

Center for Professional Development Advisory Committee Member

〔業務活動〕

I translate for the 相談室 when foreign student request counseling services.

I help organize workshops and events related to English and teaching in general. This includes working with the Center for Professional development to organize the workshops that I present in and meeting and attending to visiting faculty who come to Tohoku University to present.

I helped to develop a 2-day (8-hour) workshop on best practices in teaching and learning. The main topics covered included

leaner-centered syllabus design, fostering a classroom community, techniques for making classes more student-centered, flipped classrooms, and overcoming barriers to active learning. Since 2012, I have been the main presenter for these sessions.

I developed a 1-day (3-hour) workshop to help teachers and graduate students aspiring to be teachers, who would be teaching in English, develop the basic phrases, vocabulary, classroom management techniques and politeness levels necessary to conduct a class.

I developed and conducted a workshop focused on the Principles of Effective Language Teaching and Learning and provided teachers with examples of how these principles are being realized in classes at Tohoku University. The workshop also gave teachers the opportunity to explore how these principles could be incorporated into their own teaching contexts.

〔社会貢献〕

I have helped the International Cooperation Center in its efforts to develop international exchange agreements especially with the University of Illinois with whom we have developed other programs with in the past.

I help with Yamagata International Cooperation Center with cultural and language related activities.

KAMADA, Laurel 講師 （休職中）

金　鉉哲 講師

〔専門分野〕韓国文学・伝統芸能

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「基礎朝鮮語Ⅰ」「基礎朝鮮語Ⅱ」

この科目は韓国語の学習歴が殆ど無い学生が中心となっている。そのため，何よりも学生たちに韓国と韓国文化に関する興味を持たせることが大事である。興味を呼びおこす方法として一ケ月に一回程度は日本と深く関わりがある韓国の最新ニュース，話題などを中心に韓国文化・韓国人の考え方を紹介している。さらに学生の興味が高い歌・ドラマ・映画なども学習教材として積極的に取り入れている。

全学教育「展開朝鮮語Ⅰ」「展開朝鮮語Ⅱ」

この科目は中級レベルの受講者が中心となっている。そのため，学生の興味とレベルに合わせて日常会話の決まり文句を中心にしつつ歌・TV ドラマ・映画・最新ニュースなどを学習教材として使っている。特に，異文化理解も視野に入れて，韓国人の思考や哲学を把握できるテーマも授業内容に入れた。

教育支援活動の一環としては，さらに上のレベルを目指す学生のために一ケ月に二回程度「韓国人ネイティブサポート」という勉強会を行っている。韓国人の留学生，大学院生，研究員，教員が一緒に参加して，学生たちの韓国理解や韓国語学習をサポートしている。

〔研究活動〕

科研費：「日韓テレビドラマおよび映画にみる大衆の欲望の特徴に関する研究」（基盤研究(C)，平成 25 年度－平成 27 年度）

〔社会貢献〕

各種委員等：宮古市の「宮古市震災の記憶伝承事業」に東日本大震災記録調査会の調査員として参加している。

学会活動：海外では，韓国の「パンソリ学会」で海外交渉理事として活動しながら，日韓芸能研究者の研究交流のために努力している。日本国内では，「日本韓国語教育学会」の東北理事を務めている。

SILVA, Cecilia Noemi 講師

〔専門分野〕Foreign Language Education

〔教育活動〕

During 2014, the three main research topics and educational activities were the following: a) introduction of cultural issues in the syllabus, b) development of educational material for Spanish classes, and c) extra-curricular activities: Spanish studies abroad and Spanish proficiency test (DELE).

As regard development of educational material, in 2014 I made some necessary changes in the handbook I have been writing since 2012, and developed more videos for the classes.

Regarding extra-curricular activities, I searched for information about Spanish studies abroad and researched about the Spanish proficiency test (DELE). In March and September 2014, I visited several universities in Argentina and Spain in order to find a suitable place for students to pursue Spanish language and culture courses. In December 2014 I invited a coordinator of foreign students from a Center of International Studies in Toledo to deliver a lecture to our students about

Spanish courses in Toledo. Besides, I have been researching about the Spanish Proficiency test, DELE, accomplished two online courses (October 2014 and March 2015) so as to get the license as examiner for levels A and B, and made special classes (January 2015) for students interested in taking the Spanish test. A synthesis of the research on the Spanish test, the European Framework for Languages, and the above mentioned classes was published in the following journal:
Description of the Spanish Proficiency Test DELE and Brief Report on Special Classes for DELE. Institute for the Excellence of Higher Education, Journal Vol. 1, March 2015. pp. 141-152.

〔研究活動〕

In 2014 I worked on the second step of the project *Developing multimodal learning material for Spanish as a foreign language based on the balance of communicative and structural approaches and on the concept of intercultural communicative competence* (JSPS grant-in-aid C 25370614 2013-2015).

Conference presentations:

Los Personajes de Kazuo Ishiguro: en Busca de Respuestas en el Pasado. XXVI Congreso CANELA Confederación Académica, Nipona, Española y Latinoamericana. Kansai University of Foreign Studies. May 10-11, 2014.

Integration of Cultural Issues in the Syllabus of Spanish Classes. 第 64 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会帯広畜産大学。Aug. 28-29, 2014.

Criterios Comunicativos, Multimodales e Interculturales en el Marco del Diseño de Materiales ELE. XXV Congreso Internacional de ASELE (Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera). Universidad Carlos III de Madrid, Getafe. Sep. 17 – 20, 2014.

Development of Educational Audio-visual Material for Foreign Language Classes. JSET 30th Japan Society for Educational Technology Gifu University Sep. 19-21, 2014.

La reconstrucción femenina del espacio en la obra de Cristina Bajo (Femenine construction of space in Cristina Bajo's works). LX Congreso de la Asociación Japonesa de Hispanistas (2014 年度日本イスパニア学会第 60 回大会). Osaka University. October 11-12, 2014.

Spanish Workshop: *Teaching and Learning Spanish without Borders.* 36th JALT International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exposition. JALT 2014.Tsukuba. Nov. 21-24, 2014.

In January 24th 2015, I was invited by Sociedad Hispánica de Yokohama (横浜スペイン協会) to deliver a lecture about history and literature of Argentina. The lecture was entitled 「アルゼンチンの歴史と文学—早足探訪・先コロンブス期から現代まで」

SCHACHT, Bernd 講師

〔専門分野〕German Travel Literature, Teaching German as a Foreign Language

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「基礎ドイツ語 I, II」

〔研究活動〕

論文等：（単著）"Early German Travelers in Spain: A Historical Overview from Medieval Times to the Nineteenth Century." In: *CAHE Journal of Higher Education Tohoku University* No. 9 (2014), pp. 29-40.

〔大学運営〕

交換留学派遣候補者の二次選考　ドイツ留学希望者の面接試験

〔社会貢献〕

岩沼市主催「千年希望の丘植樹祭２０１４」の支援するボランテイア活動

SHEARON, Ben 講師

〔専門分野〕TEFL, Curriculum Design, Extensive Reading, Classroom Management, English in the Japanese School System

〔教育活動〕

Taught general education classes (A1, A2, B1, B2, C1, C1R, C2, C2R, PES2).

Worked with colleagues to develop extensive reading and discussion curricula.

Worked with 教務課 to administer extensive reading classrooms and cabinets.

Received 全学教育賞 and 総長教育賞 (with Daniel Eichhorst) for work on extensive reading program.

〔研究活動〕

Articles on extensive reading and presentations on extensive reading, teaching presentation skills, and teaching English in

elementary school.

〔大学運営〕

Working with the library to maintain and expand the extensive reading collection.

〔業務活動〕

I continued serving as a volunteer interpreter for the counselling services and worked with the Centre for Professional Development to provide lectures and work on materials for publication.

〔社会貢献〕

I continued serving as a school advisory board member for Nika High School. I also gave lectures to students at 2nd High School and Nika High School on English education and global society.

SCURA, Vincent 講師

〔専門分野〕応用言語学，EFL/ESL，Communication Apprehension[CA]，Language Anxiety[LA]， Willingness to Communicate[WTC]，Language Learning Motivation，異文化コミュニケーション

〔教育活動〕

English A1 (Reading) - Implemented, modified, enhanced and expanded existing extensive reading program.

English A2 (Reading) - Implemented, modified, enhanced and expanded existing extensive reading program to a higher level than English A1.

English B1 (Communication) Introduced fluency drills that motivated students to use already acquired language skills in natural communicative situations.

English B2 (TOEFL Preparation) Introduced TOEFL test taking techniques resulting in demonstratively higher TOEFL scores.

English B2 (CALL) Implemented and administered on-line learning system with a view to enhance listening skills and improve TOEFL scores.

〔研究活動〕

Speaker and participant at UCLA Academic writing for Non-Native English Graduate Students Training Workshop (3/15)

〔社会貢献〕

Advised and tutored foreign exchange students.

STAVOY, Joseph 講師

〔専門分野〕ESL, Communicative Language Teaching Techniques

〔教育活動〕

Courses taught in Liberal Education curriculum:

General Exercises in English (Reading) A2;

General Exercises in English Communication B1, B2;

Exercises in Practical English C1, C2;

Exercises in Practical English C1 (Advanced Reading)

Practical English Skills (PES) 1, 2 Presentation. Designed and implemented the first PES syllabus

〔研究活動〕

TEXTBOOK: ***Can't Stop Writing (revised)*** with Manabu Miyata. Sanshusha Publishers, Tokyo, Japan. February, 2014

PAPER: Research on Teaching, **"Writing in Foreign Language Classes,"** The TOEFL-ITP Report, Tohoku University Press, June, 2014

〔大学運営〕

IPLA Liaison: April 1, 2014 - March 31, 2015. Duties included writing the syllabi for both spring and fall semester courses for the international students attending C1 and C2 English Communication classes; acting as liaison between the IPLA office and all native English teachers participating in the program.

English Interviewer: July 17, 2014. Interviewed prospective Tohoku University employees in a two-day long interview session.

SPRING, Ryan 講師

〔専門分野〕英語学，第二言語習得

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「英語Ａ１・Ａ２，Ｂ１・Ｂ２，Ｃ１・Ｃ２，プラクティカル・イングリッシュスキルズ１・２」。

教材開発等：英語Ｃ１・Ｃ２の授業において，最新な第二言語習得研究を元にして，自分のオリジナル教材を開発し，授業を行った。また，ノース・カロライナ大学シャーロット校（UNCC）の教員と一緒に東北大学・UNCC スカイプ・パートナー・プログラムという新しい教育プログラムを設立した。スカイプ・パートナー・プログラムは東北大学の学生と UNCC の学生がインターネットを通して，ビデオ会話をしながら言語・文化交流できるプログラムである。

〔研究活動〕

論文等：1)（単著）“Getting in the right frame of mind to learn English as a second language”. 高度教養教育・学生支援機構紀要, Vol 1, 2015, pp 115-124.　2)（共著）“To what extent does musical aptitude influence foreign language pronunciation skills? A multi-factorial analysis of Japanese learners of English”. World Journal of English Language, Vol 4 (4), 2014, pp. 1-11.　3)（共著）“Path doubling: Evidence for the existence of prototype-schema in motion event framing choices”. *Journal of Studies in Language Sciences* 13, 2014, pp. 166-191. Kaitakusha, Tokyo, Japan.

講演：October 23rd, 2014　“認知言語類型論と第二言語習得：移動・状態変化事象の英語表現の習得をめぐって”．第 5 回正午 PD 会，東北大学.

学会発表等：April 20th, 2014 “Talmy’s Typology and Second Language Acquisition”. English Linguistic Society of Japan Spring Forum, 同志社大学.

〔大学運営〕

ノース・カロライナ大学シャーロット校と東北大学の交換留学協定締結の副担当者。

〔業務活動〕

学生相談室の通訳業務を行った。

全学教育の TOEFL 点数に関する分析を行い，報告書に以下のレポートを書いた。Spring, R. “The purpose of the TOEFL ITP test at Tohoku University and its effect on English education”. 東北大学 2014 TOEFL ITP テスト実施報告書, 2015, pp. 80-89.

〔社会貢献〕

社会教育活動：東北大学大学院国際文化研究科の公表雑誌 Globe (No.27)に「努力で道を切り開く」(p. 9)という記事を投稿した。

また，ノースカロライナ大学シャーロット校で以下の招待講演を行った。“What can you do with your Japanese major/minor?” (August 20th, 2014)

張　立波 講師

〔専門分野〕中国語教育・日本文学・中国文学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育科目「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ」,「展開中国語Ⅰ・Ⅱ」,「展開中国語Ⅲ・Ⅳ」，社会学（現代大学論）「中国の大学」講師

学位論文審査：国際文化研究科博士論文の外部審査員

留学生の受入れ：中国からの特別訪問研究生の受け入れ

その他：検定試験の受験を予定している学生への検定対策指導。学生の中国語学習のモチベーションを高めるため,「漢語角」(中国語コミュニティ)の立ち上げ。

〔研究活動〕

著書：（単著）「井上ひさし論―国家と国民を中心に―」（原語（中国語）：“国家”与“国民”―井上厦的文学世界―）上海社会科学院出版社,1 - 218（2014.9）

学会発表等：（研究会）「東北大学の初修外国語としての中国語学習について―基礎調査と教育現場の実感から―」第６４回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会研究収録,44 - 50（2014,8）

（セミナー）「東北大学の初修外国語としての中国語学習について―教育現場の実感から―」東北大学高等教養教育・学生支援機構 2014 言語・文化教育センターキックオフセミナー（2014.10）

招待講演：「日本東北大学の中国語教育の現状と展望」（原語（中国語）：日本东北大学的汉语学习与展望）北京語言大学国際漢語教学研究基地（2015.3）

〔大学運営〕

部局内委員会：言語・文化教育センター運営会議メンバー，言語・文化教育センター初修語のまとめ役，留学生相談通訳支援者。

〔社会貢献〕

全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会審査員

DEVIENNE, Denis 講師

〔専門分野〕フランス文学，映画論

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「基礎フランス語 I，II」「展開フランス語 I，II」

粕壁　善隆 教授

〔専門分野〕粒子線材料工学

〔教育活動〕

授業担当状況：学部専門教育「量子力学入門」（工学部材料科学総合学科の学生 70 名ほど）量子力学の学問体系の学修を第一としながら，量子力学の創世記にボーアを中心とした多くの研究者の国境を越えた交流，アインシュタインとの交流，波動力学を確立したシュレーディンガーの母校が協定校のウイーン大学であることなどを含めて，量子力学の創生の意義，相補性を基礎とした世界観等についても興味を持つよう工夫した。大学院科目「材料界面機能学」，「先端マテリアル物理化学セミナー」，「金属プロセス工学セミナー」および研究室での「金属フロンティア工学修士研修」などを担当し，物性物理学，材料工学の発展に寄与するよう工夫した。

学位論文指導：修士 1 名

留学生の受入れ：短期留学生受入れプログラム学生（1 名）を受け入れて教育・研究指導を行った。

その他：以上の部局教員としての教育活動とは別に，大学全体としての短期留学生受入れプログラム（JYPE　74 名），短期共同研究留学生交流プログラム（COLABS　34 名），などを担当し，研修による指導と発表会（審査会）による指導・評価を行った。また，COLABS 派遣学生の研修発表会（審査会）を行い，指導・評価した。

〔研究活動〕

論文等：1)（共著）Atomistic Transformation Processes Induced by the Interaction of Implanted N-Ions with Ti Thin Films, JAEA-Review 2013-059 (2014) 137,　2)（共著）Evolution of Transformation Processes due to the Correlation of Implanted N-ions with Ti Thin Films. JAEA-Review，in press,　3)（共著）SYNTHESIS AND CHARACTERIZATION OF TITANIUM ALUMINIUM NITRIDE THIN FILMS DEPOSITED BY REACTIVE-CVD, Proc. 20th BIENNIAL European Conference on Chemical Vapor Deposition, Sempach, Switzerland, in press.

科研費：基盤研究(C)「レーザーアシスト・イオン注入法によるシリコン・チタン窒化物の不定比物性と機能化」（代表）

共同研究：原子力機構施設利用総合共同研究「イオン注入法によるアルミニウム・チタン・シリコン窒化不定比化合物薄膜の成長過程のその場観察」（代表）

〔大学運営〕

全学委員会：国際交流委員会委員，教育国際交流運営委員会委員，学務審議会委員，学生生活協議会委員，国際共同教育実施委員会委員，安全保障輸出管理委員会委員，自然科学系学生交流実施委員会委員長などとして，東北大学の国際交流，特に教育国際交流について立案，提言，実施などに寄与した。

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員，紀要委員会委員，人事委員会委員，グローバルラーニングセンター副センター長

〔各種業務〕

機構の業務：総務委員会委員，紀要委員会委員，人事委員会委員などとして，機構における教養教育・学生支援について，立案，提言，実施などに寄与した。

グローバルラーニングセンター業務：副センター長としてセンターが所掌する様々な案件について，センター長を補佐し，JYPE，COLABS，DEEP，TSSP，ダブルディグリープログラムなどの確実な運営に寄与した。上記のプログラムを行うために，募集要項の作成，受入学生・奨学金受給候補者の選考，開・閉講式の挙行，受入学生ガイダンス，企業見学旅行，個別研修発表会の開催，日本留学フェア・協定校での東北大学留学説明会等を行った。東北大学の FGL，TGL の所掌委員会の委員として学部留学生，派遣学生関係業務を推進した。

〔社会貢献〕

各種委員等：独立行政法人日本学生支援機構海外留学支援制度（短期受入れ・短期派遣）実施委員会委員として，国の留学生施策についての立案，提言，評価などを行い，国の積極的な留学生施策に寄与した。

国際交流活動：米国・ワシントン大学との授業料不徴収条項を含む学生交流協定の締結に尽力した。

社会教育活動：東北大学萩友会の登録同窓会である，交換留学生同窓会の教員代議員として，交換留学生の本学国際交流への支援を促進した。

末松　和子 教授

〔専門分野〕異文化間教育学

〔教育活動〕

授業担当状況：以下のＰＢＬ型国際共修科目（全学教育）を前・後期２科目ずつ担当した。

1）キャンパス国際化への貢献：留学生との協働プロジェクトを通して国際性を身につけよう（英語）

2）異文化コミュニケーションを通じて世界を知ろう（日本語）

〔研究活動〕

論文等：1)（単著）「キャンパスに共生社会を創る-留学生と日本人学生の共修における教授法の確立に向けて-」,『留学交流』2014年９月号，査読無，11－21頁，2014年，日本学生支援機構，2)（学内広報誌・単著）「課題解決型（PBL）の国際共修を取り入れたグローバル人材育成」,『曙光』第37号，査読無，9-11頁，2014年，東北大学

学会発表等：1)（単独）「大学連携による防災授業の取り組み：外国人留学生と日本人学生の共修を視野に入れて」，留学生教育学会研究大会, 東北大学, 2014年８月９日, 2) “Cultural Globalization: Contributions to Academic Growth”, Annual Conference of European Association of International Education (EAIE), Prague, September 15, 2014.　3) “What is happening at Tohoku University?: Exploring opportunities for innovative collaborations with the Global Learning Center”, Liaison Office Session, International Conference of Fluid Dynamics, Tohoku University, Nov 5,　4) “Tohoku University’s Strategies: Challenges in Promoting Student Mobility”. Academic Seminar, Graduate School of Economics and Management, Tohoku University, Feb. 6,　5) 平成26年度第２回 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 Go Global Japan 東日本第一ブロックシンポジウム 大学教育としての海外留学～学生の海外経験と大学カリキュラムとの連動を考える～　留学をいかにメインストリーム化するか －東北大学の挑戦－，東北大学，２月１６日，6) “Tohoku University: Strategies to Increase Student Mobility” SGU Kick-Off Seminar, Tohoku University, Feb. 17

科研費：基盤研究Ｃ（H24 -26）「ポスト東日本大震災期の新たな留学生支援施策と大学の国際化第三フェイズへの転換」（代表）

〔大学運営〕

全学委員会：

●委員長；人文・社会科学系学生交流実施委員会，短期派遣留学実施委員会

◎副委員長；グローバル人材育成事業実施委員会

○委員；国際連携推進機構，国際交流委員会，学術交流協定調査検討委員会，ロシア交流支援室，東北大学基金企画推進室，教育国際化運営委員会，日本語教育研修運営委員会，国際化拠点整備実施委員会，学務審議会・基礎ゼミ委員会

部局内委員会：総務委員会，人事委員会，予算委員会，施設整備委員会，グローバルラーニングセンター幹事会（副センター長），カリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センター運営委員。その他，国際交流関係WGメンバー，オブザーバー等

各種支援活動：学生相談所通訳支援，留学生相談員（全学），国際交流・留学生支援学生団体の取りまとめ，東北大学留学生協会（TUFSA）アドバイザー，東北大学人文社会科学短期留学生受入プログラム学生支援団体 IPLANET アドバイザー，言語文化学習支援活動 Global Café 運営指導，英語学習サークル EZ 指導，イスラム学生への支援活動（ハラールフード等）

〔業務活動〕

学生支援業務：留学相談，留学生相談（キャリア支援含む）

グローバルラーニングセンター業務：センター運営補助（新任教員研修，対教員相談，教職員間の調整等），東北大学グローバルラーニングセンターリエゾンオフィス設立準備（タイ，ベトナム等），カナダクイーンズ大学から講師を招聘し ICE 評価モデルをテーマとしたＦＤを実施

〔社会貢献〕

各種委員等：留学生３０万人計画実現に向けた留学生の住環境支援の在り方に関する検討会

学会活動：留学生教育学会　理事，2014年留学生教育学会研究大会（東北大）実行委員長，留学生教育学会　学会誌「留学生教育」査読委員，留学生教育学会　留学生担当教職員分科会総括

学術交流協定締結：欧米・アジアを中心に協定校の開拓・関係構築，海外からの訪問者対応は一年を通して約30名に上る

出前授業：盛岡第一高等学校，仙台二華高等学校

その他：宮城県多文化共生社会推進審議会　副委員長，仙台二華高等学校スーパーグローバル高校運営委員，東北大学生活協同組合　理事

熊代　輝義 教授

〔専門分野〕国際協力論

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「国際協力：開発途上国の開発と国際社会の貢献」,「International Cooperation」（英語による授業）（両

科目とも新設授業），平成 27 年度新設科目「国際開発をめぐる諸課題」の教材作成等の準備
その他：第 3 回国連世界防災会議語学ボランティア（TGL ポイント付与）
〔大学運営〕
部局内委員会：グローバル人材育成推進事業実施委員会委員
各種支援活動：開発途上国への開発協力との連携支援
〔業務活動〕
グローバルラーニングセンター業務：センターの広報ユニットに所属して広報に関る業務
〔社会貢献〕
国際交流活動：東北大学，開発途上国研究機関，科学技術振興機構，国際協力機構が共同で実施している地球規模課題対応科学技術プログラム（3 案件）

助川　泰彦 教授
〔専門分野〕言語学

HANSEN, Frank 教授
〔専門分野〕数学
〔教育活動〕
Courses taught:
Foundations of linear algebra
Foundations of calculus
Calculus C (ordinary differential equations)
Probability and statistics
Advanced calculus for functions of several variables (introductory seminar)
Supplemental lessons of calculus
Education support activities:
Comprehensive body of teaching materials placed at the homepage of my courses, including approximately 600 color slides with illustrations and interactive animations and 60 pages of exercises for the students.
〔研究活動〕
Articles:
1.（共著）Characterisation of matrix entropies. Letters in Mathematical Physics. **105**:1399-1411 (2015).
2.（単著）　Multivariate extensions of the Golden-Thompson inequality. Annals of Functional Analysis **6**(4):301-310 (2015).
3.（単著）Golden-Thompson's inequality for deformed exponentials. Journal of Statistical Physics **159**(6):1300-1305 (2015).
4.（単著）Regular operator mappings and multivariate geometric means. Linear Algebra and its Applications **461**:123-138 (2014).
5.（共著）Non-commutative perspectives. Annals of Functional Analysis **5**(2): 74-79 (2014).
Invitations to speak at international conferences:
1. (招待講演) Golden-Thompson's inequality for deformed exponentials. 第 18 回 International Conference on Mathematical Physics. 2015 年 7 月 27 日～8 月 1 日, Santiago, チリ。
2. (招待講演) Characterisation of matrix entropies. 第 18 回 International Conference on Mathematical Physics. 2015 年 7 月 27 日～8 月 1 日, Santiago, チリ。
3. (招待講演) Regular operator mappings and multivariate geometric means. International Conference on the Theory of Operator Means and related Topics. 2014 年 11 月 22 日～28 日, RIMS 京都。
4. (招待講演) Regular operator mappings and multivariate geometric means. 第 19 回 International Linear Algebra Society Conference. 2014 年 8 月 6 日～9 日, 韓国, ソウル。
External research funds:
Grant-in-Aid (科研費) for 2014-2017 in total of 4,030,000 yen.
〔社会貢献〕
Editor of three scientific journals.
Member of the scientific committee for the International Conference on Mathematical Inequalities and Applications, Mostar, Bosnia and Hercegovinia, November 11-15 2015.

ZHANPEISOV, Nurbosyn 准教授

〔専門分野〕量子化学，物理化学，触媒化学

〔教育活動〕

I have had my lecture courses on Chemistry A (Fundamentals of Chemical Bond Theory), Chemistry B (Fundamentals of Physical Chemistry), Chemistry C (Fundamentals of Basic Organic Chemistry), Mineralogy&Petrology (Fundamentals of Crystalline Structures of Solids) and Fundamental Chemistry Seminar for the FGL and other undergraduate students. In addition, I have had a visiting PhD student (Mr. Almaz Kadirbekov) from Kazakh-British Technical University, Almaty, Kazakhstan who has joined with me for two month (last June-August). His visit and stay at Tohoku University was completely supported by Kazakh-British Technical University, Kazakhstan. In addition, I am continuing my interactions and discussions with Professors of Department of Chemistry of the School of Science, Tohoku University. I have organized and hosted an invited lecture of Dr. Yu. Barnakov (Azimuth Corporation, Dayton, OH, USA) at Department of Chemistry for Professors, PhD and MD students (last October).

〔研究活動〕

I am continuing my Grants-in-Aid project (Scientific Research C No. 25390144) which is devoted on theoretical study on new metallic Carbon K4 and metal-organic frameworks. The results of my study are presented in International Congresses and Conferences. They are as follows:

(Invited Lecture) Cluster Approach to New Materials Design. International Catalysis Symposium, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan. June 27th, 2015.

(Poster) Modified Metal-Organic Framework and Metallic Carbon K4 Structures: A Theoretical DFT Study. The 15th International Congress of Quantum Chemistry (15th ICQC), Beijing, China. June 8-13, 2015.

(Invited Lecture) Computational New Materials Design Based on Cluster Approach. The Joint Seminar of the Presidium of Azerbaijan National Academy of Sciences on Chemistry, Information Sciences and Physics. March 5th, 2015, Baku, Azerbaijan.

(Invited Talk) Theoretical DFT Study on Structure and Chemical Activity of Complex Modified Structures. The 9th Asian Consortium on Computational Materials Science – Virtual Organization (ACCMS-VO9). December 20-22, 2014, Okinawa, Japan.

(Oral talk) Theoretical DFT Study on New Carbon K4 and Metal-Organic Framework Structures. The 50th Symposium on Theoretical Chemistry, September 14-18, 2014, Vienna, Austria.

(Invited talk I-16) Modified New Carbon K4 and Metal-Organic Framework Structures: A Theoretical DFT Study. The Asian Consortium on Computational Materials Science – Working Group Meeting – 2014 (ACCMS-WGM-2014). June 4-7, 2014, Astana, Kazakhstan.

(Invited talk I-3) New Materials Design Based on DFT Cluster Approach. The Symposium "Toward to Future Chemistry Based on Quantum Chemistry". February 11th, 2014, Kyoto, Japan.

〔社会貢献〕

I have given a welcome address for large group of Russian students (from counterpart Universities of Russia) who have visited Tohoku University for one week (exchange program Tohoku University), have actively participated in presentations of Japanese students (Tohoku University) who have stayed for one week at Novosibirsk State University (Novosibirsk, Russia).

JEHAN, Shahzadah 准教授

〔専門分野〕経済学

TRUSHIN, Igor 准教授

〔専門分野〕数学

〔教育活動〕

Courses taught: Calculus A, Calculus B, Linear Algebra A, Linear Algebra B, Mathematics Seminar, Supplementary Lessons on Calculus

Recruitment of international students:

1. India, Delhi (4-5.8.14): Japanese Universities Fair, School Visit

2. Russia, Moscow (7-9.10.14): Moscow International Salon of Education

3. Nepal, Kathmandu (5-7.2.15): Japanese Universities Fair, School Visit

〔研究活動〕

Publications:

1. （共著）Spectral problems and scattering on noncompact graphs containing finite rays, J.Inverse Ill-Posed Probl, 2014

2. （共著）A stationary approach to the scattering on noncompact graphs containing finite rays, Current Trends in Analysis and its Applications/ Proceedings of the 9th ISAAC Congress, Kraków 2013, Springer Proceedings in Mathematics and Statistic, in press

〔社会貢献〕

Academic conferences organizer:

1. 10th Aobayama seminar (10.3.2014)

2. 11th Aobayama seminar (8-9.9.2014)

3. 12th Aobayama seminar (30.6,2.7.2014)

Reviewing committees member: 7 committees

International Exchange activities of Graduate School of Information Sciences, joint GSIS and Mathematical Department of Moscow State University Seminar (Moscow, 5-9.2.2015), joint GSIS and Faculty of Computational Mathematics and Cybernetics MSU Seminar (Sendai, 5-6.3.2015)

宮本　美能 准教授

〔専門分野〕異文化間教育，人権教育

〔教育活動〕

授業担当状況：以下の国際共修科目（全学教育科目）を担当。

1) 「人権教育の促進」「国際理解教育の実践」（英語）

2) 「留学生と日本人学生の協働プロジェクト（美術館編）」「留学生と日本人学生の協働プロジェクト（博物館編）」（日本語）。

これらの授業を担当する中で，特に学生間の言語の壁を乗り越えるために，授業の進め方や課題を工夫している。例えば，初回の授業でアンケートを取って学生に相互支援について意見を求め，「学生間で言語の壁を乗り越えるために相互支援すること」をクラス目標として設定。毎回授業後には振り返りの時間を設けながら，多文化共生の関係性構築に努めている。また，定期的にＦＤ研修に参加し，自身の教育実践の省察と改善に努めている。

学友会活動の指導：混声合唱団の顧問。円滑な活動ができるようサポートしている。

その他：交換留学生(IPLA)の担任。留学生の履修相談や研修旅行の引率など，留学生の学業・生活面でのサポートに当たっている。

〔研究活動〕

論文等：（単著）「多文化クラスで人権教育を実践する意義－授業前と後の質問紙調査結果に基づいて－」，『人権教育研究』，査読有,第 14 巻,75－88 頁,2014 年.

学会発表等：1)（共同）「大学間連携による防災授業の取り組み-外国人留学生と日本人学生の共修を視野に入れて-」,留学生教育学会研究大会,2014 年 8 月． 2)（単独）「留学生と日本人学生の共生－共修授業で構築された双方の関係性を学内に広める方策－」,異文化間教育学会第 35 回,2014 年 6 月． 3)（単独）「留学生と日本人学生の共修授業の活用－双方の間に『多文化共生』の関係性を構築する方策－」,留学生教育学会研究会（於：京都大学）,2014 年 3 月． 4)（共同）「"Tohoku University Internationalization by introducing one summer program in Vietnam"，APAIE Conference，韓国, 2014 年 3 月.

〔大学運営〕

全学委員会：短期派遣留学実施委員会，人文・社会系学生交流実施委員会，グローバル人材育成推進事業実施委員会の委員。これらの委員会は，大学の国際化を促進するため，留学生の受入と日本人学生の海外派遣に関する学内外の最新情報を共有し，新たな方針を審議する場である。委員会への参加を通じて，多角的に議論し，東北大学のよりよい体制・制度作りに努めている。

部局内委員会：研究倫理委員会の委員を務め，公正な研究活動の推進に努めている。

〔業務活動〕

学生支援業務：留学相談を担当。留学の目的やプログラムの紹介など，個々の学生の相談内容に合わせて，適切なアドバイスができるよう努めている。

学生相談所の留学生通訳を務め，単に言葉を訳すだけでなく，留学生が抱えるさまざまな問題に対して，カウンセラーと一緒に解決策を考え，学生のサポートに当たっている。

〔社会貢献〕

学会活動：25 年度から，２年任期で日本国際教育学会の監査を務め，監査に関わる知識を学ぶだけでなく，業務を通じて国際教育に関わる情報交換を行っている。
その他：宮城県仙台二華高等学校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員（任期は，平成 26 年 6 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日まで）を務め，高校の活動を支援するとともに、高大連携に努めている。

山田　悦子 准教授
〔専門分野〕異文化間教育学

ROBERT, Martin 准教授
〔専門分野〕生物分子科学（生化学）
〔教育活動〕
For Fiscal year 2014, I spent most of my time further developing and teaching five different courses described below and held at Tohoku University (Liberal Arts Education). I have also taught one course at Yamagata University.
Courses (Liberal Education) - Tohoku University in 2014
1. Biology A - Essential Biochemistry (Fall, Tuesdays 10:30-12:00)
2. Biology B - Essential Cell Biology (Spring, Tuesdays 10:30-12:00)
3. Biology C - Integrative and engineering concepts in biology: Elements of Physiology and Systems biology (Spring, Wednesdays 14:40-16:10)
4. Life and Nature (Fall, Mondays 14:40-16:20)
5. Introductory seminar: Selected Topics in Cell Biology (July 26, August 1-2)
Other Educational activities (Undergraduate and Graduate Education)
1. Yamagata University, Faculty of Agriculture (Summer 2014)
Introduction to Effective Scientific Communication (Intensive course, 15 hours over 3 days)
In all courses I have made use of social network based course Community and online resources to share course information with students. This system is also used to stimulate student interest, interaction with colleagues and also a platform to distribute content provided by students themselves. It has lead to successful out of class interactions and discussions complementary to what happens in class.
Advisor
M.Sc. student, Keio University (student graduated in Spring 2014)
〔研究活動〕
Publications
1. （共著）Global metabolic network reorganization by adaptive mutations allows fast growth of Escherichia coli on glycerol. Nat. Commun. 5:3233 (2014)
Invited seminars
1. Metabolomics-based functional discovery in Escherichia coli. Goodman Cancer Research Center, McGill University, Montreal, Canada, September 11, 2014
Presentations at conferences (Posters)
1.（単独）Broadly conserved metabolic responses and the economics of cell growth. The 10th International Conference of the Metabolomics Society, Tsuruoka, Japan, June 23-26, 2014
2.（共同）Adaptive mutations improve carbon flow and metabolic efficiency for fast growth of Escherichia coli on glycerol. The 10th International Conference of the Metabolomics Society, Tsuruoka, Japan, June 23-26, 2014
3.（単独）Metabolic synchronization and pattern formation in E. coli. International symposium on Spatiotemporal Pattern Formation in Biological and Active Matters, Ochanomizu University, Tokyo, Japan, March 2nd, 2014
〔社会貢献〕
I continued to be active in academic societies, and contributed significantly to co-organizing a major international conference.
International conference organizer
・Organizing committee, The 10th International Conference of the Metabolomics Society, Tsuruoka, Japan, June 23-26, 2014
・Session chair: The 10th International Conference of the Metabolomics Society, Tsuruoka, Japan, June 23-26, 2014
Editorial boards

・Guest Editor: Special issue of BioMed Research International on Metabolomics (2014) Hindawi Publishing
・Member of Editorial Board of Advances in Systems Biology, 2012-
・Member of Editorial Board of Frontiers in Plant Systems Biology, 2012-
I also continued to promote internationally our FGL educational programs as well as starting discussions and contacts to develop and expand Tohoku University's partner network.
Participation in University International Exchanges and student recruitment activities
Summer school 2014 (Several High School Delegations), July-August 2014
Overseas student recruitment fair
Participated in JASSO "Study in Japan Fair" in Vietnam, November 14-16, 2014 (in Hanoi and Hoh Chi Minh)
JASSO "Study in Japan Fair" (November 15-16)
Contribution to International Affairs at Tohoku University
University (and consulate/embassies) visits
Paris (August 28-31), Canada (September 2014),
Others:
・ Held discussions/meetings with GLC/TGL program staff members to improve internationalization through increased interactions between foreign and Japanese students
・ Made recommendations, suggestions, and editing for web pages and content of FGL web site that have already been implemented
・Proposed ideas to facilitate and promote internationalization
・Participated in International Students activities (festival, day trips, etc. on and off campus

田口　香織 特任准教授
〔専門分野〕国際キャリア教育論

島崎　薫 助教
〔専門分野〕日本語教育，留学生教育，教育人類学
〔教育活動〕
授業担当状況：全学教育/IPLA「宮城の伝統文化を通じた日本理解」を担当。この授業では，茶道や書道，華道などをアクティブラーニングの理論に基づいて授業が構成されており，学生の学びがより深いものになるように支援。
その他：IPLA の学生のアカデミックアドバイザーを務め，学習面・生活面において全面的に学生をサポート。
サマープログラム（TUJP）のコーディネーターも担当。日本語のクラスとその他のアクティビティーを有機的に組み合わせ，学生が総合的に学べるようなプログラムデザインを行っている。
また日本人学生向け短期海外研修プログラム（Stady Abroad Program; SAP）において University of New South Wales，インドネシア大学，チュラロンコン大学，ガジャマダ大学，台湾政治大学，東呉大学，貿易大学をこれまでに担当し，事前研修・事後研修を行い，学生のオートノミーを育てるようなプログラムデザインを行っている。
〔研究活動〕
論文等：1)（単著）「学生と学生をつなぐ：学生はどうつながり合い，そこからどう学んでいるのかを考える」トムソン木下千尋（編）『人をつなぐ，世界をつなぐ，日本語教育』くろしお出版（印刷中）．　2)（共著）「次世代をになう大学院生ネットワーク：縦糸と横糸を編んでつながる」トムソン木下千尋（編）『人をつなぐ，世界をつなぐ，日本語教育』くろしお出版（印刷中）．3)（単著）「「教える」日本語教育から「デザインする」日本語教育へ」『日本語教育　学のデザイン―その地と図を描く―』，凡人社, (2015) pp.200-201.　4)（共著）Disaster Risk Reduction Education for International Students through Inter-University Collaboration, *Journal of the International Education & Exchange Center*, Volume 2, (2015).
学会発表等：1)（単独）The role of *senpai* in a Community of Practice: a case study of a Japanese Student Association, Japanese Studies Association of Australia 2015, Melbourne, 2015 年 6 月 30 日～7 月 3 日．　2)（単独）実践コミュニティーで日本語学習者はどのように学んでいるのか –「なりたい自分」と「今の自分」との相互作用，日本語教育学会春季大会 2015，東京, 2015 年 5 月 29~30 日．　3)（共同）大学の枠組みを越境した連携：防災・減災に関する東北大学・名古屋大学での授業の実践報告，留学生教育学会留学生担当教職員分科会研究会，東京, 2015 年 2 月 19～20 日.
プロジェクト：（単独）東北大学大学改革強化推進補助事業「地域の人々とともに体験しながら学ぶ国際共修授業のモデル開発」（50 万円）, 2015～2017 年.
〔大学運営〕

全学委員会：国際交流委員会　日本語研修教育運営委員・日本語研修教育運営専門委員として日本語のシラバスのまとめ，新しい交換留学プログラムのカリキュラム・日本語コースのデザインに携わっている。

〔業務活動〕

学生支援業務：学生相談に来た留学生の通訳

機構の業務：IPLA アドバイザー，SAP 開発・実施，TGL アカデミックアドバイザー，TUJP コーディネーターなど

〔社会貢献〕

国際交流活動：留学生の雀踊りチームのスーパーバイザー

水松　巳奈 助教

〔専門分野〕異文化間教育論

芳賀　満 教授

〔専門分野〕古代ギリシア・ローマ・オリエント考古学

〔教育活動〕

授業担当状況：英語による歴史学の共修授業に力を傾注した。対象学生は，中国，韓国，インドネシア，タイなどのアジア諸国，イタリア，イギリス，スウェーデン，オーストリアなどの欧州諸国そしてアメリカ，そして何よりも日本，以上の国々からの学生である。つまり国際学士コース，IPLA，そして通常の全学教育としての本学の学生である。

全学教育で主に修得すべき力として「対象を相対化する力」，副次的には「造形言語を理解する力」と設定した。具体的な授業内容は，以下の２つである。

1) History of Art in Ancient Eurasia ~Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia：西洋中心史観でも中華思想でもない，ユーラシア大陸からの世界観を重視した。このような視点からの授業はこれまで本学に欠如していたように思う。

2) Japanese Art History：美術という視覚哲学から見た日本史である。特にアジア諸国，特に中国と韓国からの学生に日本の歴史を教授することは，困難で且つ重責の伴う行為であった。アジアあるいはユーラシア大陸全体から見た日本との視点を常に保持するように努めた。

他にも，以下の授業等を行った。

3) 基礎ゼミ「ユーラシア大陸から考えるー反「大勢」の視点の重要性」

4) 展開ゼミ「ギリシア・ローマ美術と仏教美術～神々の変容を追う」

〔研究活動〕

論文等：1)（単著）「研究，教育・大学運営業務，私生活におけるブレーク・スルー　ー地上的なものから離陸することなくそれらにまみれてー」，東北大学高度教養教育・学生支援機構編『大学教員のブレークスルー』（PD ブックレット vol.6），東北大学高度教養教育・学生支援機構発行，2015.2.6 ,pp.126-132.　2)（単著）「人文社会科学教育室の活動記録」『高等教育開発推進センター紀要』10 号（第 2 部「高等教育開発推進センターの活動記録」「2.　センター各室の活動記録」），2015.3.31,pp.83-92.　3)（単著）「地の塩」『高等教育開発推進センター紀要』10 号，2015.3.31,pp.137-139.　4)（単著）「シュリーマンの魅せられた世界ーギリシア美術の歴史」，天理大学附属天理参考館編『ティリンス遺跡原画−シュリーマンの今日的評価−』（平成 26 年度天理大学学術・研究・教育活動助成成果報告書），天理大学出版部，2015.2.28，pp.10-16.

講演等：1)（招待講演）「教養教育と海ー歴史的存在としての海洋生物」（東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センター主催，東北海洋生物学教育コンソーシアム企画，第 2 回東北海洋生物学教育フォーラム「大学教育と海」，2014 年 12 月 13 日，於東北大学浅虫センター），2)（招待講演）「メソポタミア，西アジア，ギリシア，ヨーロッパ，西洋を相対化する視座ーユーラシア大陸全体からみるー」（京都ギリシアローマ美術館講演会，2014 年 12 月 21 日，於京都ギリシアローマ美術館），3)（招待講演）「未来を「考えるための標（*Denkmal* ）」としての世界記憶遺産」（松浦晃一郎氏コーディネーター，明日の京都　文化遺産プラットフォーム『記録が結ぶ「時の絆」ー世界記憶遺産ー』，2015 年 1 月 18 日，於立命館大学）

科研費：1)「ディオニュソスを中心としたギリシア・ローマ図像のアジアへの伝播・吸引の研究」，基盤研究（挑戦的萌芽研究），研究代表，2)「中央アジアのシルクロード・シルクロード都市の調査研究」，基盤研究（B），分担

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会委員，　2) 同全学教育科目委員会基礎ゼミ委員会委員長，　3) 同全学教育科目委員会基幹科目委員会委員，　4) 同全学教育科目委員会人文科学委員会委員，　5) 東北大学附属図書館商議会商議員，　6) 同本館学生用図書選書委員会委員，　7) 同学術情報整備検討委員会委員，　8) 同学術情報資料選定小委員会委員　以上の諸委員会では特に電子ジャーナルの契約に関して審議し，また頻繁に選書作業を行った。　9) 人文社会科学系学生交流実施委員会委員としては特に外国学生の受け入れに関わった。

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構人間総合科学教育室室長，　2) 同機構学際融合教育推進センター副センター長，

3）同機構総務委員会委員，4）同機構紀要編集委員会委員長として機構紀要創刊号刊行に従事した。 5）同機構図書・資料委員会委員長

〔業務活動〕

学際融合教育推進センター業務：中川学講師と文理融合授業「アジアを知ろう，感じよう」の開発を行った。

人間総合科学教育開発室業務：中川学講師と正午 PD 会の企画・運営を行い，１２回実施した。

〔社会貢献〕

各種委員会委員：1）日本ユネスコ国内委員会ユネスコ記憶遺産選考委員会委員として，世界記憶遺産事業について調査・審議し，日本国からは「東寺百合文書」と「舞鶴への生還　１９４５～１９５６年シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」の２件をユネスコに申請した。2）日本学術会議連携会員史学委員会「文化財の保護と活用に関する分科会」委員として，提言「文化財の次世代への確かな継承 ―災害を前提とした保護対策の構築をめざして―」を作成し２０１４年６月２４日に政府内外に対して発出した。3）日本学術会議連携会員史学委員会「歴史認識・歴史教育に関する分科会」委員，4）日本学術会議連携会員哲学委員会「哲学・倫理・宗教教育分科会」委員，5）日本学術会議連携会員哲学学委員会「古典精神と未来社会分科会」委員，6）日本学術会議連携会員史学委員会「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」委員，7）日本学術会議連携会員史学委員会「博物館・美術館等の組織運営に関する分科会」幹事

その他：京都ギリシアローマ美術館理事

海野　道郎 総長特命教授

〔専門分野〕社会学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「基礎ゼミ」「社会の構造」「東日本大震災に学ぶ：社会科学の可能性」「社会的ジレンマ：環境問題の基本メカニズム」「復興の社会学」

工藤　昭彦 総長特命教授

〔専門分野〕農業経済学

〔教育活動〕

授業担当状況：＜全学教育＞

・共通科目（転換少人数科目）「基礎ゼミ」「農」的世界の可能性―ポスト工業化社会の展望，「基礎ゼミ」現代世界の「食」―飽食と飢餓の構造―

・展開科目（総合科学（総合科目））時代の文脈からみた「食」と「農」

・基幹科目（社会論）資本主義と農業－世界恐慌・ファシズム体制・農業問題－

・総合科目　環境と経済・社会の調和に関する多様なアプローチ

学友会活動の指導：乗馬部部長

その他：北里大学集中講義－農業経済学

〔研究活動〕

科研費：基盤研究（A）「ボトムアップ型合意形成による持続性の高い地域農業復興モデル構築の総合的研究」（2012～2014）連携研究者

〔社会貢献〕

各種委員会委員：みやぎ食・緑・水を創る県民会議会長，自治研修所中堅職員研修講師

社会教育活動：1）全農林東海地方主催講演会講師（2014 年 6 月 7 日），2）水土里ネット主催学習会講師（2014 年 7 月 28 日），3）北里大学集中講義講師（2014 年 7 月 30 日～8 月 1 日），4）秋田県労協主催夏季労農大学講師（2014 年 8 月 30 日），5）第 20 回わいわい祭主催（2014 年 10 月 26 日），6）登米市認定農業者研修会講師（2015 年 2 月 24 日）

野家　啓一 総長特命教授

〔専門分野〕哲学，科学基礎論

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「基礎ゼミ」「展開ゼミ」「思想と倫理の世界」「哲学・倫理学」

森田　康夫 総長特命教授

〔専門分野〕数論幾何学，整数論，数学教育

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「基礎ゼミ」学校教育の在り方と入学試験の功罪を考える，２コマ。「科学と情報」数学と人間－数学を俯瞰する－，３コマ。「教育と科学技術」，３コマ。
また，復興大学において，「復興の思想」，「復興の教育」（２回）を担当した。
〔研究活動〕
論文等：（単著）大学入試と整数問題，数学文化，23（2015），9-17.
書評：Fritz Reinhard 著，長岡昇勇・長岡由美子訳，カラー 学校数学事典，共立出版，2014/4/25 出版，数学通信，19（2014），98-100.
学会発表等：1）線形代数と整数問題，平成 27 年 1 月 10 日，お茶の水女子大学で開かれた「数学教育の会」で次期の教育課程に関連して講演した。2）数学と物理，平成 27 年 3 月 21 日，日本物理学会，参照基準に関する招待講演。
パネリスト：日本数学会における教育シンポジウム，平成 27 年 3 月 23 日。
〔社会貢献〕
各種委員会委員：1）国立研究開発法人科学技術振興機構の科学の甲子園ジュニアの推進委員を務めており，プロジェクトの実行に協力した。2）国立研究開発法人科学技術振興機構の理数学生育成支援プログラムの推進委員を務めている。3）公益財団法人数学オリンピック財団の監事を務めている。
学会活動：1）一般社団法人日本数学会の監事を務めている。2）日本学術会議の第三部会員を務め，数理科学委員会数学教育分科会の委員長を務めた。

吉野　博 総長特命教授
〔専門分野〕建築環境・設備
〔教育活動〕
授業担当状況：1）全学教育「自然と環境」前期２コマ，後期２コマ。「基礎ゼミ」前期２コマ。「展開ゼミ」後期２コマ。
2）大学院工学研究科講義「建築環境性能評価」7/3，「サステナブル建築論」12/10，17 を非常勤講師として実施。
3）前橋工科大学にて集中講義「住居と健康」(12/10)を客員教授として実施。
4）秋田県立大学にて集中講義「震災関連住宅における室内環境問題」(12/12)を客員教授として実施。
〔研究活動〕
論文等：1）（共著）Indoor air quality and thermal comfort in temporary houses occupied after the Great East Japan Earthquake. Indoor Air 2014, (24), 425-437（査読有），2）（共著）National Survey on Ventilation Systems and the Health of Occupants in Japanese Homes. International Journal of Ventilation, 13(2), (2014)（査読有），3）（共著）Primary pollutants in schoolchildren's homes in Wuhan, China. Building and Environment　2015（査読有），4）（共著）Indoor Environmental Problems and Health Status in Water-damaged Homes due to Tsunami Disaster in Japan. Building and Environment 2015（査読有）
学会発表等：日本建築学会大会などに 14 編，海外では 7 編を公表。
研究業績による受賞：室内環境学会　ポスター賞　受賞
外部研究資金の導入状況：1）（公財）LIXIL 住生活財団　調査研究助成　大規模住宅に対応した断熱改修スキームの構築とその検証
2）厚生労働科研費　健康安全・危機管理対策総合研究事業　科学的エビデンスに基づく「新シックハウス症候群に関する相談と対策マニュアル（改訂版）」の作成
3）科研費　基盤研究（B）2012～2014 年度：中国の都市住宅におけるＭＶＯＣ・カビ汚染の実態把握と防止対策の設計法に関する研究
4）科研費　基盤研究（C）2014～2016 年度：脳卒中死亡に関連する住環境要因のインパクト評価と改善策の提案
その他：ISO/TC163/SC1/WG10 の Convenor として「建物の気密性能試験法」などの ISO を取りまとめ。
〔社会貢献〕
各種委員会委員：1）一般社団法人　日本サステナブル建築協会の会長を務め，CASBEE 戸建認証委員会委員長などとして活動した。2）東京工業大学，東京工芸大学の外部評価委員，国立保健医療科学院評価委員を務める。3）任意団体「住まいと環境　東北フォーラム」の理事長として，シンポジウム，講習会，見学会などの社会貢献活動に従事した。
学会活動：1）日本学術会議の三部の会員であり，土木工学建築学委員会の副委員長，低炭素社会健康分科会の委員長を務めた。また，他の三つの分科会の委員として活動した。2）日本建築学会の会長を務め，その関連で日本建築学会の活動に深く貢献した。
3）臨床環境医学会副理事長を務めており，その関連で年次大会，理事会等にて役目を果たした。
国際交流活動：日本学術会議が事務局を務めるアジア学術会議の事務局長に 6 月から就任し，2015 年 5 月にカンボジアで開催される年次会議の準備に貢献した。

関根　勉 教授

〔専門分野〕放射化学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「自然科学総合実験」（代表），「文科系のための自然科学総合実験」，「化学Ｂ」（工2，医保歯1），大学院教育「先端理化学特論」（理学研究科化学専攻）

学位論文指導：修士2名，審査：副査3名，試験委員3名

教科書：『自然科学総合実験2015』（分担執筆）

指導学生の受賞：若手奨励賞（第15回環境放射能研究会，KEK，2014），若手優秀講演賞（第51回アイソトープ・放射線研究発表会，東京，2014）

〔研究活動〕

論文等：1)（共著）福島第一原発事故被災牛の歯に含まれる放射性ストロンチウムの測定，Proc. the 15th WS on Environmental Radioactivity (2014) pp.268-275，2)（共著）福島第一原発事故旧警戒区域内自生植物の放射性Cs濃度調査，Proc. the 15th WS on Environmental Radioactivity (2014) pp.244-250，3)（単著）理科実験教育室の10年　－自然科学総合実験とともに－，東北大学高等教育開発推進センター紀要，第10号（最終号），2015，pp.63-73，4)（共著）Science Laboratory Classes for Freshmen in Tohoku University: Introductory Science Experiments, JPS Conf. Proc., 1, 017001-1 - 017001-6 (2014)，5)（共著）Optimisation of the thickness of the moderator for positron annihilation process study in Ar gas, The Eur. Phys. Journal D, 68 (2014) 156，6)（共著）Kinetic energy of Ps formed by Ore mechanism in Ar gas, J. Phys.：Conf. Ser., 618 (2015) 012010

外部研究資金：1）イノベーション創出基礎的研究推進事業（農水省）「牛，豚およびイノブタの肉中放射性セシウム濃度のと畜前推定技術の検証と放射性物質の体内動態」（分担），2）基盤研究(A)「科学の多様な不定性と意思決定：当事者性から考えるトランスサイエンス」（分担），3）挑戦的萌芽研究「バイオフォースによる放射性セシウムの生体除染」（分担），4）基盤研究(C)「環境にやさしい化学実験の学校への導入」（分担），5）基盤研究(C)「原発事故を教訓とした地域密着型放射線教育の展開」（代表）

〔大学運営〕

全学委員会：1）学務審議会委員，2）学務審議会教務委員会委員，3)学務審議会基幹科目委員会委員長，4）実験科目委員会委員，5）同 実施委員会委員長，6）同 計画委員会委員，7)サイクロトロンRIセンター 予算委員会委員，8）同 課題採択委員会委員，9）運輸交通専門委員会委員

部局内委員会：1）高教機構教育内容開発部門長，2）同 学習支援センター長，3）同 自然科学教育開発室長，4）同 施設整備委員会委員長，5）同 総務委員会委員，6）同 紀要編集委員会委員

〔業務活動〕

学生支援業務：自然科学総合実験における連携支援（自然科学教育開発室，学習支援センター，学生相談・特別支援センター，工学教育院，教育・学生支援部），学習支援センターにおける連携支援（学生相談・特別支援センター，工学教育院など）

機構の業務：機構広報に関わる業務（ロゴマークの設定，施設表示など），施設整備委員会関係（プレハブ棟の利用など）

学習支援センター業務：運営業務（定例会議など），京都ＦＤ『学習支援を問う』，学習支援センター研修事業（北大）

学際融合教育推進センター業務：学際融合科目の調査（大阪大学，Imperial College London, King’s College, Univ. College London）

自然科学教育開発室業務：室の運営（定例ミーティング，学生実験棟及び理科実験のための維持管理等），理系・文系向けの自然科学総合実験の実施・運営

〔社会貢献〕

各種委員等：1）宮城県女川原子力発電所環境調査測定技術会委員，2）女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会構成員

学会活動：1）日本化学会化学グランプリ・オリンピック委員会グランプリ小委員会委員，2）マイクロスケールケミストリー第3回シンポジウム世話人（9月6，7日，川内北キャンパス），3) 2015日本放射化学会年会実行委員会委員長

社会教育活動：夏休み大学探検2014（仙台市，7月23日），出前授業 サイエンス・コラボ（仙台育英高校，12月6日）

葛生　政則 准教授

〔専門分野〕農業経済学・高等教育論

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育科目「経済と社会」，「経済学」

その他：1)「第 8 回東北大学基礎ゼミ FD・ワークショップ」（2014 年 11 月）の企画・運営に参加；2)「平成 26 年度基礎ゼミ成果発表会」（2014 年 9 月）の企画・運営に参加；3)「第 9 回東北大学全学教育 FD」（2015 年 3 月）の企画・運営に参加

〔研究活動〕

論文等：1)（単著）「1990 年代におけるバイエルン州の農業構造と農業構造政策」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 』第 1 号（2015 年 3 月，83–96 頁）；2)（単著）「高等教育開発室の活動記録 」『東北大学高等教育開発推進センター紀要 』第 10 号（2015 年 3 月，53–57 頁）；3)（単著）「全学教育のいくつかの工夫 」『東北大学高等教育開発推進センター紀要 』第 10 号（2015 年 3 月，141–143 頁）；4)（編集）東北大学学務審議会・東北大学高度教養教育・学生支援機構『第 8 回東北大学基礎ゼミ FD・ワークショップ―報告書―』（2015 年 2 月）

〔大学運営〕

全学委員会：学務審議会教育情報・評価改善委員会推薦委員，基礎ゼミ委員会専門委員，基幹科目委員会専門委員

部局内委員会：高等教育開発部門高等教育開発室長

〔社会貢献〕

社会教育活動：1）第 20 回東北大学高等教育フォーラム「グローバル人材の育成に向けて―これからの高校教育・大学教育における課題―」」（2014 年 5 月）の企画・運営に参加；2）平成 26 年度 IDE 大学セミナー／第 21 回東北大学高等教育フォーラム「大学教育における ICT 活用の光と影」（2014 年 11 月）の企画・運営に参加

田嶋　玄一 准教授

〔専門分野〕動物生理学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「文科系のための自然科学総合実験」（代表），「自然科学総合実験」（課題担当，曜日責任者），「生命科学 A」（医学部保健学科，工学部），「生命と自然」

教科書等：『自然科学総合実験 2015』（編集委員，編集実務担当，第 11，13，14 章執筆），G-30 クラス用『Introductory Science Experiments 2015』（編集担当，第 10 章執筆），「文科系のための自然科学総合実験アンケートまとめ」（科目開講から 8 年分のアンケート集計結果をまとめ，理系の自然科学総合実験アンケート報告書とともに冊子を作成）

〔大学運営〕

全学委員会：1）学務審議会基礎ゼミ委員会委員，2）環境保全センター業務委員会委員，3）情報システム部局実施責任者，4）学務審議会実験科目委員会実施委員会委員，5）同　計画委員会委員

〔業務活動〕

自然科学教育開発室業務：自然科学総合実験の実施・運営（定例ミーティング，実験棟および実験機器類の維持管理，担当教員・TA への FD の実施など）

〔社会貢献〕

学会活動：化学グランプリ 2014 二次選考運営委員

藤本　敏彦 准教授

〔専門分野〕運動生理学・運動学・スポーツ

〔授業担当〕

授業担当状況：全学教育　スポーツ A「ソフトボール」　8 コマ，スポーツ B「ソフトボール」 2 コマ，スポーツ B「フィジカルトレーニング」 2 コマ，スポーツ B「武道」 2 コマ企画・運営，体と健康「身体の文化と科学」（2/15 担当），生命と自然「ヒト・人を知る」（1/3 担当），生命と自然「身体運動のしくみ」 1 コマ，基礎ゼミ「運動器具を検証する」 1 コマ，展開ゼミ「こころと体の健康をつなぐ」 1 コマ

学位論文指導：博士課程院生　「バランスマットを用いた姿勢維持筋活動の観察」

その他：東北大学　全学教育貢献賞，教養教育特任教員（兼任），大学教育支援センター・プログラム研究開発員

〔研究活動〕

論文等：1)（共著）「精神科デイケアヘルス施設を利用する統合失調症患者の身体活動とメンタルヘルスの関係」体力研究 112:18-21.
2)（単著）「スポーツ科学教室の活動記録」東北大学高等教育開発推進センター紀要 10:93-96.

学会発表等：1)（共同）「大学生を対象とした運動種目と感情変化に関する考察」体力科学 63(6):729,2014.　2)（単独）「総合大学における保健体育実技運営に関する調査報告・運営方式と授業構成について」日本体育学会第 65 回大会予稿集 pp184, 2014.

シンポジウム提題者：「運動時における脳の神経伝達物質代謝と情動変化および運動の具体策」第 69 回日本体力医学会大会シンポジウム 10「運動とメンタルヘルス-先端脳科学から探る運動とこころの関係-」第 69 回日本体力医学会大会　体力科学 64(1):54,2015

寄付金：「バランス運動の研究助成」株式会社エフアシスト

〔大学運営〕

全学委員会：1）保健体育科目委員会委員，2）基礎ゼミ委員会委員

部局内委員会：1）機構研究倫理委員会委員，2）大学教育支援センター・プログラム研究開発員

〔社会貢献〕

各種委員会委員：仙台市市民局指定管理者選定委員会委員，仙台市スポーツ推進審議会委員

学会活動：体力医学会評議員，日本体育学会東北地域理事

社会教育活動：「効果のある認知症予防法～運動をすると認知症予防につながる？！～」蔵王町ふるさと文化会館（ございんホール）平成 26 年 11 月 12 日

中川　学 講師

〔専門分野〕日本近世史・大学史

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育　人間と文化「東北大学を学ぶ」（３コマ），歴史と人間社会「History of Tohoku University」，基礎ゼミ「フィールドワークの日本史」，カレントトピックス「東北大学のひとびと」（分担），カレントトピックス「グローバル社会で活躍する人材のための国際教養」（分担）

〔研究活動〕

図書：1）（単著）『仙台・江戸学叢書 30 仙台藩の武士と儀礼-年中行事を中心として』, 南北社, 2014,70 頁,　2）（分担執筆）「神社争論をめぐる朝廷と幕府の裁判」,平川新編『江戸時代の政治と地域社会』2（清文堂出版）, 59-86 頁, 2015

招待講演："What are the unique characteristics of Tohoku University ?" , International Workshop on Multiscale Computational Materials Science, 2014 年 11 月 4 日

〔大学運営〕

全学委員会：1）広報連絡員，2)学務審議会基礎ゼミ委員会委員，　3）学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会委員

部局内委員会：学習支援センター副センター長

各種支援活動：東北大学史料館兼務教員，東北大学プロモーションビデオＷＧ委員

〔業務活動〕

学習支援センター業務：運営業務（定例会議など），学習支援に関する調査（京都ＦＤ「学習支援を問う」など）

学際融合教育推進センター業務：学際融合科目の調査（大阪大学，Imperial College London, King’s College, Univ. College London），正午 PD 会の開催

〔社会貢献〕

学会活動：東北史学会評議員,宮城歴史科学研究会委員

その他：NPO 法人・宮城歴史資料保全ネットワーク理事

高橋　禎雄 助教

〔専門分野〕日本思想史，大学史

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育科目「人間と文化」5 コマ，「歴史学」1 コマ，基礎ゼミ 1 コマ担当。

〔研究活動〕

論文等：近世兵書における道解釈の転換―『士鑑用法』を中心に-『日本思想史研究』第 47 号（2015）東北大学，1～16 頁

〔大学運営〕

全学委員会：学務審議会基礎ゼミ委員会専門委員

〔社会貢献〕

学会活動：日本文藝研究会常任委員・大会運営委員

石川　賢一 助教

〔専門分野〕火成岩岩石学・地球化学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育科目の「自然科学総合実験」（第１，２セメスター）と「文科系のための自然科学総合実験」（第１セメスター）を担当した。これらの学生実験において実験内容の改善・実験レポートの作成の仕方などの指導を行い，学生の実験内容への理解度を高め，より良いレポートを作成させるために改善の努力をした。特に文科系学生に興味をもち，理解が深まるように改善の努力を行った。

学部専門教育科目として，顕微鏡実習（第３，４セメスター）を担当した。野外調査からの情報に加えて，調査で得られた岩石試料をプレパラートにし，顕微鏡サイズの情報の獲得について指導した。岩石プレパラートの観察に用いる偏光顕微鏡は普通顕

微鏡と異なり，観察法が難しいので，その取扱い方法を指導し，また造岩鉱物は結晶なので一般結晶光学の指導をした。それに続いて，各造岩鉱物の光学的性質の解説と観察・決定法の指導を行い，顕微鏡観察から地質プロセスの解読を指導した。

〔研究活動〕

五島列島小値賀島単成火山群のマグマ供給系について研究を進めている。

小値賀島火山群噴出物については詳細な全岩主成分・微量成分組成の検討はまだなされていない。小値賀島火山群噴出物は斑レイ岩などの基盤岩やそれら由来の捕獲結晶が多く含まれ（山本，2001），全岩化学組成の検討を難しいものにしている点がある。現在，小値賀島火山群噴出物について，このような問題点を考慮して詳細な地球化学的検討とまた捕獲岩・捕獲結晶の産状の検討を行い，阿武単成火山群や東伊豆単成火山群（これらは流紋岩質マグマや，それと玄武岩質マグマとの混合で形成されたとみられる安山岩質マグマを形成したとされる火山群）とのマグマ供給系の差異を明らかにする研究を進めている（山本，石川）。

以上をまとめて，現在，学術雑誌に投稿中である。

太田　宏 助教

〔専門分野〕動物生態学，両生爬虫類学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「自然科学総合実験」,「文科系のための自然科学総合実験」，学部専門教育（理学部）「生態学実習」,「進化学実習」

教科書：（分担執筆）『自然科学総合実験 2015』，東北大学出版会，文科系のための自然科学総合実験の新テーマの開発。

学友会活動の指導：アニメーション研究会　顧問，園芸部　顧問

〔研究活動〕

小型発信機を用いたキタサンショウウオ(*Salamandrella keyserlingii*)の行動追跡の試み。日本では釧路湿原と国後島にのみ生息するキタサンショウウオは釧路市の天然記念物にも指定されている希少動物であるが，道東道建設事業により生息地の一部が改変される予定となっており，その保全対策の検討がもとめられている。その一環としてラジオテレメトリーを用いた本種の移動調査を行った。

共同研究：「発信器を用いたキタサンショウウオの生態研究」2014 年 5 月−2015 年 3 月，223,920 円，代表者。

〔業務活動〕

自然科学教育開発室業務：自然科学総合実験の運営に関する業務を行った。

〔社会貢献〕

各種委員会委員：宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員（両生・爬虫類分科会長），国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー，環境省希少野生動植物種保存推進員，宮城県環境影響評価技術審査会委員

学会活動：日本爬虫両棲類学会　標準和名選定委員会委員

岡　壽崇 助教

〔専門分野〕放射線化学，放射線生物影響

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「文科系のための自然科学総合実験」,「自然科学総合実験」

学部専門教育（理学部）「課題研究I」,「課題研究II」

大学院教育（理学研究科）／修士課程「課題研究」,「セミナー」

大学院教育（理学研究科）／博士課程「先端理化学特別研究」,「先端理化学特別セミナー」

学位論文指導：学士2名，修士2名および博士3名の指導を行った。

教科書：（共著）「自然科学総合実験2014」，東北大学自然科学総合実験テキスト編集委員会 編，東北大学出版会（2014）

その他：指導学生が研究会で若手優秀講演賞を受賞した。（2014年7月）

〔研究活動〕

論文等：1)（共著）Energy loss of positrons below the excitation threshold in Ar gas, JJAP Conference Proceedings, 2, 011004-1-6 (2014), 2)（共著）Optimisation of the thickness of the moderator for positron annihilation process study in Ar gas, The European Physical Journal D, 68, 156-1-4 (2014)，3)（共著）「V. M. ビャーコフ，S. V. ステパノフ 放射線化学の基礎 - 放射線分解初期過程- 第7回」，放射線化学, 98, 33-37 (2014)，4)（単著）「ラジカルとESR 中間活性種の検出手法-1：ESR法」,「原子力・量子・核融合事典 第IV分冊」，丸善（2014）

研究業績による受賞：第51回 アイソトープ・放射線研究発表会「若手優秀講演賞」，「福島第一原発事故被災牛の歯中^{90}Sr測定（2014年7月）【指導学生の受賞】

招待講演：不対電子測定からみた内殻イオン化によるDNA損傷，原子衝突学会第39回年会, 2014/10/4-6，東北大学

外部研究資金：1）文科省，原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ，研究代表者，2）文科省，ナノテクノロジープラットフォーム，研究設備の試行的利用事業，研究代表者，3）科研費，基盤研究（C），研究分担者，4）科研費，挑戦的萌芽研究，研究分担者，5）物質・デバイス領域共同研究拠点，研究代表者

その他：文科省「原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ」のリーダー

〔業務活動〕

部局内委員会：東北大学自然科学総合実験 実施委員会 委員

〔社会貢献〕

各種委員会委員：公益社団法人日本アイソトープ協会 アイソトープ・放射線研究発表会 幹事

学会活動：日本放射線化学会 理事・事務局次長・編集委員会委員，日本陽電子科学会 会報刊行委員会副委員長

小俣　乾二 助教

〔専門分野〕化学・有機化学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「自然科学総合実験」,「文科系のための自然科学総合実験」,「化学Ｂ」（工2，医保歯1），大学院教育「先端理化学特論」（理学研究科化学専攻）

学位論文指導：兼務先の理学部/理学研究科の博士課程前期および学部学生の卒業課題研究の指導を主導的に行った（修士終了研究1名）。

教科書：『自然科学総合実験2015』（分担執筆）

〔大学運営〕

全学委員会：環境・安全委員会安全管理専門委員会危険物質総合管理システム専門部会　委員（教育・学生支援部，高教機構）

〔業務活動〕

機構の業務：部局ビジョン事業の「学際融合教育に関する調査の推進」「グローバル時代における高度教養教育に関する調査研究」に関連し，海外視察（米国）を行った。

自然科学教育開発室業務：自然科学総合実験の運営（ミーティング，実験装置の管理）

〔社会貢献〕

学会活動：マイクロスケールケミストリー第3回シンポジウム実行委員（会計）

社会教育活動：オープンキャンパスでの研究紹介（兼任先の理学研究科において），出前授業 サイエンス・コラボ（仙台育英高校，9月20日）

福谷　圭祐 助教

〔専門分野〕光電子固体物性物理

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「文科系のための自然科学総合実験」課題担当，「文科系のための自然科学総合実験」の運営担当及び取りまとめ，「自然科学総合実験」の運営担当（副曜日責任者）

学位論文指導：学士１名（実験，解析，学位論文執筆及び口頭発表指導）

その他：「文科系のための自然科学総合実験」「自然科学総合実験」のガイダンス，学生指導，相談

〔研究活動〕

学会発表等：1)「In4Se3表面上の2DEG状態の高分解能ARPES」日本物理学会秋季大会2014年9月（早稲田大学），2)「W(112)表面の高分解能ARPES」日本物理学会年次大会2015年3月（中部大学）

〔大学運営〕

全学委員会：実験科目委員会実施委員会委員

松田　欣之 助教

〔専門分野〕物理化学，レーザー分光学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「自然科学総合実験」課題５を担当した。また課題責任者として，留学生プログラム Introductory Science Programs の課題５について，課題担当者に代わり，留学生を指導した。

学位論文指導：学士１名，修士１名

〔研究活動〕

独自開発した真空紫外イオン化検出赤外分光法により，中性および正イオンのトリメチルアミン二量体の赤外分光を行った。そ

の結果，イオン化過程において，トリメチルアミンの CH 結合の酸性度が増大することにより，イオン化されたトリメチルアミンの CH から障壁なしのプロトン移動が起こることを見出した。この結果は，正イオンのおける CH 結合の酸性度の増大と CH 結合からのプロトン移動を分光学的に示したはじめての結果である。同結果は，物理化学分野のトップ雑誌の一つである Journal of Physical Chemistry A 誌に掲載された。

科研費：新学術領域研究「宇宙における分子進化：星間雲から原始惑星系へ」において，公募研究「水クラスター表面で起こる光反応過程のレーザー分光研究」(代表者)

〔業務活動〕

自然科学総合実験の課題 5 の課題責任者を務めた。課題担当の教員，TA の実験内容および手順等の説明や実験科目遂行に際する消耗品の補充，器具のメンテナンスを行った。副曜日責任者として自然科学総合実験の運営に努めた。

〔社会貢献〕

学会活動：分子科学会電子ジャーナル Molecular Science の編集委員を務めた。

社会教育活動：東北大学オープンキャンパスおいて，理学部化学科で公開実験，展示「光で観る分子」を行った。

三輪　浩司 助教

〔専門分野〕素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「自然科学総合実験」

足立　佳菜 助手

〔専門分野〕道徳教育史，学習支援（高等教育）

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育 基礎ゼミ「『自分』×『学問』～≪はじめの一歩≫サポートゼミ～」を担当（受講生 23 名）。基礎ゼミにおける「学びの転換」を具現化するための授業を企画，実施。業務センターとの連関の下，先輩学生をゲストスピーカーとして授業に参加させるなどの工夫をした。授業評価は「関連学習」以外の各項目について，委員会平均値を上回る評価を得た。

その他：学習支援センターにおける授業連携型学習支援の実践において，前期 4 授業・後期 4 授業の教員（授業）と連携し，学生を活用した授業開発の支援を行った。

〔研究活動〕

論文等：(単著)「SLA 制度の開発・実践報告―『SLA サポート室』とは何か？―」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』10 号，2015 年 3 月。

学会発表等：(共同)「『学生の力』を活用した正課外学習支援活動の可能性―学生アドバイザー (SLA) の成長に焦点を当てて―」，第 21 回大学教育研究フォーラム（於 京都大学），2015 年 3 月 13 日。

科研費：基盤研究Ａ「グローバル社会におけるコンピテーションを具体化する高度教養教育の開発研究」（研究分担者）

〔業務活動〕

学習支援センター業務：センターの企画・運営業務全般に従事。平成 26 年度は，利用者数のべ約 3500 人（前年度比約 2 倍），SLA 雇用者数 55 名と過去最大規模の活動・体制となった。活動の維持・発展とともに，研究大学における学習支援の在り方を継続して開発している。

国立大学強化推進経費を獲得し，全 1・2 年次学生配布，学習支援センター活用ガイド＆学習支援ブック『ともそだち本』を発行。かつ，HP を改修し活動発信ツールを改善・拡大。

北海道大学との共同研修を実施。

ピア・プログラムに関する科研主催の学習セミナーにおいて「SLA 学生の成長とその仕掛け」について事例報告。

〔社会貢献〕

高度教養教育・学生支援機構 PDP プログラム「アカデミック・ライティングを指導する」セミナーの企画，運営，司会（2014 年 9 月 1 日）。

萩友会プレミアム懇談会における自由見学（2014 年 6 月 7 日）。

東北大学オープンキャンパス（2014 年 7 月 30-31 日）

福島大学総合教育研究センター「2014 年度 FD 宿泊研修」における「東北大学の教養教育と学生支援」についての講演及び研修会内グループワーク等におけるアドバイザー（2014 年 9 月 27-28 日）

鈴木　学 助手

〔専門分野〕教師教育・学習支援（高等教育）

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「基礎ゼミ」(「自分」×「学問」―≪はじめの一歩≫サポートゼミ―)；学生授業評価結果は概ね平均値を上回る結果となった。

教材作成：全学教育学習支援ＢＯＯＫ「ＳＬＡ式ともそだち本」の作成；学部 1･2 年次学生全員に配布する学習教材を作成し，「学びの転換」を促進するきっかけを提供した。

その他：授業ＳＬＡ活用による授業改善サポート；区分別支援授業数は基礎ゼミ 2 授業，基幹科目 1 授業，展開科目 4 授業，共通科目 1 授業である。

〔研究活動〕

論文等：1)（単著）「SLA の可能性」東北大学高等教育開発推進センター紀要第 10 号，2015 年 3 月，149 - 152，2)（共著）「全学教育学習支援プロジェクト SLA（スチューデント・ラーニング・アドバイザー）制度の実践～4 年目の実践～」東北大学教養教育院年報（平成 25 年度），2014 年 7 月，87 - 94

学会発表等：1)（共同）「『学生による学習支援』のしかけ―東北大学学習支援センター（SLA サポート）の事例― 」ピア科研第 1 回学習セミナー，2015 年 3 月 6 日，2)（共同）「『学生の力』を活用した正課外学習支援活動の可能性―学生アドバイザー（SLA）の成長に焦点を当てて―」第 21 回大学教育研究フォーラム，2015 年 3 月 13 日

科研費：基盤研究Ａ「グローバル社会におけるコンピテーションを具体化する高度教養教育の開発研究 」（研究分担者）

〔業務活動〕

学習支援センター業務：1）個別対応型学習支援（利用学生数のべ 3501 名）の企画・運営，2）授業連携型学習支援（8 授業）の企画・運営，3）企画発信型学習支援の企画・運営，4）自主ゼミ支援の運営，5）ＳＬＡ育成・研修プログラム（各分野別部会システム，合宿型研修等）の開発・実施，6）連携協力機関との合同研修（北海道大学等），7）ネットワーク構築活動（訪問調査等）

〔社会貢献〕

セミナー企画：「アカデミック・ライティングを指導する」東北大学高度教養教育・学生支援機構 教育関係共同利用拠点提供プログラム PD セミナー，2014 年 9 月 1 日

講師：福島大学ＦＤ宿泊研修（1 泊 2 日）における「東北大学の教養教育と学生支援」についての講演及び研修会内グループワーク等におけるアドバイザー等，2014 年 9 月 27 日 - 28 日

地域・社会貢献：1）萩友会プレミアム懇談会 （自由見学），2014 年 6 月 7 日，2）東北大学オープンキャンパス，2014 年 7 月 30 日 - 31 日

吉武　清實 教授

〔専門分野〕学生相談，臨床心理学，コミュニティ心理学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「学生生活概論」，大学院教育「コミュニティ心理学特論」および「コミュニティ心理学実践特論」（教育学研究科臨床心理学専攻）

学位論文副査：社会人 1 名

その他：全国学生相談研修会講師

〔研究活動〕

論文等：1)（共著）東日本大震災ボランティア参加学生への学生相談機関における心理的支援に関する実態調査， 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要，第 1 号，2015，pp.131-139， 2)（単著）学生相談室の 10 年，東北大学高等教育開発推進センター紀要，第 10 号（最終号），2015，pp.101-113

シンポジウム：日本特殊教育学会自主シンポジウムにおいて指定討論者を務めた。

〔大学運営〕

全学委員会：学務審議会学生相談・特別支援専門委員会委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員，紀要編集委員会委員，臨床教育開発室長，キャリア支援センター副センター長。

各種支援活動：工学部学生支援室運営委員会(月例)に参加，学生相談支援に関する助言を行うとともに学生相談特別支援センターとの連携強化を図った。また工学部カウンセラーへ継続的スーパービジョン実施。

〔業務活動〕

学生支援業務：1）学生相談（567 時間，113 人，のべ 547 回），学生へのメンタルヘルスおよびハラスメント講演，2）特別支援教員への支援を行った。また，ハラスメント全学学生相談窓口相談員として，ハラスメント相談（9 時間，10 回）ならびに部局長へのコンサルテーションを行った。

機構の業務：副機構長との協議のもと発達障害学生支援をテーマに平成 26 年度のＰＤプログラムの企画，実施を行った。

キャリア支援センター業務：キャリア支援センター相談ユニット長として相談ユニット相談員からのヒヤリングを行い，同センター相談活動の実情把握を行った。

〔社会貢献〕

各種委員会委員：日本学生支援機構有識者会議委員を務めた。

学会活動：日本学生相談学会常任理事を務めた。また，同学会，「大学カウンセラー」および「学生支援士」に資格認定に関わる，認定委員を務め，認定作業に当たった。

その他：1）日本学生相談学会「学会賞」を受賞した。2）九州大学，立命館大学など 7 大学のＦＤ，ＳＤ等において，ハラスメント防止，発達障害支援，学生相談・指導をテーマにのべ９回の講演を行った。

冨田　京子 特任准教授

〔専門分野〕キャリアカウンセリング

〔業務活動〕

学生支援業務：キャリア支援センタープログラム全般および運営，個別学生相談担当

≪実績業務一覧≫

◎学生個別相談業務

◎外部講師（非常勤）への情報共有，情報提供業務

◎年間キャリア支援プログラム策定業務

◎キャリア支援セミナー及びワークショップ企画，立案実施運営，広報（チラシポスター作成含む）業務及び講師選択，講師打合せ，講師対応業務

◎セミナー・ワクショップ担当講師業務

◎キャリア支援センター職員研修企画，立案担当講師業務

◎キャリア支援センター学生スッフ研修企画，立案担当講師業務

猪股　歳之 助教

〔専門分野〕教育社会学・高等教育論

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育「社会と大学生」，「ライフ・キャリアデザイン」，「新聞から見た現代社会論」，「地域の＜みらい＞を創る新聞論」，「社会学（現代大学論）」

〔研究活動〕

論文等：1）（単著）「日本的雇用慣行と大学教育：進路選択の基礎知識」『平成 25 年度教養教育院セミナー報告』（東北大学教養教育院，2014 年 7 月，57-65 頁），2）（単著）「キャリア支援室 キャリア支援センター8 年の活動記録」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第 10 号（2015 年 3 月，125-129 頁），3）（編集）「高等教育開発推進センター関係の資料」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第 10 号（2015 年 3 月，153-190 頁），4）（単著）「平成 28 年 3 月卒修了者からの就職 採用活動時期の変更について−その影響と可能性−」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 1 号（2015 年 3 月，229-234 頁）

科研費：挑戦的萌芽研究「スペイン高等教育における教養教育の「二重の質保証」システムに関する研究」（分担）

〔大学運営〕

全学委員会：キャリア支援専門委員会委員

部局内委員会：1）高度教養教育・学生支援機構 キャリア開発室室長，2）同 大学教育支援センター研究開発員，3）同 図書・資料委員会委員

〔業務活動〕

学生支援業務：キャリア支援センターにおけるキャリア・就職に関する個別相談（54 人）

機構の業務：1）文学研究科 FD「平成 28 年 3 月卒修了者からの就職活動時期以降について」講師，2）学生支援審議会 FD（第 4 回）「東北大学のキャリア支援」講師

キャリア支援センター業務：1）キャリア支援センターにおける各種支援プログラムの企画・実施，2）「2014 年度 法学部キャリアガイダンス」講師，3）リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラム「産学連携セミナー」講師，4）北海道新聞社取材対応「宮城の大学就活で連携」，5）文学部・文学研究科 2014 年度第 1 回就職講座「20 歳のハローワーク」講師，6）大学教育支援センター・キャリア支援センター「キャリア指導の理論と実践」企画運営・司会，7）キャリア支援センター「院生キャリアセミナー：大学院生が未来をきりひらくために」企画運営・司会，8）文学部・文学研究科 2014 年度第 2 回就職講座「20 歳のハローワーク」講師，9）東北大学新聞取材対応「就活期間が変更に－準備の見直し必要か」

教育評価分析センター業務：1）教育評価分析センターキックオフセミナー「学修成果検証に基づく教学マネジメントの推進と課

題」企画運営・司会，2）教育評価分析センターにおける各種調査の計画・結果分析，3）同 「第 2 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」の企画・実施

〔社会貢献〕

各種委員会委員：1）文部科学省　地（知）の拠点整備事業選定委員会書面審査委員，2）大学間連携共同教育推進事業評価委員会専門委員

その他：1）宮城学院女子大学非常勤講師，2）東北福祉大学兼任講師，3）広島大学高等教育研究開発センター客員研究員，4）放送大学宮城学習センター客員講師

池田　忠義 准教授

〔専門分野〕臨床心理学，学生相談，非行･犯罪心理学

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育科目「学生生活概論」，教職科目「相談心理学Ⅱ」，大学院教育（教育学研究科）「投影法特論Ⅰ」・「投影法特論Ⅱ」，会津大学短期大学部「コミュニケーション学」

その他：1）学部新入生を対象とした新入生特別セミナーにおいて「安心・安全なキャンパスライフ」のテーマで講演，2）部局新入生オリエンテーションにおいて学生生活に関する説明および学生相談・特別支援に関する利用案内（計 4 回）

〔研究活動〕

論文等：1）（共著）大学における学生相談体制充実のための「学生相談機関充実イメージ表の開発，学生相談研究，35(1)，1-15，2）（共著）東日本大震災ボランティア参加学生への学生相談機関における心理的支援に関する実態調査，東北大学高度教養教育学生支援機構紀要，1，131-140，2015

学会発表等：1）（共同発表）震災初期～中期における学生相談機関の大学コミュニティ支援　－震災後 3 年間の大学コミュニティ支援活動の検討，日本学生相談学会第 32 回大会，2014，2）（共同発表）被災県内の学生相談機関における東日本大震災に関連した相談の特徴　－震災後 3 年間の自発来談ケースについて－，日本心理臨床学会第 33 回秋季大会，2014，3）（共同発表）臨床事例における「つまずき」について考える（6）－面接初期に焦点を当てて－：自主シンポジウム，日本心理臨床学会第 33 回秋季大会，2014

科研費：基盤研究(C)「学生相談における災害ボランティア参加学生を対象とした心理的支援モデルの検討」（分担）（2014～2016）

その他：東日本大震災の心理的影響と支援のあり方に関する継続的研究（神戸大学・和歌山大学・奈良女子大学等の研究者との共同研究）

〔大学運営〕

全学委員会：学生支援審議会委員，学生生活協議会委員，学生相談専門員会委員，東日本大震災学生ボランティア活動支援運営委員会委員

部局内委員会：高度教養教育学生支援機構総務委員会委員，学生相談・特別支援センター副センター長

各種支援活動：学生支援審議会委員や学生相談専門委員，部局の学生相談等の担当教職員等を対象とした「学生支援審議会 FD」の企画・実施（計 4 回），教務系職員研修および部局 FD における講師（学生対応，ハラスメント等に関するテーマ）（計 6 回）

〔業務活動〕

学生支援業務：1）学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援；相談人数 70 名，のべ相談回数 985 回，2）川内南キャンパスにおけるキャリア・カウンセリング（キャリア支援センターと協働）；相談人数 12 名，のべ相談回数 14 回，3）ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談；のべ対応回数 47 回

学生相談・特別支援センター業務：1）東日本大震災後の学生の生活や心身状態，大学への適応状態等を把握するための全学生対象調査の実施，その結果に基づく学生への個別支援，2）障害学生支援および特別支援室の活動に関するパンフレットの作成および全教職員への配付

〔社会貢献〕

各種委員会委員：仙台市自殺防止対策連絡協議会委員

学会活動：日本学生相談学会査読委員

その他：1）宮城県臨床心理士会倫理担当全国理事，2）「みやぎ学生相談連絡協議会」（年 2 回開催）に参加，宮城県県内の大学の学生相談機関との情報の共有や相互支援，3）全国の高等教育機関等においてハラスメントや学生支援に関する講演（計 5 回）

長友　周悟 講師

〔専門分野〕臨床心理学

〔教育活動〕

全学 FD，工学部 FD，国際文化研究科 FD において，障害者差別解消法に基づく障害学生への合理的配慮の考え方や具体的な配

慮の例，発達障害の具体的なケースに関する理解の仕方や対応のあり方などについて講話を提供した。
また，障害者差別解消法や合理的配慮の考え方等，平成 26 年度に開設された学生相談・特別支援センター特別支援室などについて啓発・周知を図るためリーフレットやガイドライン，ホームページの作成などを行った。
〔大学運営〕
川内北キャンパス内のバリアフリー化に向けて，改修工事や自動ドアの設置等が必要となる箇所の確認を学務課学務調達係と行った。また，地下鉄東西線の開設に伴って行われる理学部敷地内の工事内容について，バリアフリーの視点から理学部教務及び施設部と協議を行った。
〔業務活動〕
学生相談・特別支援センターの業務として，障害のある学生および障害の疑いのある学生への相談支援を行った。加えて，支援の充実を図るうえで必要な教職員との連携や，学生への対応に困難を抱える教員への支援も行った。支援を行った学生の障害種別は，発達障害，肢体不自由，聴覚障害，内部障害，視覚障害などである。
〔社会貢献〕
社会福祉法人仙台いのちの電話の相談員の養成・研修を担う「専門ボランティア」の委嘱を受けており，毎月，グループ研修を担当している。また，精神障害の当事者および家族を地域で支援する NPO 法人「ソイプラム」の理事として，年に何回か理事会に参加し，組織の運営に協力を行っている。

堀　匡 助教
〔専門分野〕臨床心理学，学生相談

齋藤　未紀子 助手
〔専門分野〕臨床心理学，学生相談

佐々木　真理 助手
〔専門分野〕障がい学生の修学支援，聴覚障害
〔大学運営〕
各種支援活動：学生支援審議会教員研修 FD（第 1 回～第 4 回）の運営を行った。
〔業務活動〕
学生相談・特別支援センター業務：特別支援室運営業務

佐藤　静香 助手
〔専門分野〕臨床心理学，学生相談
〔教育活動〕
授業担当状況：全学教育科目「学生生活概論」（共同で担当），仙台白百合女子大学「社会心理学」
〔研究活動〕
論文等：(共著)「東日本大震災ボランティア参加学生への学生相談機関における心理的支援に関する実態調査」，東北大学高度教養教育学生支援機構紀要，第 1 号, 131-139.
学会発表等：1)（共同）「震災後初期～中期における学生相談機関の大学コミュニティ支援 」，日本学生相談学会第 32 回大会，2014，2)（共同）「大学におけるハラスメント相談員研修に求められる内容」，日本コミュニティ心理学会第 17 回大会，2014，3)(共同)「被災県内の学生相談機関における東日本大震災に関連した相談の特徴－震災後 3 年間の自発来談ケースについて－」，日本心理臨床学会第 33 回秋季大会, 2014，4)（共同）「高等教育機関における発達障害学生支援グループワーク－サポーターとしてのピア学生の体験を中心に－ 」，日本心理臨床学会第 33 回秋季大会, 2014
科研費：挑戦的萌芽研究「学生相談における災害ボランティア参加学生を対象とした心理的支援モデルの検討」（2014～2016）（研究分担者）
その他：全学生を対象とする「東日本大震災後の学生生活に関する調査」の実施，全新入生を対象とする「新入生意識調査」の実施と学生相談所年報への結果の公表
〔大学運営〕
全学委員会：男女共同参画委員会委員
部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構　施設整備委員会委員
各種支援活動：学生支援審議会 FD（年 4 回）の実施
〔業務活動〕

学生支援業務：学生相談所相談員として，必要に応じて特別支援室と連携・協働しながら，学生（留学生を含む），教職員，学生の家族等に対し相談援助活動を行った。また，ハラスメント全学学生相談窓口相談員として，ハラスメント相談への対応を行った。

学生相談・特別支援センター業務：「東日本大震災後の学生生活に関する調査」の結果に基づく支援，各部局における新入生オリエンテーション等での学生生活のガイダンスおよび学生相談所の利用案内，学生相談所年報の編集，学生相談・特別支援センターのホームページのリニューアル等を行った。

〔社会貢献〕

「みやぎ学生相談連絡協議会」への参加による他大学の学生相談機関との連携

木内　喜孝 教授

〔専門分野〕消化器病学・炎症性腸疾患

〔教育活動〕

授業担当状況：学部専門教育（医学部医学科）「消化器ブロック」，東北薬科大学「特殊医療学」

学位論文指導：博士１名，審査（副査）：修士１名

（上記の論文提出者以外に，博士課程の１－３年生について５名指導をしている）

〔研究活動〕

論文等：1)（共著）Modulation of endoplasmic reticulum (ER) stress-induced autophagy by C/EBP homologous protein (CHOP) and inositol-requiring enzyme 1α (IRE1α) in human colon cancer cells. Biochem Biophys Res Commun. 445(2), (2014) 524-533.　2)（共著）Endoscopic submucosal dissection for colorectal neoplasia during the clinical learning curve. Surg Endosc. 28(7), (2014) 2120-2128.　3)（共著）C-reactive protein is an indicator of serum infliximab level in predicting loss of response in patients with Crohn's disease. J Gastroenterol. 49(2), (2014) 254-262.　4)（共著）Refractory sclerosing mesenteritis involving the small intestinal mesentery: a case report and literature review. Intern Med. 53(13), (2014) 1419-1427.

科研費：基盤研究（C）アリル特異的 DNA メチル化解析による炎症性腸疾患感受性遺伝子の機能解析（2014～2016）

〔大学運営〕

全学委員会：1）学生支援審議会副委員長，2）学務審議会委員，3）入試実施委員会委員，4）環境・安全委員会委員，5）東北大学出版会評議員，6）特別健康管理専門部会委員長，7）災害対策推進室推進室会議，8）サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター運営専門委員会委員

部局内委員会：1）ハラスメント相談窓口，2）研究費の不正使用に関する通報を受け付ける窓口，3）研究倫理委員会委員長，4）機構研究倫理教育責任者，5）保健管理センター長，6）機構長補佐会議メンバー，7）情報科学研究科倫理審査委員

〔各種業務及び医療業務〕

医療業務，保健管理センター業務：保健管理センター長としてセンターの運営に責任を持っている。

機構の業務：機構研究倫理委員長として機構の研究倫理審査を取りまとめている。

臨床医学開発室業務：室の運営，各教員の研究の方向性について相談。

〔社会貢献〕

各種委員会委員：1）宮城県生活習慣病検診指導管理指導協議会大腸がん部会委員；宮城県大腸癌検診が適切に行われているか審査，2）宮城県対がん協会大腸癌検診診断委員長；宮城県大腸癌検診の診断が適切に行われるように指導する，3）宮城県社会保険診療報酬請求書審査委員会；保険診療報酬が適切に請求されているか審査する，4）厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業－難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 班友

学会活動：1）日本消化器病学会評議員，2）日本消化器内視鏡学会東北支部評議員，3）日本内科学会東北支部評議員，4）日本消化器がん検診学会地方評議員，5）全国大学保健管理協会評議員，6）東北学校保健学会世話人，7）第４１回東北大腸疾患研究会開催

社会教育活動：1）ドクターサーチ宮城　健康セミナー学術講演会（2 月 1 日，仙台），2）NPO 法人 NEXTSURG が企画した市民公開講座（2 月 21 日，仙台）

小川　晋 准教授

〔専門分野〕糖尿病，高血圧，糖尿病性腎症

〔教育活動〕

授業担当状況：大学院教育「健康情報学」（情報科学研究科）生体情報科学分野の講義 3 枠

学位論文指導：大学院生博士課程学位論文指導 1 名

その他：医学部学生の臨床実習指導および講義

〔研究活動〕

論文等：1)（共著）Elucidation of the etiology and characteristics of pink urine in young healthy subjects, Clin Exp　Nephrol 2014. DOI: 10.1007/s10157-014-1066-y.　2)（共著）Stabilization of postprandial blood glucose fluctuations by addition of GLP-analog administration to intensive insulin therapy, J Diabetes Investig 6: 436-442, 2014.

学会発表等：第 57 回日本糖尿病学会，第 57 回日本腎臓学会，第 29 回日本内分泌学会東北地方会，第 37 回日本高血圧学会，日本糖尿病学会第 52 回東北地方会，第 26 回日本糖尿病性腎症研究会

講演等：第 26 回日本糖尿病性腎症研究会（教育講演），第 20 回日本血管外科学会教育セミナー(招待講演)，第 44 回日本腎臓学会東部学術大会(招待講演)，第 57 回日本腎臓学会学術総会オフィシャルサテライトシンポジウム，第 57 回日本腎臓学会学術総会（特別企画 2)，第 48 回糖尿病学の進歩(シンポジウム)，第 49 回糖尿病学の進歩（シンポジウム)

外部研究資金：平成 26 年度高等教育の開発推進に関する調査・研究経費 研究課題名「肥満学生における尿中尿酸析出とアミノ酸代謝異常の解明」

その他:アルブミン尿を有する 2 型糖尿病患者におけるスピロノラクトンの投与によるアルブミン尿抑制効果の検討(共同研究)，アンジオテンシン受容体拮抗薬，アジルサルタンの糖尿病例における血管弾性に及ぼす効果の臨床的検討(共同研究)，学生の尿を採取し研究を行っている。

〔大学運営〕

高度教養教育・学生支援機構研究倫理委員会委員，同　紀要編集委員会委員，保健管理センター副センター長

〔各種業務及び医療業務〕

医療業務：大学病院外来診療（週 2 回)，入院患者の診療

学生支援業務：生活習慣病に関する学生相談の対応

保健管理センター業務：副センター長業務，健康診断班長として約 2 万人の健康診断を確認し診断書を作成している。

臨床医学開発室業務：学生健康診断，学生健康相談(週 3 日)，学生の緊急健康被害時の対応

〔社会貢献〕

学会活動：日本内科学会(支部評議員)，日本腎臓学会(評議員)，日本高血圧学会(評議員)，日本肥満症治療学会(評議員)，糖尿病性腎症合同委員会

社会教育活動に対する貢献：市民公開講座，糖尿病友の会指導医および教育講演

その他：津波被災地の診療支援（岩手県立高田病院糖尿病外来）

伊藤　千裕 教授

〔専門分野〕精神医学，精神薬理学

〔教育活動〕

授業担当状況：医学部専門教育（精神・心理・行動ブロック）「患者の抑うつ」「精神科治療学（薬物身体療法)」「精神作用物質使用による精神および行動の障害」

学位論文審査：情報科学修士論文審査（副査）1 名

その他：臨床研修指導医；日本精神神経学会精神科指導医；日本臨床精神神経薬理学指導医

〔研究活動〕

論文等：1)（共著)「心的外傷後ストレス障害と PET による受容体イメージング」，精神科，25，2014，326-330 頁，2)（共著)「うつ病におけるエスシタロプラムの効果と位置づけ」，LEXAPRO 全国座談会シリーズ，3，2014，1-6 頁

学会発表等：(共同)「昏迷（亜昏迷）を呈した慢性腎不全患者の 2 例」，第 59 回日本透析医学会学術総会，2014

寄付金：メンタルヘルス研究助成金

〔大学運営〕

部局内委員会：1）高教機構総務委員会委員，2）病院ハラスメント相談窓口

〔各種業務及び医療業務〕

医療業務：1）定期健康診断における内科診察，2）メンタルヘルス相談（525 名）

機構の業務：1）学生支援審議会教員研修 FD「大学生のメンタルヘルスケア」，2）教育関係共同利用拠点プログラム（健康教育)「物質関連障害」

〔社会貢献〕

学会活動：1）日本神経精神薬理学会評議員，2）日本臨床精神神経薬理学会評議員，3）日本ヒスタミン学会幹事

その他：小島病院非常勤医師

佐藤　公雄 准教授

〔専門分野〕循環器内科学

〔教育活動〕

主に循環器内科へ海外からの留学生（博士課程）2 名，大学院生（博士課程）7 名，他科から学内留学中の大学院生（博士課程）1 名の学位研究の指導を行った。

学位論文指導：海外からの留学生（博士課程）2 名を含む大学院生計 10 名の研究指導と学会発表および論文作成指導。

留学生受入れ：海外留学生 2 名の受け入れと指導を行っている。

〔研究活動〕

これまでの基礎研究を発展させるべく，臨床応用を目指した研究を行った。

研究業績：英文原著論文 12 件（全て査読あり），日本語著書 5 件，学会発表多数，特許取得 1 件，特許出願中 2 件

外部研究資金：文部科学省　H26-28 橋渡し研究（シーズ A，シーズ B），H24-H26 基盤研究（B）

〔大学運営〕

高度教養教育・学生支援機構 遺伝子組換え実験安全主任者・動物実験安全主任者として，申請書の審査等を行った。

循環器内科での月曜朝のミーティング・抄読会・勉強会の調整を行った。

〔各種業務及び医療業務〕

大学病院の循環器内科外来および保健管理センターでの医療業務。保健管理センターでの医療業務として，週 3 日保健管理センターで，健康相談を行っており，健康相談班長として，学医からの相談を受けている。

〔社会貢献〕

学会活動：日本循環器学会，日本心臓病学会，日本 NO 学会（評議員），日本血管生物医学会，日本酸化ストレス学会（評議員），日本脈管学会，国際心臓研究学会（ISHR），日本心不全学会，日本動脈硬化学会，日本再生医療学会，日本内科学会，アメリカ心臓協会（AHA）

石田　晶玄 助教

〔専門分野〕肝胆膵外科学

〔教育活動〕

医学生の病院実習の指導。主に 5 年生，6 年生の指導担当。

〔研究活動〕

論文等：（共著）Human bile contains microRNA-laden extracellular vesicles that can be used for cholangiocarcinoma diagnosis. Hepatology. 2014 Sep;60(3):896-907　（査読あり）

科研費：研究活動スタート支援「脱ユビキチン化酵素 BAP1 の胆管癌における役割の解明」

〔各種業務及び医療業務〕

週 3 日間健康相談を行っている。それ以外に，各種入試の医務室業務を行っている。東北大学病院における肝胆膵外科診療および地域医療支援。

遠藤　克哉 助教

〔専門分野〕消化器内科学

〔教育活動〕

授業担当状況：学部専門教育

医学部 4 年生を対象とした講義：「医学部 4 年時通論講義」を担当。

医学部 5 年生を対象とした実習：「下部消化管内視鏡モデル実習」を担当。

医学部 5 年生を対象とした臨床医学修練（一次）教官を担当。

医学部 6 年生を対象とした臨床医学修練（二次）教官を担当。

医学部 6 年生を対象としたチュートリアル講義のチューターを担当。

歯学部学生を対象とした隣接医学講義「下部消化管疾患」を担当。

医学部保健学科を対象とした講義「下部消化管疾患」を担当。

学位論文指導：医学系研究科大学院生の研究指導，論文作成指導を行った。

その他：医学科大学院生のアドバイザー教員を務め，研究面での指導を行った。 また，炎症性腸疾患に関する教科書執筆を行った。

消化器内科臨床カンファランスにおける大学院生の臨床教育を定期的に行った。

〔研究活動〕

論文等：1)（共著）De novo Crohn's disease after orthotopic liver transplantation: a case report and review of the literature. Internal Medicine, (2015),　2)（共著）Ileocecal Ulcers Accompanied by Relapsing Polychondritis: A case report. Springerplus eCollection 2014, (2014),　3)（共著）The Effectiveness of Self-Expandable Metallic Stent Insertion in Treating Right-Sided Colonic Obstruction: A Comparison between SEMS and Decompression Tube Placement and an Investigation of the Safety and Difficulties of SEMS Insertion in Right Colons. Gastroenterol Res Pract, (2014),　4)（共著）Endoscopic submucosal dissection for colorectal neoplasia during the clinical learning curve. Surgical Endoscopy, 28(7), (2014), 2120-2128,　5)（共著）Refractory Sclerosing Mesenteritis Involving the Small Intestinal Mesentery: A Case Report and Literature Review. Internal Medicine, 53(13), (2014), 1419-1427

学会発表等：国内：30 件，海外：2 件。

上記のうち，英文誌報告で特記すべきものは，筆頭著者として Internal Medicine 誌に症例報告を行った 5)があげられる。学会報告に関して特記すべき業績は，筆頭演者として第 10 回 日本消化管学会総会学術集会　コアシンポジウム 2 での発表，第 100 回　日本消化器病学会総会　Research Forum2 での発表，第 69 回　日本大腸肛門病学会学術集会　シンポジウム 2 での発表があげられる。また海外学会では The 2nd Annual Meeting of Asian organization for Crohn's and Colitis（ソウル）で筆頭演者として発表を行った。

その他：厚労省「難治性炎症性腸管障害に関する臨床調査研究（渡辺班）」における臨床研究プロジェクトに参加し，共同研究を実施した。

〔大学運営〕

大学病院内の運営会議に出席した。具体的には小腸移植適応検討委員会，治験倫理委員会，CV ポート造設の安全マニュアル作成ワーキンググループ会議，腸管リハビリテーションセンター開設準備会議などに参加している。小腸移植適応委員会では司会および総括担当し，会議録の作成なども行った。

〔各種業務及び医療業務〕

保健管理センターでの健康相談，健康診断や入試，運動大会等の大学イベント時の保険医としての業務を行った。日常業務としては週 6 コマ学生や教員を対象とした健康相談を行った。また各種入試の医務室業務を行った。大学病院では消化器内科の診療（外来，入院，検査，休日夜間の日当直業務）を行った。

〔社会貢献〕

学会活動：2014.11.30 第 26 回 日本消化器内視鏡学会東北セミナー（盛岡）で講師担当。消化器内科の内視鏡専門医向けに講演「大腸癌の内視鏡診断と治療の現状」を行った。

社会教育活動：2014.10.7 患者さん向けの難病医療講演会（大崎市）で講師担当。炎症性腸疾患患者さん向けの自治体主催の公開講座で講演「炎症性腸疾患と最新の治療情報」を行った。

その他：2014.4.4 大腸がん精密検査登録研修会（仙台市医師会主催）で講師担当。医師会主催の医師向け講演「大腸疾患の内視鏡診断～非上皮性腫瘍・炎症性疾患にスポットをあてて～」を行った。

北　浩樹 助教

〔専門分野〕歯科矯正学，健康情報学

〔教育活動〕

教材開発等：デジタルサイネージを用いた学生向け健康情報供覧システムの開発

その他：日本矯正歯科学会認定医

〔研究活動〕

論文等：（共著）『顎変形症に関連した新聞報道　－1994 年～2013 年の主要 5 紙を対象として－』（日本顎変形症学会雑誌．24（4）：298-304，2014）

学会発表等：『顎変形症に関する新聞報道』（第 24 回日本顎変形症学会・総会，福岡，6/9-11，2014）

〔大学運営〕

全学委員会：本部等事業場安全衛生委員会

部局内委員会：施設整備委員会

〔各種業務及び医療業務〕

医療業務：1）定期健康診断における歯科診療，2）有機溶剤・特定化学物質取扱学生特殊健康診断における歯科診療，3）歯科外来における歯科診療，4）禁煙外来における診療。

機構の業務：PD プログラム 健康教育 W-04 健康科学セミナー「喫煙と歯科疾患」

保健管理センター業務：1）歯科診療室の管理運営，2）年報の編纂，3）ホームページの管理運営，4）デジタルサイネージの管理運営。

〔社会貢献〕

学会活動：全国大学保健管理研究集会東北研究集会・第 53 回東北地方部会研究集会（平成 27 年 7 月 16，17 日，仙台）の運営委員を務め，開催準備の実務に尽力した。

社会教育活動：仙台市教育委員会「仙台自分づくり教育」（キャリア教育）による中学生の職場体験活動の一環として，本学保健管理センター歯科診療室にて歯科医療の職場体験を行った（11 月 7 日）。実際の医療現場における中学生の職場体験はほぼ不可能であり貴重な職場体験を提供した。

その他：1) 老人介護施設にて講演「介護老人の口腔衛生と口腔ケア」（12 月 18 日，仙台）。介護老人の死因の一定割合を占める口腔内細菌由来の誤嚥性肺炎予防の啓発活動に努めている．2) 3 つの歯科医院の非常勤歯科医師。

玉井　ときわ 助教

〔専門分野〕呼吸器内科学

〔教育活動〕

医学部 5 年次の臨床実習の指導を 3 週に 1 名の頻度で行った。また，医学部 6 年次の臨床実習の指導を 1 ヶ月間担当した。

臨床研修医を受け入れ，2 ヶ月間指導を行った。

社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構により，医学系共用試験 OSCE 認定評価者（医学系）と認定された。

臨床指導医講習会へ参加し，臨床指導医の資格を得た。

膠原病肺疾患研究会での症例発表の指導を行った，

日本内科学会東北地方会において研修医の臨床症例発表の指導を行った。

研修医による院内 CPC 発表の際に指導を行った。

〔研究活動〕

論文等：（共著）Chronic inflammation, lymphangiogenesis, and effect of an anti-VEGFR therapy in a mouse model and in human patients with aspiration pneumonia, The Journal of Pathology, Volume 235, Issue 4, pages 632–645, March 2015

〔大学運営〕

各種支援活動：東北大学病院　女性医師支援センター委員として，院内の女性医師への各種支援を行った。

〔各種業務及び医療業務〕

医療業務：大学病院呼吸器内科にて，病棟・外来診療を通じ日常的に患者の診療を担当した。

保健管理センター業務：新入生健康診断における内科診察。学医として週 3 日間健康相談。各種入試の医務室業務。

〔社会貢献〕

社会教育活動：宮城県消防学校の講師として，胸部疾患に関する授業を行った。

中西　史 助教

〔専門分野〕移植・再建・内視鏡外科

〔教育活動〕

授業担当状況：医学部 2 年次 PBL チューター，4 年次チュートリアルチューター，5 年次臨床修練指導教官，臨床実習講義担当，6 年次高次修練指導教官

〔研究活動〕

論文等：1)（共著）Pure laparoscopic hepatectomy combined with a pure laparoscopic pringle maneuver in patients with severe cirrhosis. Case rep Gastroenterol 2015;9(1):101-105.　2)（共著）Long-Term Survival with Growth Hormone Replacement after Liver Transplantation of Pediatric Nonalcoholic Steatohepatitis Complicating Acquired Hypopituitarism. Tohoku　J Exp Med 2015;235(1):61-7.　3)（共著）The dissection profile and mechanism of tissue-selective dissection of the piezo actuator-driven pulsed water jet as a surgical instrument: laboratory investigation using Swine liver. Eur Surg Res 2014;53(1-):61-72.　4)（共著）Edaravone, a free radical scavenger, improves the graft viability on liver transplantation from non-heart-beating donors in pigs. Transplant Proc. 2014;46(4):1090-4.　5)（共著）Impact of the 2011 Great East Japan Earthquake on the resumption of alcohol consumption after living-donor liver transplantation for alcoholic cirrhosis: a report of two cases.　Transplant Proc 2014;46(3):992-4.　6)（共著）Risk factors for portal vein stenosis in living-donor liver transplantation. Transplant Proc. 2014;46(3):689-91.

学会発表等：ピエゾ駆動方式パルスウォータージェットメスを用いた肝切除　ブタ生存実験における超音波外科吸引装置 SonoSurg との比較検討　第１１４回日本外科学会定期学術集会

〔大学運営〕

大学病院の医療安全推進室員

〔各種業務及び医療業務〕

週３回健康相談を行っている。また各種入試の医務室業務を行っている。大学病院では移植・再建・内視鏡外科で診療を行っている。

山本　沙織 助教

〔専門分野〕医学　循環器内科

〔教育活動〕

基礎修練，高次修練の学生への指導

〔研究活動〕

学会発表等：1)（共同）Percutaneous Transluminal Balloon Angioplasty Ameliorates Metabolic and Renal Dysfunctions Associated With Hemodynamic Improvement in Patients With Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension, AHA2014, 2014.11.15-19, Chicago,　2)（共同）Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty Improves Hemodynamics and Right Ventricular Function in Patients with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension –One Year Follow-up Study, AHA2014, 2014.11.15-19, Chicago,　3)（共同）慢性肺血栓塞栓性肺高血圧症に対する薬物療法の効果，第 18 回日本心不全学会学術集会，2014.10.12，大阪，4)（共同）後毛細管性肺高血圧症における一酸化窒素吸入肺血管半反応試験による検討，第 62 回日本心臓病学会，2044.9.26-28，仙台

〔各種業務及び医療業務〕

週に３日，健康相談を行っている。また，各種入試の医務室業務を行っている。

Ⅳ 資　料　編

1. 統計データ

（1）グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

○「第２回　東北大学の教育と学修成果に関する調査」実施（平成 27 年 2～3 月）

・10 学部，19 研究科等，2 研究科（専門職）で調査を実施

・調査票回収率：学士課程 61.4%，修士課程 61.1%，博士課程 62.4%，専門職課程 39.6%

（2）実践的英語運用能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

○多読法による英語教育プログラムの授業実践（1 年次「英語Ａ」の場合）

・開講クラス数：前期 18 クラス，後期 12 クラス，計 30 クラス（全体の 21.7%）

・受講者数：前期 約 700 名，後期 約 460 名，計 約 1,160 名

○高度な英語能力養成を目指す全学教育科目「プラクティカル・イングリッシュスキルズ」開講

・開講クラス数：前期 3 クラス，後期 3 クラス，計 6 クラス

・受講者数：前期 44 名，後期 25 名，計 69 名

○英会話支援プログラムの開発・推進

・学習支援センターでの「英会話カフェ」「1on1 英会話」の実施

表２－１　「英語Ａ」における多読法を取り入れた授業実践（H24～H26）

	H24	H25	H26
開講クラス数	12	22	30
全体に占める割合（%）	8.7%	15.9%	21.7%
受講者数（人）	約 460	約 850	約 1,160

表２－２　「プラクティカル・イングリッシュスキルズ」開講実績（H25～H26）

		H25	H26
開講クラス数		4	6
受講者数（人）		45	69

表２－３　「英会話カフェ」「1on1 英会話」利用者数（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
延べ利用者数	161（※）	336	698

※H24 年度は「英会話ゼミ」の名称で実施

（3）現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

○全学教育科目「自然科学総合実験」「文科系のための自然科学総合実験」の実施

・自然科学総合実験実施委員会：年 4 回程度開催

・理科実験スタッフミーティング：毎週開催

・自然科学総合実験教員 TA ガイダンス：セメスター開始前に開催

・自然科学総合実験受講学生ガイダンス及びレポート作成演習：第 1 回の授業時に開催

・独自アンケートの実施とその解析：（理系）回答数 1,533，回答率 94.1%，（文系）回答数 41，回答率 95.3%

（4）多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

○国際共修ゼミ（日本語）／国際共修（英語：新規開講）の充実

・クラス数：34，延べ受講者数：982 名（内訳：日本人学生 542 名，留学生 440 名）

表４－１　国際共修ゼミ開講クラス数（H24～H26）

	H24	H25	H26
日本語クラス	12	19	25
英語クラス	－	－	9
計	12	19	34

表４－２　国際共修ゼミ（日本語）受講者数（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
日本人学生	192	224	486
外国人留学生	66	291	319
計	258	515	805

表４－３　国際共修ゼミ（英語）受講者数（H26）（単位：人）

			H26
日本人学生			56
外国人留学生			121
計			177

○短期国際交流活動の推進

・東北大学サマープログラム（TUJP，TSSP）における学生ボランティア

表４－４　東北大学サマープログラムボランティア学生数（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
TUJP（H25～）	－	47	44
TSSP	43	32	20
計	43	79	64

（５）留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

①戦略的受入れの推進

○中国清華大学，国立応用科学院リヨン校，フランス国立中央理工科大学院，スウェーデン王立工科大学とのダブル・ディグリープログラム

・受入学生数：８名，派遣学生数：２名

○国際学士コース（理学部先端物質科学コース，工学部国際機械工学学士コース，農学部国際海洋生物科学コース）の継続実施

・志願者数：80 名，合格者数：32 名，入学者数：22 名

○交換留学生の受入れ促進

・JYPE（自然科学系短期留学生受入プログラム），IPLA（人文社会科学系短期留学生受入プログラム），COLABS（研究型短期留学生受入プログラム），DEEP（直接配置型受入プログラム）の実施

○短期研修プログラムの整備

・TUJP（日本語・日本文化サマープログラム），TSSP（自然科学系学部生対象プログラム），夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラムの実施

○外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）の継続実施

・日本語研修コース（大学院・教員研修予備教育）の研修生数: 前期 17 名，後期 8 名

・日韓共同理工系学部留学生プログラムの研修生数: 7 名

○外国人留学生等特別課程（日本語）の継続実施

・受講者数: 前期 281 名，後期 423 名

表５－１　ダブル・ディグリープログラム交流実績（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
受入学生数	4	6	8
派遣学生数	1	2	2

表５－２　JYPE，IPLA，COLABS，DEEP 受入学生数（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
JYPE	54	56	72
IPLA	20	33	47
COLABS	20	27	33
DEEP	44	51	57

表５－３　TUJP，TSSP，日本語・日本文化研修プログラム受入学生数（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
TUJP	－	23	18
TSSP	21	23	24
日本語・日本文化研修プログラム	14	23	23

②戦略的派遣の推進

○スタディアブロードプログラム（SAP）の開発・実施

・プログラム数：18，派遣者数：285 名

○多様な派遣プログラムの開発・実施

・研究型海外研鑽プログラム：派遣者数 34 名，入学前海外派遣プログラム：派遣者数 15 名

○東北大学グローバルリーダー（TGL）育成プログラムの推進

・登録者数：1,322 名，指定科目：224 科目，TGL 修了者：3 名，グローバルリーダー認定者：6 名

表５－４　SAP 実施状況（H24～H26）

	H24	H25	H26
プログラム数	5	17	18
派遣者数（単位：人）	121	275	285

表５－５　TGL プログラム実施状況（H25～H26）

		H25	H26
登録者数（単位：人）		642	1,322
指定科目数		200	224
TGL プログラム修了者数（単位：人）		0	3
グローバルリーダー認定者数（単位：人）		2	6

（6）自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生支援の推進

①学習支援（学習支援センター）

○SLA サポートシステムによる学習支援活動

・理系支援担当 SLA（前期 31 名・後期 34 名）による個別対応型学習支援：2,803 名

・授業連携型学習支援：連携授業 8 クラス（教員 6 名）

・自主ゼミ支援：活動ゼミ 6，名簿登録学生数 113 名

表６－１　理系支援担当 SLA による個別対応型学習支援実績（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
延べ支援人数	1,886	1,337	2,803

②学生相談・援助活動（学生相談・特別支援センター）

○相談・援助・予防活動

・学生や教職員，家族等からの相談に対する個別支援：来談者数 743 名，対応回数 4,440 回

・ハラスメント全学学生相談窓口における相談・援助活動：相談件数 10 件，対応回数 97 回

・特別支援室（H26.4 設置）での障害を持つ学生，学生と関わる教職員等への専門的支援
：来談者 38 名，対応回数 446 回

・学生相談・特別支援等に関する FD：18 回（学生支援審議会 FD：4 回，部局 FD：14 回）

○全学的支援体制の構築

・川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング：来談者数 12 名，相談回数 14 回

・雨宮キャンパスでの出張相談：来談者数 12 名，相談回数 44 回

・星稜キャンパスでの出張相談（H26.12 から開始）：来談者数 5 名，相談回数 13 回

表６－２　学生相談における来談者数（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
学生相談所	755	729	714
キャリア・カウンセリング	13	11	12
農学部出張カウンセリング	18	20	12
星陵キャンパス出張カウンセリング	－	－	5
計	786	760	743

表６－３　学生相談における相談回数（H24～H26）（単位：回）

	H24	H25	H26
学生相談所	3,645	3,687	4,369
キャリア・カウンセリング	27	13	14
農学部出張カウンセリング	88	61	44
星陵キャンパス出張カウンセリング	－	－	13
計	3,760	3,761	4,440

表６－４　ハラスメント全学学生相談窓口における相談件数および対応回数（H24～H26）

	H24	H25	H26
相談件数（件）	20	19	10
対応回数（回）	85	153	97

表６－５　FD 等の実施回数（H24～H26）（単位：回）

	H24	H25	H26
FD・SD（学生支援審議会 FD，部局 FD を含む）	12	11	18
部局と連携した学生対象の講演	4	5	5
部局新入生オリエンテーション等	15	18	19
計	31	34	42

○新入生を含む全学生を対象とした，大学生活への適応状態や震災の心身への影響を把握するための調査の実施

・回答者数 10,713 名（回収率 60.0%），PTSD ハイリスク群 427 名(有効回答数 9,973 のうちの 4.3%)

表６－６　全学生対象調査の概要（H24～H26）

	H24	H25	H26
回答者数（人）	9,437	10,617	10,713
回収率（%）	55.3%	59.0%	60.0%
PTSD ハイリスク群（人）	585	494	427
有効回答者に占めるハイリスク群の割合（%）	6.3%	5.0%	4.0%

③健康に関する支援活動（保健管理センター）

○各種健康診断事業，診療及び日常の健康相談

・学生定期健康診断：受診者数 13,447 名（受診率 75.3%）

・学生特殊健康診断：受診者数 7,110 名

・結核健診（学生ツベルクリン反応検査）：受診者数 636 名

・診療及び日常の健康相談：受診者数 4,323 名

表６－７　学生定期健康診断受診者数および受診率（H24～H26）

	H24	H25	H26
受診者数（人）	12,995	13,490	13,447
受診率（%）	71.9%	75.4%	75.3%

表６－８　各種健康診断，診療及び日常の健康相談受診者数（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
学生特殊健康診断	7,066	7,164	7,110
結核健診（学生ツベルクリン反応検査）	673	468	636
診療及び日常の健康相談（学生及び職員）	5,964	5,254	4,323

○健康に関する講演会等の開催

・健康科学講演会（学生対象）：年 1 回

・健康科学セミナー（教職員対象）：年 4 回

④キャリア支援活動（キャリア支援センター）

○全学教育科目でキャリア教育科目開講

・開講科目数：4 科目，受講者数：91 名

○就職支援のための各種支援プログラム実施

・事業件数：37 件，開催回数：71 回

・参加者数：学部学生延べ 3,828 名，大学院学生延べ 6,839 名，その他既卒者等延べ 579 名，計 11,246 名

○進路や就職に関する個別相談

・対応件数：学部学生 766 件，大学院学生 994 件，その他既卒者等 72 件，計 1,832 件

表６－９　全学教育におけるキャリア教育科目の開講科目数および受講者数（H24～H26）

	H24	H25	H26
開講科目数	4	6	4
受講者数（人）	125	202	91

表６－１０　就職支援のための各種支援プログラム事業件数、開催回数および延べ参加者数（H24～H26）

	H24	H25	H26
事業件数	20	28	37
開催回数	63	67	71
延べ参加者数（人）	9,607	9,618	11,246

表６－１１　進路や就職に関する個別相談対応件数（H24～H26）

	H24	H25	H26
対応件数	1,588	1,685	1,832

⑤課外活動支援（課外・ボランティア活動支援センター）

○被災地復興支援ボランティア活動の支援

・各種ボランティアツアーの実施：41 回延べ 93 日間開催，本学学生参加者数 513 名

表６－１２　ボランティアツアー開催回数及び延べ参加学生数（H24～H26）

	H24	H25	H26
開催回数	11	47	41
延べ参加学生数（人）	260	590	513

（７）東北大学型 AO 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

○入試広報活動の推進

・オープンキャンパス：7 月 30/31 日の 2 日間実施，参加者数 55,147 名

・高校生対象の進学説明会：参加者数（札幌）317 名，（大阪）133 名，（東京）697 名

・高校教員対象の入試説明会の開催：18 会場，480 名参加

・高校及び民間業者主催の入試説明会・相談会への参加：13 会場

表７－１　オープンキャンパス参加者数（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
参加者数	57,445	61,631	55,147

表７－２　高校生対象の進学説明会参加者数（H24～H26）（単位：人）

	H24	H25	H26
札幌会場	286	280	317
東京会場	489	563	697
大阪会場	132	212	133

表７－３　高校教員対象の入試説明会の開催実績（H24～H26）

	H24	H25	H26
会場数	18	18	18
参加者数（人）	451	436	480

（８）教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

○専門性開発セミナーの開催

・提供セミナー数：49 回，参加者数：1,888 名

・受講満足度（全体）：3.56/4.00

○セミナー動画のオンライン配信

・提供動画数：26，動画閲覧数：11,854 回

○海外大学と連携した派遣プログラム

・大学教員準備プログラム：UC バークレー校へ 5 名派遣

・新任教員プログラム：全国から 8 名（和歌山大学，京都産業大学，福島大学，東北大学）参加

・履修証明プログラム「大学教員人材育成プログラム」：全国から 8 名（国際教養大学，岩手県立大学，会津大学，芝浦工業大学，龍谷大学，広島大学，山口県立大学，東北大学）参加

○大学職員能力開発プログラム

・提供セミナー数：4 回，参加者数：東北大学職員 54 名，他大学 48 名

表８－１　専門性開発セミナー開催実績（H24～H26）

	H24	H25	H26
提供セミナー数	40	35	49
内，高等教育のリテラシー形成関連(L)	16	9	16
専門教育での指導力形成関連(S)	2	3	3
学生支援力形成関連(W)	3	3	2
マネジメント力形成関連(S)	4	10	7
その他	15	8	18
参加者数（人）	2,030	1,941	1,888

表８－２　セミナー動画のオンライン配信提供動画数および閲覧数（H24～H26）

	H24	H25	H26
提供動画数	6	19	26
内，高等教育のリテラシー形成関連(L)	4	8	14
専門教育での指導力形成関連(S)	1	4	4
学生支援力形成関連(W)	－	－	1
マネジメント力形成関連(S)	－	5	5
その他	1	2	2
動画閲覧数	－	－	11,854

3. 外部資金獲得状況

（単位：千円）

受入年度	科学研究費補助金		受託研究		共同研究		寄 附 金	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成 26 年度	37	55,652	3	6,247	2	2,224	7	3,764

※科学研究費補助金，受託研究，共同研究は，直接経費と間接経費の合計額である。また，他大学からの分担金を含めている。
※科学研究費補助金には，厚生労働科学研究費補助金（分担金）を含めている。

4. 共同研究員受入状況

氏 名	研 究 課 題	研 究 期 間	本務先の所属・職	受入教員
土持 法一	北米における大学教員養成及びポートフォリオの調査研究	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	帝京大学総合教育センター・教授	羽田教授
藤村 正司	大学の地域貢献の持続可能性に関する社会学的研究	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	広島大学高等教育研究開発センター・教授	羽田教授
加藤 かおり	大学教員の専門職能開発	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	新潟大学教育・学生支援機構大学教育機能開発センター・准教授	羽田教授
鳥居 朋子	大学教育マネジメントにおけるIR活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	立命館大学教育開発推進機構・教授	羽田教授
渡部 芳栄	大学教育開発とマネジメント能力の形成に関する研究	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	岩手県立大学高等教育推進センター・特任准教授	羽田教授
丸山 和昭	大学教員のキャリアと専門性開発に関する研究	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	福島大学総合教育研究センター・特任准教授	羽田教授
Sophie Arkoudis	Cross-Cultural Understanding and the Internationalisation of Curriculum and Teaching in Higher Education	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	Associate Professor in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	羽田教授
Chi Baik	The Professional Development of Faculty for Academic Excellence	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	Lecturer in Hihger Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	羽田教授
Laura D. Hahn	Diveloping a course on teaching in English for non native speaker of English	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	Director,Intensive English Institute, University of Illinois at Urbana-Champaign	羽田教授

5. 規程類

(1)東北大学高度教養教育・学生支援機構規程

平成２６年３月２５日
規 第 ２６ 号

（趣旨）

第１条 この規程は，東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（目的）

第２条 本機構は，東北大学（以下「本学」という。）の学内共同教育研究施設等として，高度教養教育及び学生支援に関する調査研究，企画及び提言並びにそれらの方法の開発及び実施を関係部局との連携の下，一体的に行うことにより，本学の教育の質の向上に寄与することを目的とする。

（職及び職員）

第３条 本機構に，次の職及び職員を置く。

機構長
副機構長
部門長
院長
教授
准教授
講師
助教
助手
総長特命教授
技術職員
その他の職員

２ 前項に定めるもののうち，別に定めるものは，学校保健安全法（昭和３３年法律第５６号）第２３条第１項に規定する学校医とする。

（機構長）

第４条 機構長は，機構の業務を掌理する。

２ 機構長は，総長が指名する理事若しくは副学長又は本学の専任の教授をもって充てる。

３ 機構長の任期は，２年（理事又は副学長にあっては，その任期）とし，再任を妨げない。

（副機構長）

第５条 副機構長は２人とし，機構長の職務を補佐する。

２ 副機構長は，本学の専任の教授をもって充てる。

３ 副機構長の任期は，機構長の任期の範囲内とし，再任を妨げない。

（部門長）

第６条 部門長は，第８条に規定する部門の業務を掌理する。

２ 部門長は，本機構の専任の教授をもって充てる。

３ 部門長の任期は，機構長の任期の範囲内とし，再任を妨げない。

（院長）

第７条 院長は，次条に規定する教養教育院の業務を掌理する。

２ 院長は，総長が指名する理事若しくは副学長又は本学の専任の教授をもって充てる。

３ 院長の任期は，２年（理事又は副学長にあっては，その任期）とし，再任を妨げない。

（部門，教養教育院等）

第８条 本機構に，高等教育開発部門，教育内容開発部門及び学生支援開発部門並びに教養教育院を置く。

２ 高等教育開発部門に，次に掲げる室を置く。
入試開発室
高等教育開発室
国際化教育開発室
キャリア開発室
３ 教育内容開発部門に，次に掲げる室を置く。
人間総合科学教育開発室
自然科学教育開発室
言語・文化教育開発室
４ 学生支援開発部門に，次に掲げる室を置く。
臨床教育開発室
臨床医学開発室
（業務センター）
第９条 本機構に，業務組織として，業務センターを置く。
２ 前項の業務センターに，別に定めるところにより，学校保健安全法第７条に規定する保健室を置く。
３ 前項に定めるもののほか，業務センターの組織及び運営については，別に定める。
（教授会議）
第１０条 本機構に，その組織，人事，予算その他運営に関する重要事項を審議するため，教授会議を置く。
２ 教授会議の組織及び運営については，別に定める。
（運営会議）
第１１条 本機構に，本機構の組織及び運営について企画し，及び調整するため，運営会議を置く。
２ 運営会議の組織及び運営については，別に定める。
（高度教養教育諮問会議）
第１２条 本機構に，機構長の諮問に応じて本機構の組織及び運営について協議し，並びに機構長に対して助言及び提言を行うため，高度教養教育諮問会議を置く。
２ 高度教養教育諮問会議の組織及び運営については，別に定める。
（事務）
第１３条 本機構の事務については，国立大学法人東北大学事務組織規程（平成１６年規第１５１号）の定めるところによる。
（雑則）
第１４条 この規程に定めるもののほか，本機構の組織及び運営に関し必要な事項は，機構長が定める。
附 則
１ この規程は，平成２６年４月１日から施行する。
２ 東北大学高等教育開発推進センター規程（平成１６年規第３１１号）及び国立大学法人東北大学国際交流センター規程（平成１７年規第９３号）は，廃止する。

（2）東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規

平成２６年４月１日
制 定

（趣旨）
第１条 この内規は，東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成 年規第 号）第９条第３項の規定に基づき，東北大学高度教養教育・学生支援機構に置く業務センターの組織及び運営について定めるものとする。
（業務センターの設置）
第２条 業務センターとして，別表の左欄に掲げる分野に応じ，同表の中欄に掲げるセンターを置き，その所掌業務は，それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

（業務センターの職及び職員）

第３条 業務センターとして置かれるセンターに，それぞれ次の職及び職員を置く。

一 センター長

二 副センター長

三 その他の職員

（センター長及び副センター長）

第４条 センター長は，当該センターの業務を掌理する。

２ 副センター長は，２人以内とし，センター長の職務を補佐する。

３ センター長は，機構長が指名する本学の専任の教授をもって充て，副センター長は，本学の専任の教授又は准教授をもって充てる。

４ センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない。

５ 副センター長の任期は，センター長の任期の範囲内とし，再任を妨げない。

（雑則）

第５条 この内規に定めるもののほか，業務センターの組織及び運営に関し必要な事項は，機構長が定める。

附 則

この内規は，平成２６年４月１日から施行する。

別表

分野	センター名	所掌業務
教育マネジメント	教育評価分析センター	本学の教育学習活動に関する関連情報・データの収集・分析・提供を行うことを通して，本学における教育改革・改善や教育マネジメントを支援。
	大学教育支援センター	大学関係共同利用拠点の中核組織として，本学及び国内の高等教育機関に対する各種専門開発プログラム（大学院生向け大学教員準備プログラム・新任教員研修プログラムなど）を実施。
	入試センター	現在の入試センターの業務を引き継ぎ，中長期的な本学入試の企画・改善検討（入試設計・分析，追跡調査等），入試業務（センター試験，一般入試等），入試広報（各種説明会，高校訪問，メディア対応，講演，執筆等），高大接続事業（オープンキャンパス支援，講演会／シンポジウム／フォーラム，アウトリーチプログラム等）を実施。
教育開発・実施	言語・文化教育センター	全学教育および高年次教育における語学教育のプログラム開発と実践，多文化理解教育の実施。
	グローバルラーニングセンター	教育国際戦略の提言，国際交流活動の推進とともに，留学生の受け入れ・教育・支援プログラムの開発・充実を図る。学生の海外派遣プログラムの開発・実施等によりグローバル人材育成を推進する。
	学際融合教育推進センター	学部・大学院における学際融合教育の開発と実施。
学習・学生支援	学習支援センター	高校教育から大学教育へのスムーズな移行のため，大学での自律的な学習方法について，相談・指導を実施。
	キャリア支援センター	学部・大学院におけるキャリア開発プログラムの実施，及び就職支援。現在の高度イノベーション博士人財育成センターの機能を統合。
	学生相談・特別支援センター	学生の発達に関する調査研究と学生相談に加え，発達障害学生への支援，教員に対する学生指導への支援・助言を強化。学生相談および障害学生への支援と学生支援に関わる調査研究，教職員の学生支援力向上のための支援
	保健管理センター	学生の健康保持，増進を図るための保健管理に関する専門的業務を実施
	課外・ボランティア活動支援センター	学生の自主的な課外活動，文化やスポーツ，ボランティア活動の総合的な支援と，社会貢献型の体験学習の企画と実施。

(3)東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規

平成２６年４月１日
制 定

（趣旨）

第１条 この内規は，東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成 年規第 号）第１０条第２項の規定に基づき，東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議（以下「教授会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（構成）

第２条 教授会議は，機構長，副機構長及び東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の専任の教授，准教授及び講師並びに業務センターの各センター長（以下「各センター長」という。）をもって構成する。

（審議事項）

第３条 教授会議は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一 本機構の組織に関する事項

二 教員の人事に関する事項

三 予算に関する事項

四 その他運営に関する重要事項

（議長）

第４条 教授会議の議長は，機構長をもって充て，教授会議を主宰する。

２ 機構長が欠けたとき，又は事故があるときは，副機構長が前項の職務を代行する。

（開催）

第５条 教授会議は，原則として毎月１回開催するものとする。

２ 機構長が必要と認める場合は，臨時に教授会議を開催することができる。

３ 機構長は，構成員３人以上から議題を付して要求があったときは，教授会議を開催しなければならない。

（定足数）

第６条 教授会議は，構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ，会議を開き，議決することができない。

（議案）

第７条 機構長は，教授会議の議案を定め，あらかじめ構成員に通知しなければならない。ただし，緊急を要する場合は，この限りでない。

２ 構成員は，議案を発議することができる。

（議決）

第８条 教授会議の議事は，出席した構成員の過半数の同意をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。ただし，別に定めがある場合は，出席した構成員の３分の２以上の同意を要するものとする。

（人事委員会）

第９条 教授会議に，第３条第２号に規定する事項を審議するため，機構長，副機構長，本機構の専任の教授（特定有期雇用職員を除く。）及び各センター長をもって構成する人事委員会を置く。

２ 人事委員会は，構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ，会議を開き，議決することができない。

３ 教授会議は，人事委員会の議決をもって，教授会議の議決とすることができる。

（専門委員会）

第１０条 教授会議に，第３条に規定する事項に関する専門的事項を調査審議（前条に掲げる部分を除く。）させるため，専門委員会を設置することができる。

２ 専門委員会の委員は，機構長が委嘱する。

（構成員以外の者の出席）

第１１条 機構長は，必要があると認めるときは，教授会議の同意を得て，構成員以外の者を教授会議に出席させ

ることができる。

（議事録）

第１２条 機構長は，教授会議の議事録を作成し，次回以後の教授会議に提出してその承認を得なければならない。

（雑則）

第１３条 この内規に定めるもののほか，教授会議の組織及び運営に関し必要な事項は，教授会議の議に基づき，機構長が定める。

附 則

この内規は，平成２６年４月１日から施行する。

(4)東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規

平成２６年４月１日
制 定

（趣旨）

第１条 この内規は，東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成２６年規第２６号）第１１条第２項の規定に基づき，東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議（以下「運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（組織）

第２条 運営会議は，委員長，副委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 教育研究評議会評議員

二 各部門長

三 教養教育院長

四 業務センターの各センター長

五 その他委員長が必要と認めた者若干人

（委員長及び副委員長）

第３条 委員長は機構長をもって，副委員長は１人とし，機構長が指名する副機構長をもって充てる。

２ 委員長は，会務を掌理する。

３ 副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故があるときは，その職務を代行する。

（開催）

第４条 運営会議は，必要に応じて開催するものとする。

（委嘱）

第５条 第２条第５号に掲げる委員は，機構長が委嘱する。

（任期）

第６条 第２条第５号に掲げる委員の任期は，２年とする。ただし，補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

２ 前項の委員は，再任されることができる。

（雑則）

第７条 この内規に定めるもののほか，運営会議の組織及び運営に関し必要な事項は，機構長が定める。

附 則

この内規は，平成２６年４月１日から施行する。

(5)東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規

平成２６年４月１日
制 定

（趣旨）

第１条 この内規は，東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成２６年規第２６号）第１２条第２項の規定

に基づき，東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議（以下「高度教養教育諮問会議」という。）の組織及び運営について定める。

（組織）

第２条 高度教養教育諮問会議は，委員二十人以内をもって組織する。

（委員の範囲）

第３条 委員は，本学の学部学生，大学院学生及び外国人学生（以下「学生」という。）並びに本学の学生の保護者，企業の関係者，地域の関係者，高等学校の関係者等のうちから，機構長が選考する。

（議長及び副議長）

第４条 高度教養教育諮問会議に，議長及び副議長１人を置き，それぞれ委員の互選によって定める。

２ 議長は，高度教養教育諮問会議の会務を総理する。

３ 副議長は，議長の職務を補佐する。

（開催）

第５条 高度教養教育諮問会議は，原則として年１回開催する。

（委嘱）

第６条 委員は，機構長が委嘱する。

（任期）

第７条 委員の任期は，２年とする。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（雑則）

第８条 この内規に定めるもののほか，高度教養教育諮問会議の組織及び運営に関し必要な事項は，機構長が定める。

附 則

この内規は，平成２６年４月１日から施行する。

(6)高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規

平成２６年４月２４日
制 定

（趣旨）

第１条 この内規は，高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）の学術の発展に寄与するため，東北大学及び機構の諸規則に定める身分を有しない者が，機構において一定期間研究活動に従事できるよう，必要な事項を定めるものとする。

（資格及び呼称）

第２条 研究活動ができる者は，博士の学位を有する者又は博士と同等以上の学識を有すると認められる者で，機構の専任教員（以下「受入れ教員」という。）から受入れの承諾を得た者とし，「専門研究員」の呼称を付与する。

（受入れ等）

第３条 専門研究員の受入れは，受入れを希望する者の申請に基づき，機構長補佐会議で審査し，機構教授会議の議を経て，機構長が決定する。

２ 専門研究員の受入れ期間中の諸事項については，受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

（受入期間）

第４条 専門研究員の受入れ期間は１年以内とし，年度を超えないものとする。

なお，必要な場合は更新を認めることとし，更新は２回を限度とする。

（遵守遂行）

第５条 専門研究員は，東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

（待遇）

第６条 専門研究員は機構の管理運営には関与できない。

２ 専門研究員には，給与を支給しない。
３ 専門研究員の健康診断，災害補償等については各自の責任で対応する。
４ 専門研究員は受入れ教員の責任のもと，施設・設備等を利用することができる。
５ 専門研究員の機構内の居所については，受入れ教員の責任において手当てする。
（雑則）
第７条 専門研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は，受入れ教員の申し出に基づき，機構長補佐会議の議を経て，機構長が決定する。
附 則
この内規は，平成２６年４月２４日から施行し，平成２６年４月１日から適用する。
附 則（平成２７年３月１９日改正）
この内規は，平成２７年４月１日から施行する。

(7)高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規

平成２６年４月２４日
制 定

（趣旨）
第１条 この内規は，高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）において共同研究に参画する国内外の研究者が一定期間研究活動に従事できるよう，必要な事項を定めるものとする。
（資格及び呼称）
第２条 研究活動ができる者は，共同研究に参加する国内外の大学，高等専門学校，公的研究機関及び民間企業，団体等に所属する研究者とし，「高度教養教育・学生支援機構共同研究員」（以下，「機構共同研究員」という。）の呼称を付与する。
（受入れ等）
第３条 機構共同研究員の受入れは，受入れを希望する者の申請に基づき，機構長補佐会議で審査し，機構長が決定する。
２ 機構共同研究員の受入れ期間中の諸事項については，受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。
（受入期間）
第４条 機構共同研究員の受入れ期間は１年以内とし，年度を超えないものとする。
なお，必要な場合は更新を認めることとする。
（遵守遂行）
第５条 機構共同研究員は，東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。
（待遇）
第６条 機構共同研究員は機構の管理運営には関与できない。
２ 機構共同研究員には，給与を支給しない。
３ 機構共同研究員の健康診断，災害補償等については各自の責任で対応する。
４ 機構共同研究員は受入れ教員の責任のもと，施設・設備等を利用することができる。
５ 機構共同研究員の機構内の居所については，受入れ教員の責任において手当てする。
（雑則）
第７条 機構共同研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は，受入れ教員の申し出に基づき，機構長補佐会議の議を経て，機構長が決定する。
附 則
この内規は，平成２６年４月２４日から施行し，平成２６年４月１日から適用する。
附 則（平成２７年３月１９日改正）
この内規は，平成２７年４月１日から施行する。

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2014

発　行　2015年12月
発行所　東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education,
Tohoku University
〒980-8576 仙台市青葉区川内41
℡ (022) 795-3819
e-mail: gaku-kikaku@grp.tohoku.ac.jp